七ヶ浜町文化財調査報告書第8集

水浜遺跡

七ヶ浜町教育委員会

七ヶ浜町文化財調査報告書第8集

水　浜　遺　跡

七　ヶ　浜　町　教　育　委　員　会

序　　文

七ヶ浜町は仙台湾、松島湾、塩釜湾と三方を海に囲まれた半島状の町です。町内には、松島湾三大貝塚のひとつにあげられている史跡大木囲貝塚をはじめ、種々の貝塚や製塩などの遺跡が50カ所に点在しております。このことは、古代からここに暮らしてきた人々にとって自然に恵まれた七ヶ浜は、かけがえのない好適地であったからと思われます。海という自然がもたらしてくれる恵みをもとに、人々は日々の糧を得、その営みの中で文化を育んできたといえましょう。

このたび調査報告書が刊行されることになりました水浜遺跡も、製塩という海とのかかわりがもたらしてくれた遺跡であり、これまであまり知られていなかった古代の塩作りの様相を解明することのできる貴重な遺跡のひとつであります。特に今回の調査では、これまでに他の製塩遺跡でみられなかった新しい形態の炉跡が発見されるなど、重要な資料を供与することができました。

この報告書の作成にあたりましては、多くの方々のご協力とご尽力を賜りました。
改めて関係各位に心からお礼を申し上げますとともに、本書が当町の歴史文化を理解していただく一助となりますよう、念じてやみません。

1991年３月

七ヶ浜町教育委員会
教育長　佐　藤　　精　一

例　　言

1. 本書は、宮城県宮城郡七ヶ浜町に所在する水浜遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書の編集および執筆は川村正がおこなった。
3. 本書の作成にあたり、遺構の図面整理や遺物の実測・トレース・拓影・写真撮影及び自然遺物の同定には次の者が分担しておこなった。

   遠藤　紀代子・三浦　のり子・吉嶋　広子・渡辺　行子・岸柳　あきら
4. 本文平面図及び断面図中、Ｓは石、Ｄは土壙、Ｐはピット、小溝をＭと略して記載した。また遺構の略号はＳＩ（竪穴住居跡）、ＳＢ（建物跡）、ＳＤ（溝跡）ＳＫ（土壙）とし、図中のレベルは標高を示している。
5. 本書中の遺物の実測図は、原則として坏など小型のものを1/3に、甕など大型のものは1/4の縮尺に統一した。
6. 本書の作成にあたり、東北歴史資料館、宮城県教育庁文化財保護課、多賀城市埋蔵文化財センターの各位より、ご指導とご助言をいただいた。
7. 本書の土色については、「新版標準土色帖」（小山・竹原1973）を使用した。
8. 本書に掲載した地図は、建設省国土地理院発行の２万５千分の１の地形図を複製使用した。
9. 発掘調査により出土した遺物は、七ヶ浜町歴史資料館において保管している。

目　　次

序
例　言

Ⅰ．調査に至るまでの経緯……1
　1．　調査要項……1

Ⅱ．遺跡の立地と環境……3
　1．　立　　地……3
　2．　歴史的環境……3

Ⅲ．発見遺構と遺物……4
　1．　基本層序……4
　2．　遺構と遺物……7
　　(1)　遺　　構
　　(2)　遺　　物

Ⅳ．考　　察……84

Ⅴ．ま　と　め……88

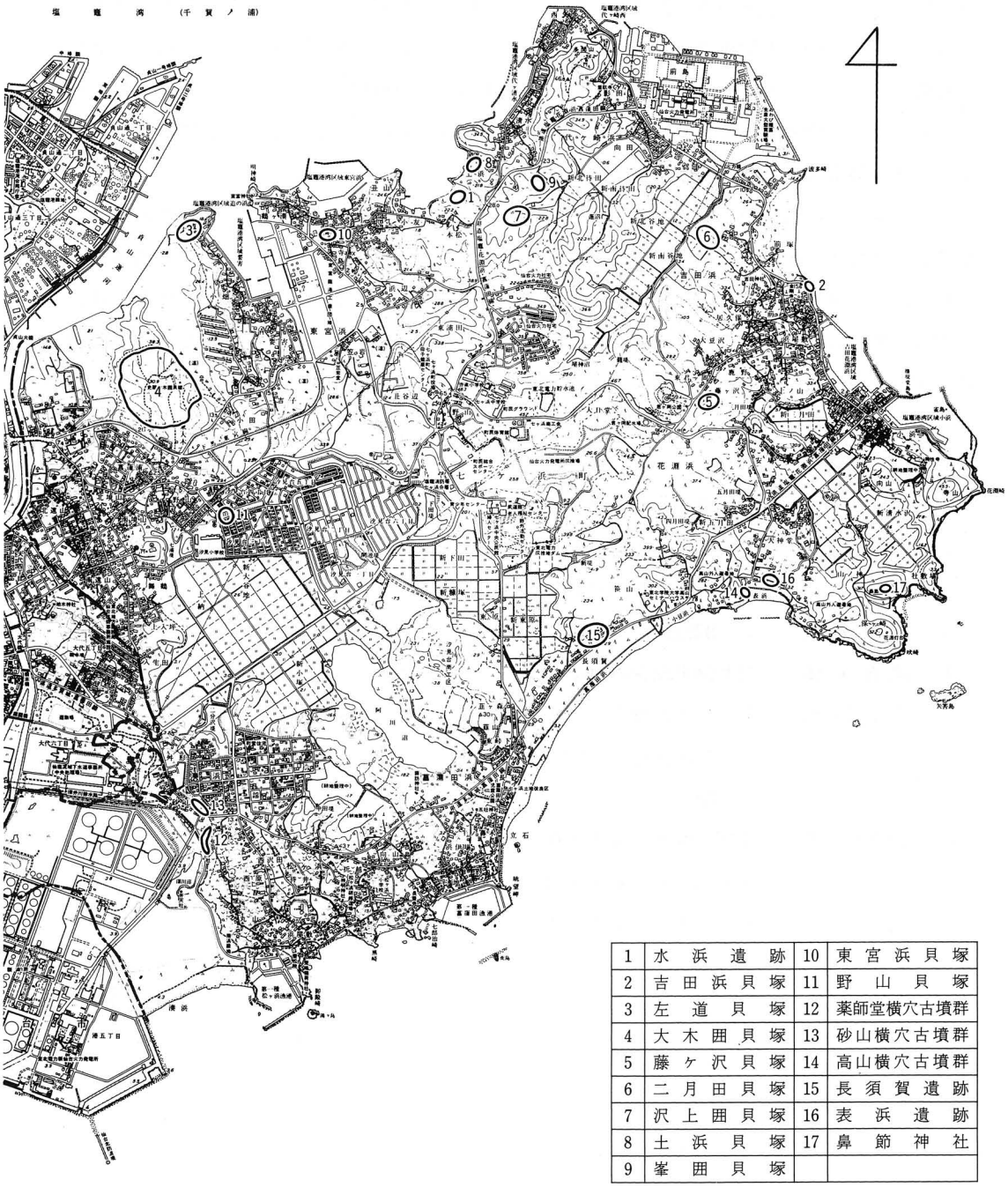
Ⅰ．調査に至るまでの経緯

七ヶ浜町には、東北南部地域における縄文前期から中期の土器編年の核となる史跡大木囲貝塚をはじめとして、早期の吉田浜貝塚や晩期の二月田貝塚など、50余りの埋蔵文化財包蔵地があって、わが国の考古学研究に大きく寄与している。これらの貝塚とともに七ヶ浜町内の遺跡を特徴付けているものとして、海岸線沿いに点在する製塩の遺跡があげられる。水浜遺跡もその中の一つで、昭和43年と44年に加藤孝氏らによる発掘調査が行われており、古墳時代中期のものとする製塩窯跡が５基検出されている。

この水浜遺跡は塩釜湾に面した瀟洒な浜地にあって、長年土地所有者により耕作地として利用されてきたが、後継者不足などで次第に耕地は荒廃化していた。このため土地所有者は共同で耕作地の再利用を図り、町に整備計画実施についての打診がなされた。町教育委員会では、土地所有者らとの協議を重ね計画の変更と協力とを求めたが、所有者たちの整備や再利用計画に対する要望が強いことから、発掘調査を実施する事となった。

1．調査要項

1．遺　跡　名　　水浜遺跡（宮城県遺跡地名表番号20018）
2．調査期間　　（１次）昭和62年８月27日～12月５日
　　（２次）昭和63年６月13日～10月17日
3．調査面積　　約1,323㎡
4．調査主体　　七ヶ浜町教育委員会
5．調査担当　　七ヶ浜町教育委員会社会教育課
　　技術主査　川村　正
　　嘱　　託　熊谷信一　芳賀英実
6．調査参加者　　遠藤紀代子　渡辺静枝　菊地みち子　三浦のり子　渡辺行子
　　岸柳あきら　新沼美恵子　瀬戸源吉　相沢惣五郎　相沢一男
　　米沢しずか　小坂けさ

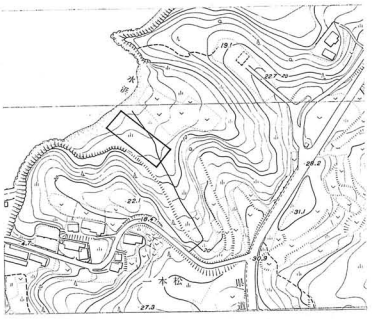


1	水浜遺跡	10	東宮浜貝塚
2	吉田浜貝塚	11	野山貝塚
3	左道貝塚	12	薬師堂横穴古墳群
4	大木囲貝塚	13	砂山横穴古墳群
5	藤ヶ沢貝塚	14	高山横穴古墳群
6	二月田貝塚	15	長須賀遺跡
7	沢上囲貝塚	16	表浜遺跡
8	土浜貝塚	17	鼻節神社
9	峯囲貝塚		

II．遺跡の立地と環境

1．立　　地

水浜遺跡の所在する七ヶ浜町は宮城県の中東部にあり、北と東は塩釜港に南は仙台港に面していて、仙台湾に突き出た半島状の地形を呈している。四極間の距離は東西南北それぞれ４㎞ほどで、面積は13.24㎢となっている。亦楽地区の約64mを最高に、中央部は標高60mほどの丘陵からなり傾斜面は畑地として、海岸に向かい放射状に開いた地域は水田として利用されている。集落は海岸部に形成されていて、沿岸漁業や海苔養殖が主な産業となっている。しかし近年は仙台新港の後背地であることから、各種工場の進出がめざましくなっている。また町の中央部では大規模な団地造成が進められており、隣接する塩釜や多賀城、仙台市からの人口流入がみられ、町の人口も約二万人と増加しベッドタウン化の傾向がみられる。



水浜遺跡は七ヶ浜町役場から北方約１㎞のところに位置し、北西及び北東方向に突き出した小丘陵に挟まれ、塩釜湾に面する小さな海浜にある。

2．歴史的環境

半島状の地形に加え、内陸部に比べて気候が比較的温暖であることから、漁労や狩猟に食を求めることの多かった古代人にとっても、七ヶ浜は生活のしやすい地であったと思われ、町内には各時代の遺跡が点在してみられる。現在までのところ旧石器時代の遺跡は発見されていないが、松島湾岸では最も古いとされている吉田浜貝塚をはじめ、縄文早期末の左道貝塚、前～中期の大木囲貝塚、藤が沢貝塚、後～晩期の二月田貝塚、晩期の沢上囲貝塚などが点在している。水浜遺跡の北側には、小丘陵を挟んで土浜遺跡があり、東側背後に広がる丘陵の反対斜面には、峯囲貝塚がある。

弥生時代のものは縄文晩期から継続するものが多く、東宮浜貝塚(鳳寿寺)、二月田貝塚、野山貝塚などがあり、晩期に開始された土器製塩が継続してみられる事が多い。

古墳時代では、集落跡や高塚古墳は見られないものの、薬師堂、砂山、高山の各地区で凝灰岩の傾斜面を掘り込んで造られた横穴古墳群が出現する。

奈良・平安時代になると、長須賀や表浜などで海岸線に近い砂地から、製塩土器を伴う遺構が確認されている。

このような歴史的環境は花淵浜鎮座の鼻節神社へと受け継がれる。神社の創建は不明だが、「続日本後紀」には承和11年(844)に従五位下に昇叙された記録があり、その後「延喜式内神名帳」では名神大社として登載されている。祭神は猿田彦命で、この神は岐神(ふなどのかみ)や塩焼翁などと異名同神といわれ、この鼻節神社の勧請には、七ヶ浜において縄文晩期から古代にかけて連綿と塩作りが行われてきたという、歴史的背景が少なからずあったためと考えられている。

Ⅲ．発見遺構と遺物

1．基本層序

水浜遺跡における層は、大別して７層に分類される。

１層　10ＹＲ3/3暗褐色シルト質土層で、粘土15％、シルト85％の粘性弱く、しまりのある土層である。土器片と炭化物を少し含んでいる。旧耕作土と思われる。

２層　7.5ＹＲ2/2黒褐色シルト質土層。粘土35％、シルト65％で粘性がありしまりも強い。土器片、炭化物を少し含んでおり、旧耕作土と思われる。

３層　7.5ＹＲ3/2黒褐色シルト土層。粘土40％、シルト60％、粘性しまり共にあり。土器片、炭化物を含んでおり、１層２層と同様に旧耕作土と思われる。

４層　２層に分けられる。４ａ層は10ＹＲ3/3、暗褐色粘質土層。粘土65％、シルト35％と粘性しまり共に強く、土器の混入は少ない。４ｂ層は10ＹＲ2/3のシルト土層。粘土35％、シルト65％でしまりが強い。土器片が多く含まれ、少量の炭化物片もみられる。

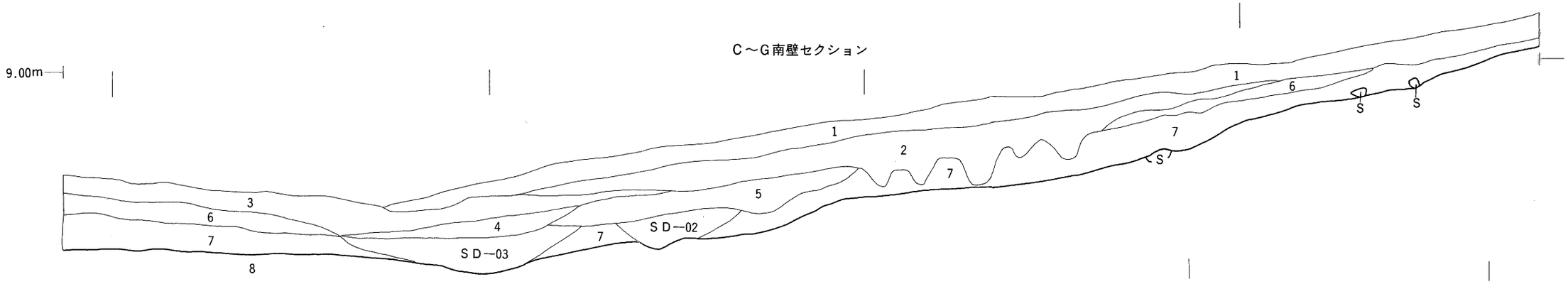
灰層　10ＹＲ4/3褐色を主体とする灰層。粘性しまりが共にないシルト質土層で、焼土・炭化物・焼石・貝殻を含んでいる。

５層　２層に分けられる。５ａ層は10ＹＲ3/1黒褐色シルト土層。粘土45％、シルト55％ほどの粘性しまりが共にあり、少量の土器片が含まれる。５ｂ層は、10ＹＲ2/2の黒褐色シルト土層で、粘土40％、シルト60％、粘性しまりが共にあり、パミス、小礫を多く含んでいる。

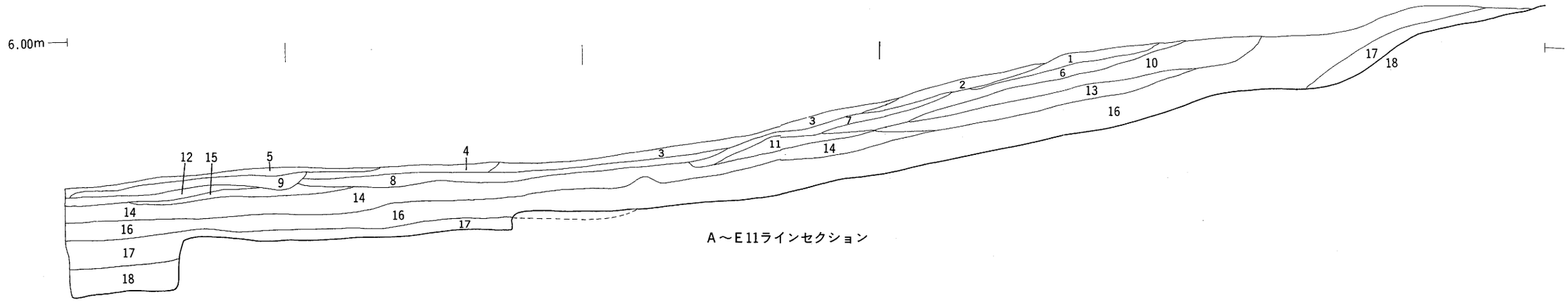
６層　10ＹＲ3/4暗褐色粘質土層で、粘土65％、シルト30％、砂５％からなり、凝灰岩と５cm程の礫を多く含む。７層の前位層と思われる。

７層　10ＹＲ7/6明黄褐色粘質土層、粘土90％、シルト10％と粘性が極めて強く、径４～５cmほどの小礫を多量に含んでいる。地山層。

C～G南壁セクション



A～E11ラインセクション



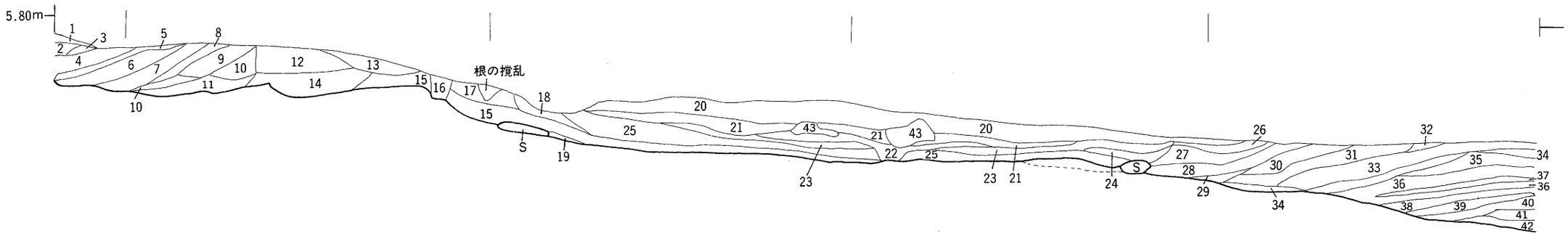
C～Gコーナー南壁セクション

層　位	土　色	土　性	備　考
1層	10YR3/3 暗　褐　色	シ　ル　ト	粘性弱くしまり強い。土器片，炭化物をわずかに含む。
2層	7.5YR2/2 黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性ありしまり強い。土器片，炭化物をわずかに含む。
3層	7.5YR3/2 黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。土器片，炭化物をわずかに含む。
4層	10YR3/3 暗　褐　色	粘　　土	粘性強くしまりあり。土器片は少ない。
5層	10YR2/3 黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性ありしまり強い。土器片多く含み炭化物を少し含む。
6層	10YR3/1 黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。土器片（弥生?）を少し含む。
7層	10YR2/2 黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。パミス，小礫を多く含む。
8層（地山）	10YR3/4 暗　褐　色	粘　　土	粘性強くしまり弱い。凝灰岩，礫（4～5cm）を多く含む。
SD-03	7.5YR4/3 褐　　色	粘　　土	粘性しまり共にあり。この面では単層だが下流の方向では複層になる。
SD-02	10YR3/2 黒　褐　色	粘　　土	粘性しまり共にあり。土器片，凝灰岩，小礫を多く含む。

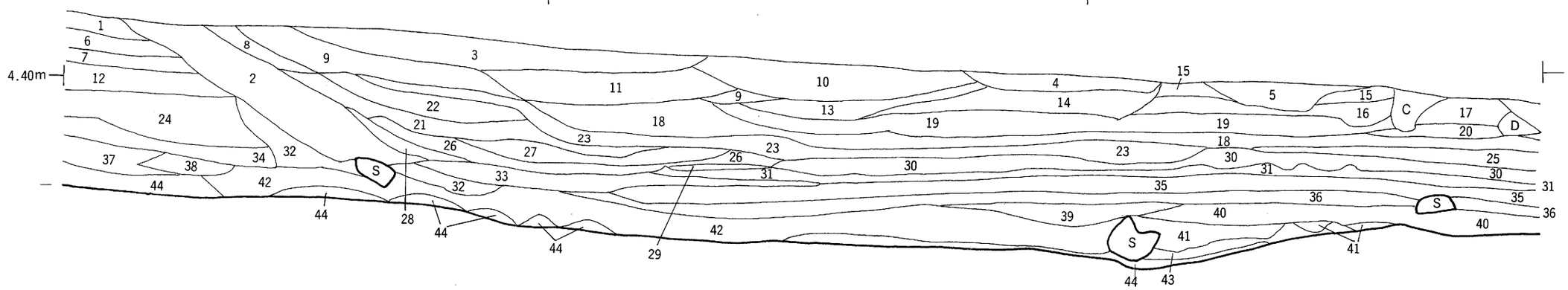
A～E11ラインセクション

層　位	土　色	土　性	備　考
1層	10YR2/2 黒　褐　色	粘質シルト	粘性弱くしまり強い。1層～15層までは基本層位の5層に対応する。
2層	7.5YR2/1 黒　　色	粘質シルト	粘性弱くしまり強い。2～3㎜の小石を含む。
3層	10YR2/2 黒　褐　色	粘質シルト	粘性弱くしまり強い。凝灰岩粒を含む。
4層	7.5YR3/1 黒　褐　色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。凝灰岩粒，小石，土器，細砂を含む。
5層	7.5YR1.7/1 黒　　色	シ　ル　ト	粘性弱くしまり強い。炭化物層，焼土粒を含む。
6層	7.5YR2/2 黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性弱くしまり強い。貝層。アサリ，カキ主体　動物の骨を含む。
7層	10YR2/2 黒　褐　色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。地山崩壊土をブロック状に含む。
8層	7.5YR2/3 極暗褐色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。凝灰岩粒，小石，細砂を含む。
9層	7.5YR2/3 極暗褐色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。凝灰岩粒，小石を含む。
10層	10YR3/2 黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性弱くしまり強い。2～3㎜の凝灰岩粒，1～2cmの小石を多く含む。
11層	10YR2/2 黒　褐　色	粘質シルト	粘性ありしまり強い。
12層	7.5YR3/4 暗　褐　色	粘質シルト	粘性強くしまり弱い。凝灰岩粒，小石，粗砂，土器片，焼土粒を含む。
13層	10YR2/3 黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性弱くしまり強い。2～3㎜の凝灰岩粒を含む。
14層	10YR3/2 黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性ありしまり強い。
15層	7.5YR3/3 暗　褐　色	砂質シルト	粘性しまり共にあり。細砂，炭化物粒，焼土粒，土器片を含む。
16層	10YR2/1 黒　　色	粘質シルト	粘性弱くしまり強い。4～5㎜の凝灰岩粒，2～3cmの小石を多く含む。基本層の6層に対応する。
17層（地山）	10YR7/6 明黄褐色	粘　　土	粘性強くしまり弱い。地山崩壊位層4～5cmの小礫を多く含む。基本層の7層に対応する。
18層（地山）			基本層の7層に対応する。

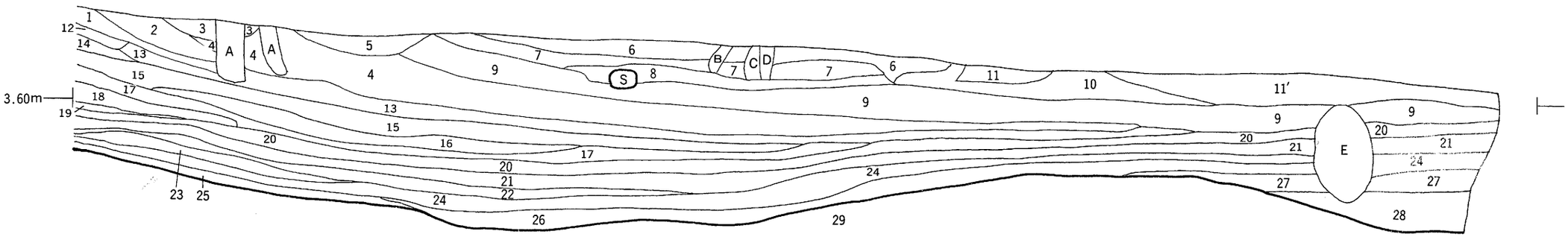
Cライン11，10，9，8セクション



Cライン7，6，5セクション



Cライン4，3，2セクション



Cライン　11．10．9．8　セクション

層　位	土　色	土　性	備　考
1層	7.5YR6/4 にぶい橙色	シルト	粘性しまり強い。灰と炭化物粒を含む。灰層
2層	7.5YR4/4 褐色	シルト	粘性ありしまり強い。灰，炭化物粒，焼土，小石（5～10㎜）土器片を含む。灰層
3層	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	粘性しまり共になし。製塩土器片，貝がら片，炭化物粒をわずかに含む。また貝灰の固まりも含む。
4層	7.5YR4/6 褐色	砂質シルト	粘性なくしまり弱い。製塩土器片，貝がら片，炭化物粒をわずかに含む。また貝灰の固まりを多く含む。灰層
5層	2.5YR7/3 浅黄色	シルト	粘性しまり共に弱い。炭化物粒を含む。灰層
6層	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，貝がら片，焼礫小片をわずかに含む。また炭化物粒と貝灰の固まりが層の全体にみられる。灰層
7層	5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，貝がら片をわずかに含む。炭化物粒，貝灰の固まりをわりと多く含む。灰層
8層	2.5YR6/3 にぶい黄色	シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，貝がら片をわずかに含む。また貝灰の固まりを多く含む。灰層
9層	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	粘性弱くしまりあり。製塩土器片，貝がら片，炭化物粒をわずかに含む。また貝灰の固まりは層全体にみられる。灰層
10層	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	粘性弱くしまりあり。製塩土器片，貝がら，炭化物粒をごくわずかに含む。灰層
11層	5YR3/4 暗赤褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，貝がら片，炭化物粒をわずかに含む。灰層
12層	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	粘性しまり共になし。製塩土器片，貝がら片，炭化物粒，特に貝灰の固まりを多く含む。灰層
13層	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	粘性なくしまり弱い。製塩土器片，貝がら片，炭化物粒，貝灰の固まりを含む。灰層
14層	7.5YR4/6 褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，貝がら片をごくわずかに含む。炭化物の混入は他の層より多く含む。
15層	2.5YR3/3 暗赤褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，貝がら片をごくわずかに含む。炭化物粒，貝灰の固まりを含む。2号炉下部東西セクションの18層に対応。
16層	7.5YR4/4 褐色	シルト	粘性弱くしまりあり。製塩土器片，貝がら片，炭化物粒をわずかに含む。ピット
17層	5YR4/2 灰褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，貝がら片，炭化物粒，貝灰の固まりをわずかに含む。灰層
18層	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，貝がら片をわずかに含む。また黄色の粘土をブロック状に含む。
19層	7.5YR3/4 暗赤褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，貝がら片，炭化物粒を含む。2号炉下部東西セクションの19層に対応
20層	10YR3/3 暗褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。貝がら，凝灰岩粒を含む。灰層
21層	10YR3/3 暗褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。土器片，炭化物粒を含む。灰層
22層	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	粘性強くしまり弱い。土器片，炭化物粒を含む。
23層	7.5YR4/3 褐色	粘質シルト	粘性しまり共に弱い。土器片，炭化物粒，焼土を含む。
24層	10YR4/4 褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。灰，凝灰岩粒，焼土を含む。
25層	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	粘性なくしまり強い。固い灰（2～3㎜）と炭化層（1～2㎜）がサンドイッチ状になっている。
26層	10YR4/6 褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。貝がら，凝灰岩粒，土器片，焼石，焼土を含む。灰層
27層	5YR4/2 灰褐色	シルト	粘性しまり共になし。焼土，炭化物粒，土器片を含む。
28層	10YR4/3 褐色	砂質シルト	粘性ありしまり弱い。焼土，灰を含む。
29層	10YR5/6 黄褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。炭化物粒，焼土，焼石，小石，貝がら片，土器片を含む。灰層
30層	2.5YR5/2 灰赤色	砂質シルト	粘性しまり共になし。炭化物粒，土器片，貝がら（カキ）貝灰?の固まったものを含む。
31層	7.5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	粘性しまり共になし。炭化物粒，土器片（白色の付着物あり塩か?）貝灰?の固まったものを含む。
32層	5YR3/3 暗赤褐色	シルト	粘性しまり共にあり。炭化物粒をわずかに含む。
33層	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	粘性しまり共にあり。炭化物粒貝灰?の固まったものを含む。貝がらもわずかに含む。
34層	5YR4/4 にぶい赤褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。炭化物粒をわずかに含む。貝灰?の大きな固まりを含む。
35層	5YR3/3 暗赤褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。炭化物粒，土器片，貝がらを含む。
36層	7.5YR4/4 褐色	シルト	粘性しまり共にあり。炭化物粒，土器片，貝がら，灰，貝灰の固まったもの多く含む。
37層	10YR4/6 褐色	シルト	粘性しまり共にあり。炭化物粒，土器片，貝がらをわずかに含む。貝灰?の固まりも含む。
38層	7.5YR4/3 褐色	シルト	粘性しまり共にあり。炭化物粒，土器片，貝がらをわずかに含む。
39層	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	粘性しまり共にあり。炭化物粒，土器片をわずかに含み，灰，貝灰の固まりも多く含む。
40層	7.5YR4/4 褐色	シルト	粘性しまり共にあり。炭化物粒，土器片，貝がらを含む。
41層	10YR5/2 灰褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。炭化物粒，土器片，貝がら，焼石を含む。灰，貝灰の固まりも多く含む。
42層	5YR3/3 暗褐色	粘性シルト	粘性しまり共にあり。炭化物粒，土器片をわずかに含む。
43層	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	粘性なくしまり強い。灰の固まり炉壁又は炉の天井?炭化物粒，焼土を含む。

Cライン　7．6．5．　セクション

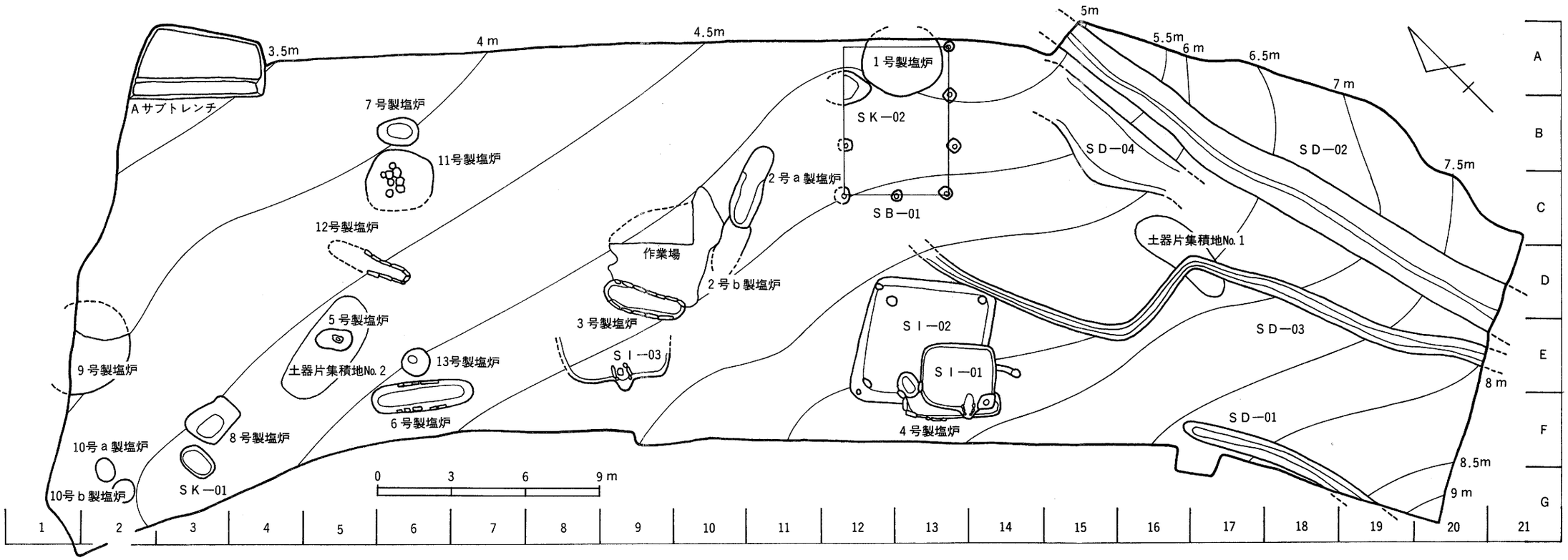
層　位	土　色	土　性	備　考
1層	7.5YR3/4 暗褐色	シルト	粘性弱くしまりあり。小石，炭化物粒，灰，製塩土器片，焼石を含む。
2層	5YR4/4 にぶい赤褐色	シルト	粘性弱くしまりあり。貝がら，製塩土器片，小石灰の固まり，焼石炭化物をわずかに含む。
3層	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	粘性弱くしまりあり。製塩土器片，小石，貝がら，炭化物粒を含む。
4層	10YR4/4 褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，小石，灰の固まり，炭化物粒をわずかに含む。
5層	7.5YR4/4 褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，焼石，灰の固まり，小石，貝がらを含む。
6層	7.5YR3/4 暗褐色	シルト	粘性弱くしまりあり。製塩土器片，貝がら，灰の固まり，炭化物粒をわずかに含む。
7層	7.5YR4/3 褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，小石，灰の固まり炭化物粒をわずかに含む。
8層	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	粘性なくしまり弱い。小石，炭化物粒をわずかに含み，灰の固まりも含む。
9層	7.5YR4/3 褐色	シルト	粘性弱くしまりあり。貝がら，製塩土器片，炭化物粒，灰の固まりを含む。
10層	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，貝がら，灰，炭化物粒をわずかに含む。
11層	5YR4/2 灰褐色	シルト	粘性弱くしまりあり。焼礫，貝がら，灰，炭化物粒をわずかに含む。製塩土器片も含む。
12層	5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，灰，炭化物粒を含む。
13層	2.5YR5/2 灰赤色	シルト	粘性なくしまり強い。製塩土器片を含む。
14層	7.5YR4/4 褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。小石，貝がら，炭化物粒を含む。
15層	2.5YR5/2 灰赤色	シルト	粘性弱くしまりあり。製塩土器片，炭化物粒を含む。
16層	7.5YR3/4 暗褐色	砂質シルト	粘性弱くしまりあり。製塩土器片，貝がら（巻貝）を含む。
17層	7.5YR3/4 暗褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，小石を含む。

層位	土色	土性	備考
18層	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，炭化物粒を含む。
19層	10YR4/4 褐色	シルト質砂	粘性しまり共になし。製塩土器片，貝がら，炭化物粒，小石を含む。
20層	5YR5/3 にぶい赤褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。小石，炭化物粒をわずかに含む。
21層	7.5YR3/4 暗褐色	シルト質砂	粘性なくしまり弱い。貝がら，小石，製塩土器片，炭化物粒，灰を含む。
22層	7.5YR4/4 褐色	シルト	粘性なくしまり弱い。製塩土器片，炭化物粒を含む。
23層	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，炭化物粒をわずかに含み，貝がら，小石，灰の固まりも含む。
24層	5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，炭化物粒をわずかに含み，灰を多量に焼石も含む。
25層	7.5YR4/4 褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。炭化物粒をわずかに含む。
26層	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	粘性しまり共に弱い。灰層，貝がら，灰の固まり，炭化物粒を含む。
27層	5YR3/2 暗赤褐色	砂質シルト	粘性弱くしまりあり。小礫，製塩土器片，炭化物粒をわずかに含む。
28層	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト質砂	粘性しまり共になし。炭化物粒を含む。
29層	7.5YR5/3 にぶい褐色	砂質シルト	粘性しまり共になし。貝灰の固まり，骨らしきものを含む。
30層	5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	粘性なくしまり強い。炉壁又は床（炉の構造物）と見られる。
31層	10YR2/2 黒褐色	シルト	粘性しまり共にあり。貝がら，炭化物粒，小石（2～8㎜）礫を含む。
32層	5YR4/3 にぶい赤褐色	砂質シルト	粘性弱くしまりあり。製塩土器片，貝がら，炭化物粒，小石を含む。
33層	5YR3/3 暗赤褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，貝がら，炭化物粒，小石を含む。
34層	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，灰の固まり，貝がらを含む。
35層	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	粘性なくしまり強い。炉床か？（炉の構造物と見られる）炭化物粒を多く含む。
36層	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	粘性しまり共にあり。炭化物粒を多く含む。焼石，骨も含む。
37層	5YR4/3 にぶい赤褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，灰，炭化物粒を含む。
38層	5YR2/4 極暗赤褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，灰，炭化物粒がわずかに含み，貝がらも含む。
39層	7.5YR3/4 暗褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。貝がら，炭化物粒を含む。
40層	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂	粘性しまり共になし。砂，東側にいくほど粗くなる。貝を含む。
41層	2.5YR4/3 にぶい赤褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，炭化物粒をわずかに含む。
42層	5YR3/2 暗赤褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，土器片（須恵器），小石，炭化物粒をわずかに含む。
43層	5YR4/3 にぶい赤褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。焼石，炭化物粒をわずかに含む。
44層			基本層の5層
C			根の撹乱
D			根の撹乱

Cライン　4．3．2．　セクション

層位	土色	土性	備考
1層	7.5YR5/3 にぶい褐色	シルト	粘性しまり共にあり。礫，土器片を含む。
2層	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。土器片，小石，貝がら小片を含む。
3層	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。土器片，小石，貝がら，炭化物粒を含む。
4層	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。土器片，小石，貝がら，炭化物粒を含む。
5層	7.5YR3/4 暗褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。土器片，貝がら，炭化物粒をわずかに含む。
6層	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	粘性ありしまり弱い。貝がら小片，小石を含む。
7層	7.5YR4/4 褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。土器片，焼礫，貝がら小片，炭化物粒を少々含む。
8層	7.5YR3/3 暗褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。土器片，小石，カキの貝がら，炭化物粒を多く含む。
9層	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。土器片，小礫，貝がら，炭化物粒を含む。
10層	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。カキ貝がら，土器片，小石，焼石片を含む。
11層	7.5YR2/2 黒褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。炭化物を多く含む。土器片も含む。
11'層	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	粘性しまり共にあり。貝がら（アサリ），土器片，礫（10～20cm）を含む。
12層	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。土器片，炭化物粒，貝と骨を含む。
13層	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。土器片，炭化物粒を含む。
14層	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。土器片，炭化物粒を含む。
15層	7.5YR4/4 褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。炭化物粒をわずかに含む。
16層	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。灰の固まり，カキ貝，土器片，炭化物粒を含む。
17層	5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	粘性なくしまり強い。炉，壁又は床（炉の構造物）と見られる。
18層	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	粘性なくしまり強い。炉，床か？（炉の構造物と見られる），炭化物粒を多く含む。
19層	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	粘性しまり共にあり。炭化物粒を多く含み，焼石，骨も含む。
20層	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂	粘性しまり共になし。砂，東側にいくほど粗くなる。貝がらを含む。
21層	7.5YR3/3 暗褐色	砂質シルト	粘性しまり共になし。
22層	5YR3/3 暗赤褐色	砂質シルト	粘性しまり共にあり。炭化物粒，土器片，貝がらを含む。
23層	7.5YR3/3 暗褐色	砂	粘性しまり共になし。貝がらを含む。
24層	10YR4/4 褐色	砂	粘性しまり共になし。貝がら，土器片を含む。
25層	5YR2/3 極暗赤褐色	シルト	粘性しまり共にあり。炉内，体積物（埋土）か？炭化物粒の固まり，焼石，貝がらを含む。
26層	10YR4/4 褐色	砂	粘性しまり共になし。
27層	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂（粗）	粘性しまり共になし。貝がら片を含む。
28層	7.5YR3/3 暗褐色	砂（細）	粘性しまり共になし。貝がら片を含む。
29層			基本層の5層上面
A			根の撹乱
B			根の撹乱
C			根の撹乱
D			根の撹乱
E			根の撹乱

水浜遺跡遺構配置図

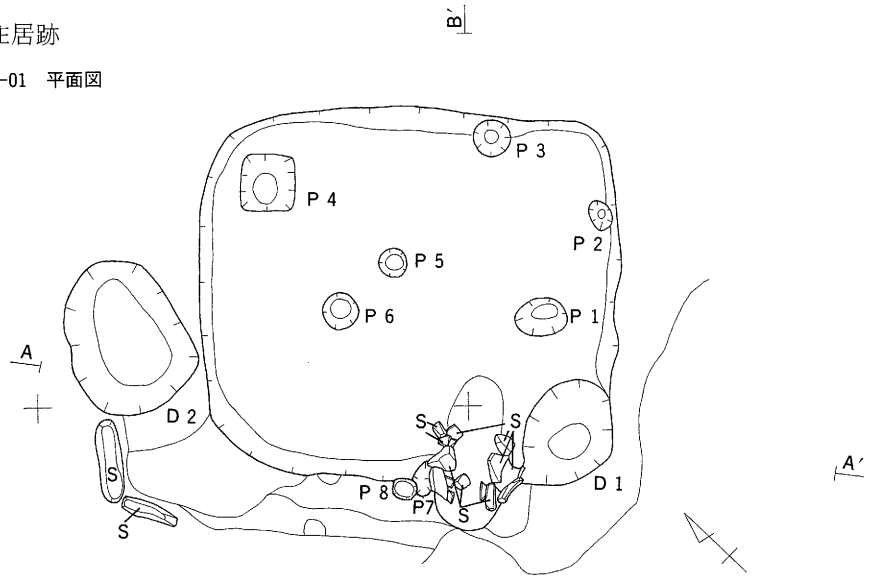

3.5m
4 m
4.5m
5m
5.5m
6 m
6.5m
7 m
7.5m
8 m
8.5m
9 m
Aサブトレンチ
7 号製塩炉
11号製塩炉
12号製塩炉
9 号製塩炉
5 号製塩炉
土器片集積地No. 2
13号製塩炉
6 号製塩炉
8 号製塩炉
10号 a 製塩炉
10号 b 製塩炉
S K —01
作業場
3 号製塩炉
S I —03
1 号製塩炉
S K —02
2 号 a 製塩炉
S B —01
2 号 b 製塩炉
S I —02
S I —01
4 号製塩炉
S D —04
S D —02
土器片集積地No. 1
S D —03
S D —01
0 3 6 9 m
A
B
C
D
E
F
G
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21

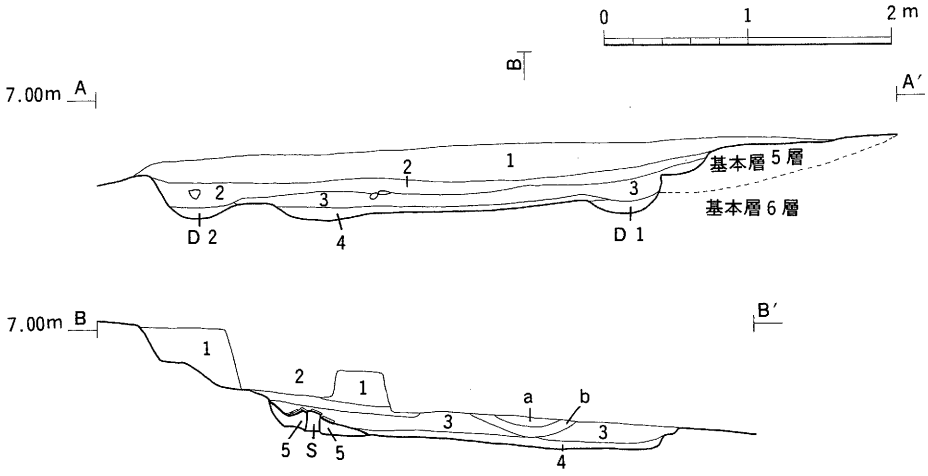
2. 遺構と遺物

(1) 遺　　構

竪穴住居跡

ＳＩ－01　平面図





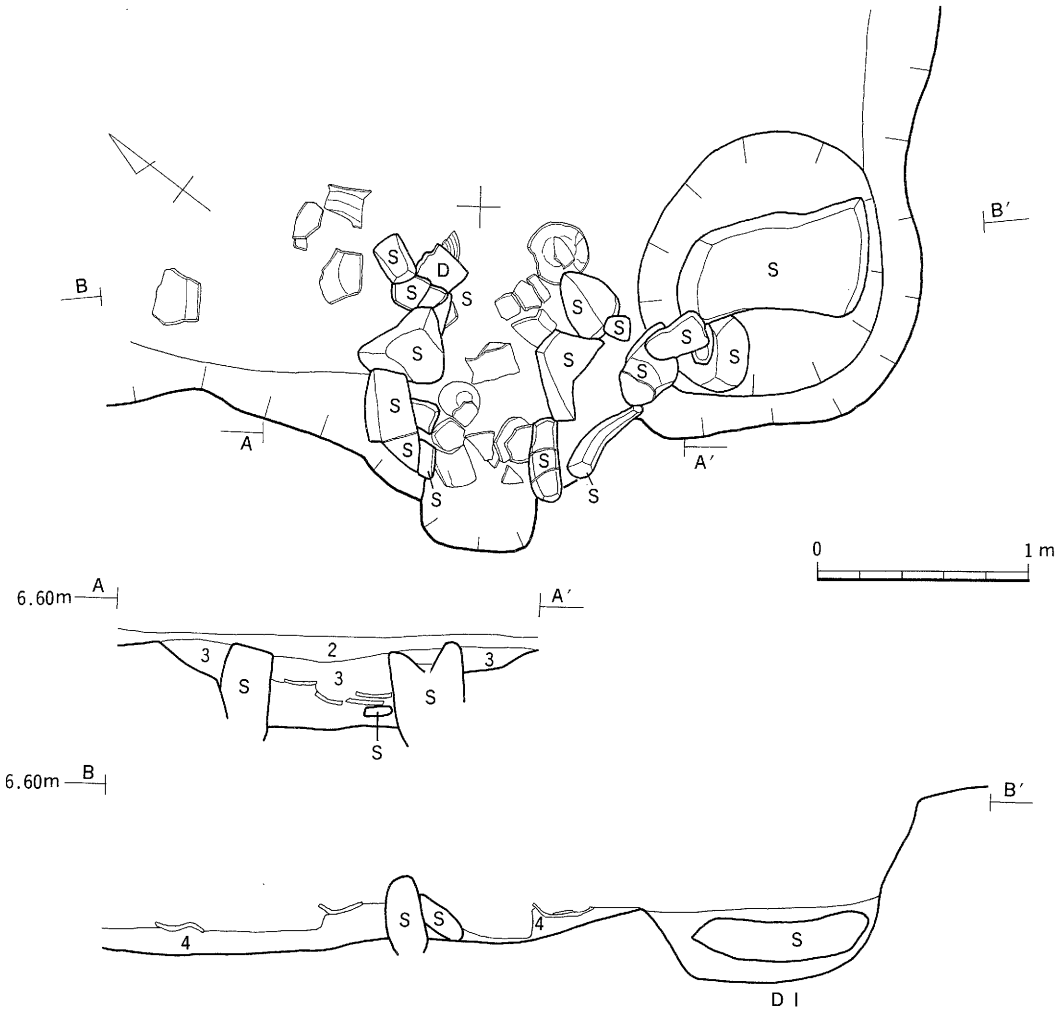
ＳＩ－01　セクション（Ａ－Ａ′）

層　位	土　色	土　性	備　考
1層	7.5YR2/2 黒　褐　色	粘質シルト	粘性強くしまりあり。パミス，土器片，多量に含む
2層	7.5YR3/3 褐　色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。パミス，土器片，焼土，炭化物多量に含む
3層	10YR2/3 黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。パミス焼けた凝灰岩土器片，焼土灰炭化物多量に含む
4層	10YR2/3 黒　褐　色	粘質シルト	粘性弱くしまり強い。炭化物，土器片を多く含む

ＳＩ－01　セクション（Ｂ－Ｂ′）

層　位	土　色	土　性	備　考
1層	7.5YR2/2 黒　褐　色	粘質シルト	粘性強くしまりあり。パミス，土器片，多量に含む。
2層	7.5YR3/3 褐　色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。パミス，土器片，焼土，炭化物多量に含む。
3層	10YR2/3 黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。パミス，焼けた凝灰岩土器片焼土灰炭化物多量に含む。
4層(床面?)	10YR2/3 黒　褐　色	粘質シルト	粘性弱くしまり強い。炭化物，土器片を多く含む。
5層(カマド埋土)	10YR3/2 黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性あり，しまり強い。焼土炭化物，土器片を多量に含む。
a(焼土遺構)	5YR6/6 橙　色	シ　ル　ト	焼土の固まり。(とてもかたい)
b(焼土遺構)	10YR2/2 黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性ありしまい強い。焼土炭化物を含む。

ＳＩ—01　カマド部



ＳＩ—01　カマド内セクション（Ａ—Ａ′）

層　位	土　色	土　性	備　考
2層	7.5YR3/3　褐　色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。パミス，土器片，炭化物多量に含む。
3層	10YR2/3　黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。パミス，焼けた凝灰炭，土器片，焼土，灰炭化物多量に含む。

ＳＩ—01　カマド内セクション（Ｂ—Ｂ′）

層　位	土　色	土　性	備　考
4層	10YR2/3　黒　褐　色	粘質シルト	粘性弱くしまり強い。炭化物，土器片を多く含む。
DI	10YR3/3　暗　褐　色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。土器片を含む。炭化物を多く含む。

ＳＩ－01

≪確 認 層 位≫　灰層

≪重　　複≫　ＳＩ－02を埋めた後に構築されている。また、4号製塩炉と重複しており、これらの遺構よりも新しい。

≪増 改 築≫　なし。

≪平面形・方向≫　南北軸300×東西軸260cm程の方形プランである。

≪竪穴内層位≫　竪穴内の埋め土は4層からなる。

≪壁 の 状 況≫　床面までの残存壁の深さは、10～20cm程である。

≪床　　面≫　ほぼ平坦である。

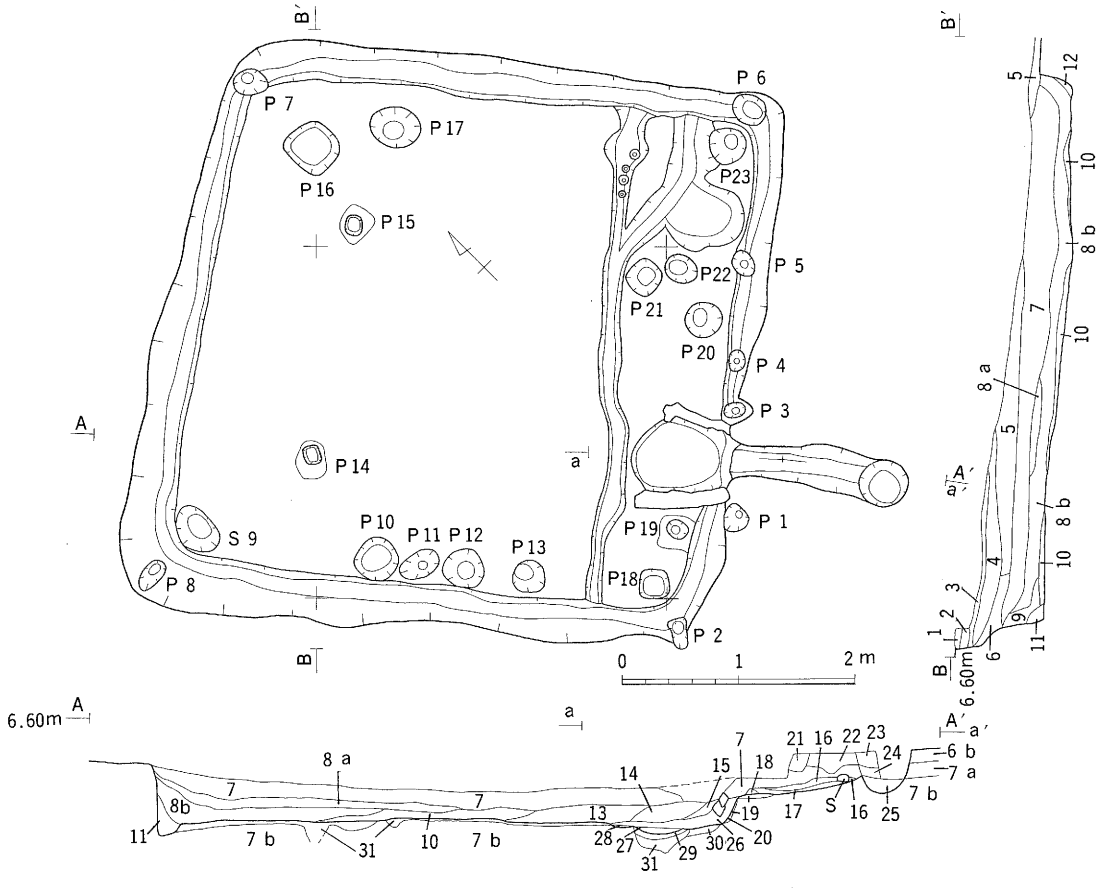
≪柱　　穴≫　竪穴内のピットは6個である。各ピットの深さは1－31　2－13　3－24　4－8　5－10　6－21cmとなっている。

≪周　　溝≫　なし。

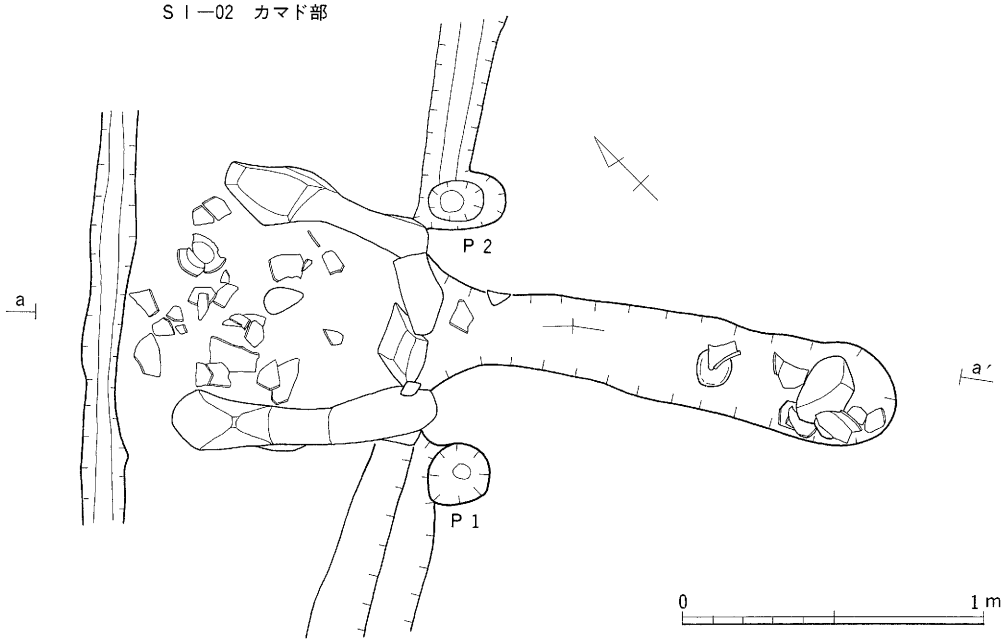
≪炉・カマド・煙道≫　竪穴の南壁にカマド焚口部がみられる。焚口の袖部は長さ60×幅30cmほどで、煙道は確認できなかった。

≪貯 蔵 穴≫　焚口の左側に60×80cm、深さ25cmの掘り込みがみられる。

ＳＩ－02　平面図



ＳＩ―02　カマド部



ＳＩ―02　セクション（Ａ―Ａ′）カマドセクション（ａ―ａ′）

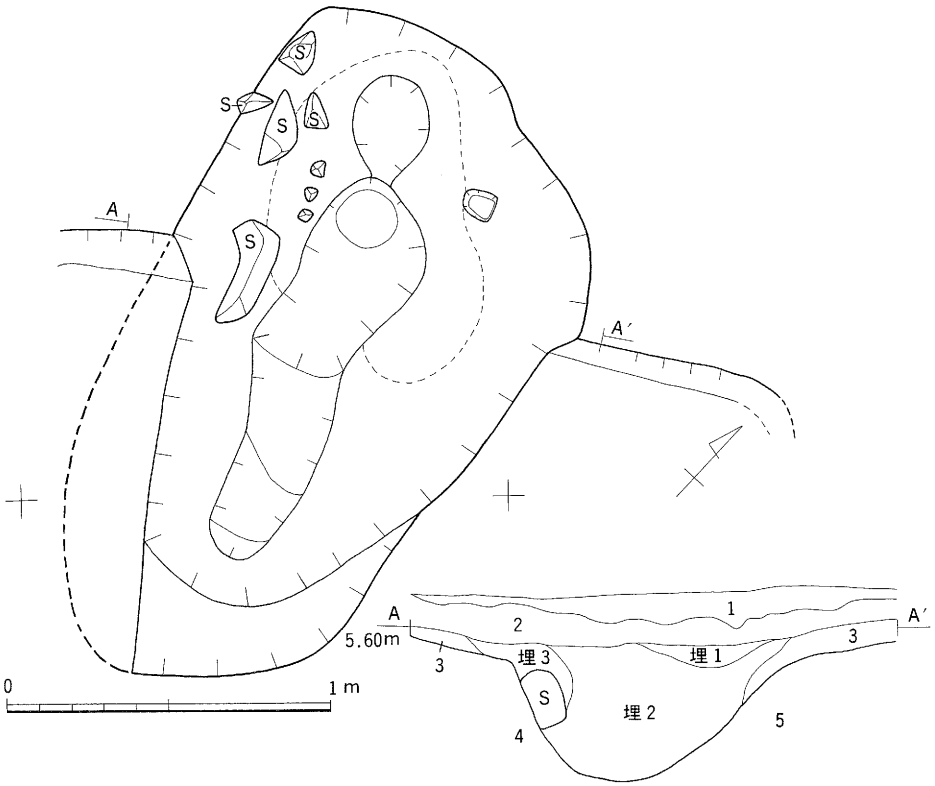
層　位	土　色	土　性	備　考
7層	7.5YR3/3 暗 褐 色	シ ル ト	粘性弱くしまり強い。4～5㎜の凝灰岩粒を多く含む。
8ａ層	10YR2/3 黒 褐 色	粘質シルト	粘性弱くしまり強い。
8ｂ層	7.5YR2/3 極暗褐色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。10YR6/6のブロックを含む。
10層	7.5YR4/3 褐 色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。地山(7ｂ層)ブロックを含む。
13層	10YR3/1 黒 褐 色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。
14層	10YR2/3 黒 褐 色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。焼土炭化物少し含む。
15層	10YR3/4 暗 褐 色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。焼土，炭化物を多量に含む。
16層	7.5YR4/3 褐 色	シ ル ト	粘性弱くしまり強い。焼土。(5YR3/4)
17層	7.5YR2/2 黒 褐 色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。焼土，岩化物を少し含む。
18層	7.5YR3/3 暗 褐 色	シ ル ト	粘質弱くしまり強い。焼土。(5YR3/4)
19層	7.5YR4/3 褐 色	シ ル ト	粘性ありしまり強い。焼土、(5YR3/4)煙道の焼面が残っている。
20層			基本層位6層の地山崩壊土。
21層	10YR3/4 暗 褐 色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。焼土，土器片を多く含む。
22層	10YR2/2 黒 褐 色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。土器片，炭を含む。
23層	10YR3/4 暗 褐 色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。21層とそっくり
24層	10YR3/2 黒 褐 色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。焼土と炭化物を含む。
25層	10YR3/4 暗 褐 色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。焼土と炭化物を含む。
26層	7.5YR5/6 明 褐 色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。焼土と炭化物と土器を多量に含む。
27層	10YR3/3 暗 褐 色	粘　土	粘性強くしまり弱い。焼土と炭化物を多量に含む。
28層	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘　土	粘性しまり共にあり。貼床に近い埋土。(ＳＩ02床面を東西方向に走る小溝)
29層	5YR5/8 明赤褐色	粘　土	固い焼土，カマド焼成面。
30層	10YR4/3 褐 色	粘　土	地山崩壊と炭化物を多く含む。カマド床面。
31層	7.5YR5/6 明 褐 色	粘　土	貼床と同じ。10YR3/2黒褐色の4～5㎝のブロックが混る。

※６ｂ・７ａ・７ｂは基本層

ＳＩ―02　セクション（Ｂ―Ｂ′）

層　位	土　色	土　性	備　考
1層	10YR3/3 暗 褐 色	シ ル ト	粘性弱くしまり強い。
2層	10YR3/2 黒 褐 色	シ ル ト	粘性弱くしまり強い。10YR6/6(7ｂ層?)の貼床。
3層	10YR3/3 暗 褐 色	シ ル ト	粘性ありしまり強い。
4層	10YR2/3 黒 褐 色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。10YR6/6(7ｂ層?)の貼床。
5層	7.5YR3/3 暗 褐 色	シ ル ト	粘性弱くしまり強い。灰層，製塩土器多量に含む。
6層	10YR3/2 黒 褐 色	シ ル ト	粘性弱くしまり強い。
7層(埋1)	7.5YR3/3 暗 褐 色	シ ル ト	粘性弱くしまり強い。4～5㎜の凝灰岩粒を多く含む。
8ａ層(埋2ａ)	10YR2/3 黒 褐 色	粘質シルト	粘性弱くしまり強い。
8ｂ層(埋2ｂ)	7.5YR2/3 極暗褐色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。10YR6/6のブロックを含む。
9層	10YR5/6 黄 褐 色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。地山(7ａ層)崩壊土か?
10層	7.5YR4/3 褐 色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。地山(7ｂ層)ブロックを含む。
11層	10YR3/4 暗 褐 色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。
12層	10YR3/1 黒 褐 色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。

ＳＩ—02　床面下部落み込み



ＳＩ—02　床面下部落ち込みセクション

層　位	土　色	土　性	備　考
1層			基本層　5層の貝層部分。
2層	10YR3/2　黒　褐　色	粘性シルト	基本層　5層の下部，凝灰岩粒，炭化物粒，製塩土器の細片。
3層			基本層　6層
4層			基本層　7ａ層(前位層)
5層			基本層　7ｂ層
埋1	10YR2/3　黒　褐　色	粘質シルト	土師器片，凝灰岩粒。
埋2	5Y2/1　黒　色	粘質シルト	中央部より縄文土器出土炭化物粒，凝灰岩粒，焼石。
埋3	10YR1.7/1 黒　色	粘質シルト	

ＳＩ—02

≪確 認 層 位≫　5層

≪重　　複≫　ＳＩ—01と重複している。

≪増　改　築≫　東南方壁のカマド焚口付近に溝がみられるが、竪穴内のセクションからは増改築の後は認められない。

≪平面形・方向≫　500×500cmの方形プランである。

≪竪穴内層位≫　竪穴内の埋め土は15層からなる。

≪壁 の 状 況≫　残存壁高は30～50cmで南西方壁の保存がよく、床面からほぼ垂直に立ち上がる。

≪床　　面≫　ほぼ平坦である。

≪柱　　穴≫　竪穴内のピットは23個観察されるが、このうち床面を掘り込んでいるもの

は、P13～23である。周溝及び壁の立ち上がりにあるものはP２～８であり、P２・６・７・８は竪穴コーナーに位置している。各ピットの深さは、

1―52　2―51　3―33　4―19　5―35　6―36　7―37　8―66　9―7

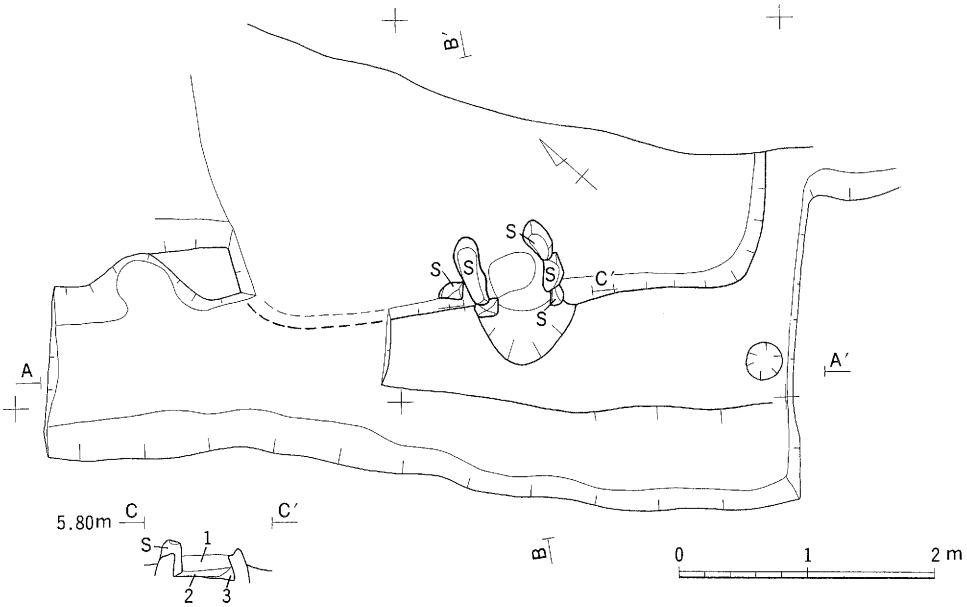
10―6　11―2　13―5　14―32　15―23　16―9　17―31　18―5　19―10

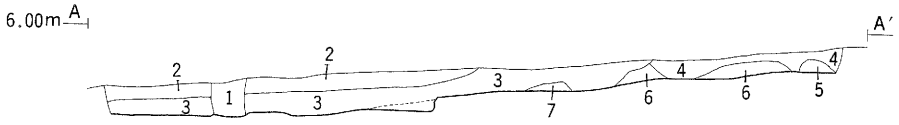
20―23　21―18　22―18　23―18cmである。

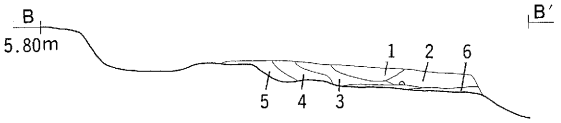
≪周　　溝≫　竪穴内の壁に沿って幅16～25cm、深さ５～10cmの周溝がみられる。

≪炉・カマド・煙道≫南西方壁の南寄りにカマドが確認できる。カマドの焚口は80×60cmで凝灰岩を方形に整形して袖を構築している。煙道は幅40cm長さ150cmで、先端の煙り出し部に深さ45cmのピットが認められる。

ＳＩ―03　平面図







ＳＩ―03　セクション（A―A′）

層　位	土　色	土　性	備　考
1層	10YR2/3　黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。0.5～1cmの小石を含んでいる。(ピット)
2層	10YR2/3　黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。0.5～5cmの小石を含む。また，にぶい黄褐色の土も含んでいる。
3層	10YR2/2　黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。0.5～5cmの小石を含んでいる。
4層	10YR3/3　暗　褐　色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。0.5cm内外の小石を多量に含んでいる。
5層	10YR2/3　黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。0.5cm内外の小石を含んでいる。(ピット)
6層	10YR4/3　にぶい黄褐色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。0.5～2cm程の小石を含んでいる。
7層	2.5Y6/6　明　黄　褐　色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。0.5～2cm程の小石を含んでいる。凝灰岩崩壊土(地山)

ＳＩ—03　セクション（Ｂ—Ｂ′）

層　位	土　色	土　性	備　考
1層	5YR2/1　黒　色	シ　ル　ト	粘性弱くしまりあり。5㎜内外の小石を含んでいる。
2層	10YR2/3　黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性弱くしまりあり。5㎜内外の小石を含んでいる。
3層	10YR4/3　にぶい黄褐色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。カマドの袖の凝灰岩が崩壊したものを含んでいる。（カマド埋土）
4層	5YR3/3　暗　赤　褐　色	シ　ル　ト	粘性しまり共に弱い。カマドの袖の凝灰岩が崩壊したものと焼土を含んでいる。（カマド埋土）
5層	10YR4/2　灰　黄　褐　色	シ　ル　ト	粘性あり，しまり強い。5㎜内外の小石を含んでいる。（貼り床か）
6層	10YR2/1　黒　色	シ　ル　ト	粘性弱くしまりあり。5㎜内外の小石を含んでいる。（掘りすぎか）

ＳＩ—03　カマド内セクション（Ｃ—Ｃ′）

層　位	土　色	土　性	備　考
1層	10YR3/3　暗　褐　色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。5㎜内外の小石と焼土と炭化物粒を含んでいる。
2層	10YR4/3　にぶい黄褐色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。5㎜内外の小石を含んでいる。
3層	10YR3/2　黒　褐　色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。5㎜内外の小石とカマド袖の崩壊岩を含んでいる。

ＳＩ—03

≪確認層位≫　5層

≪重　　複≫　なし。

≪増　改　築≫　なし。

≪平面形・方向≫　南側壁と西壁の一部を残すのみであるが、400×400cmの隅丸方形になると思われる。

≪竪穴内層位≫　6層からなる。自然堆積土である。

≪壁の状況≫　残存壁高は9～13cmほどで、ゆるやかに立ち上がっている。

≪床　　面≫　北東部分が切られているため詳細は不明だが、残存部は平坦である。

≪柱　　穴≫　なし。

≪周　　溝≫　なし。

≪炉・カマド・煙道≫　残存する南壁中央部にカマドの焚口袖がみられる。長さは70cm幅50cmほどで、凝灰岩を整形して構築している。煙道は確認できなかった。

掘立て柱遺構

ＳＢ—01

12・13—Ａ～Ｃ区で確認された掘立て柱遺構である。確認層位は5層である。規模は600×400cmで、3間2間。1号製塩炉及びＳＫ—02と重複しており、これらよりも古い。

溝状遺構

ＳＤ—01

確認層位は5層で、16～19—Ｆ区。幅60～80cm（最小～最大幅）、深さは10cmほどである。

ＳＤ—02

確認層位は５層。20—Ｄ区から15—Ａ区に向かいほぼ磁北にそってのびている。幅160～200cm、深さ15～60cmほどである。

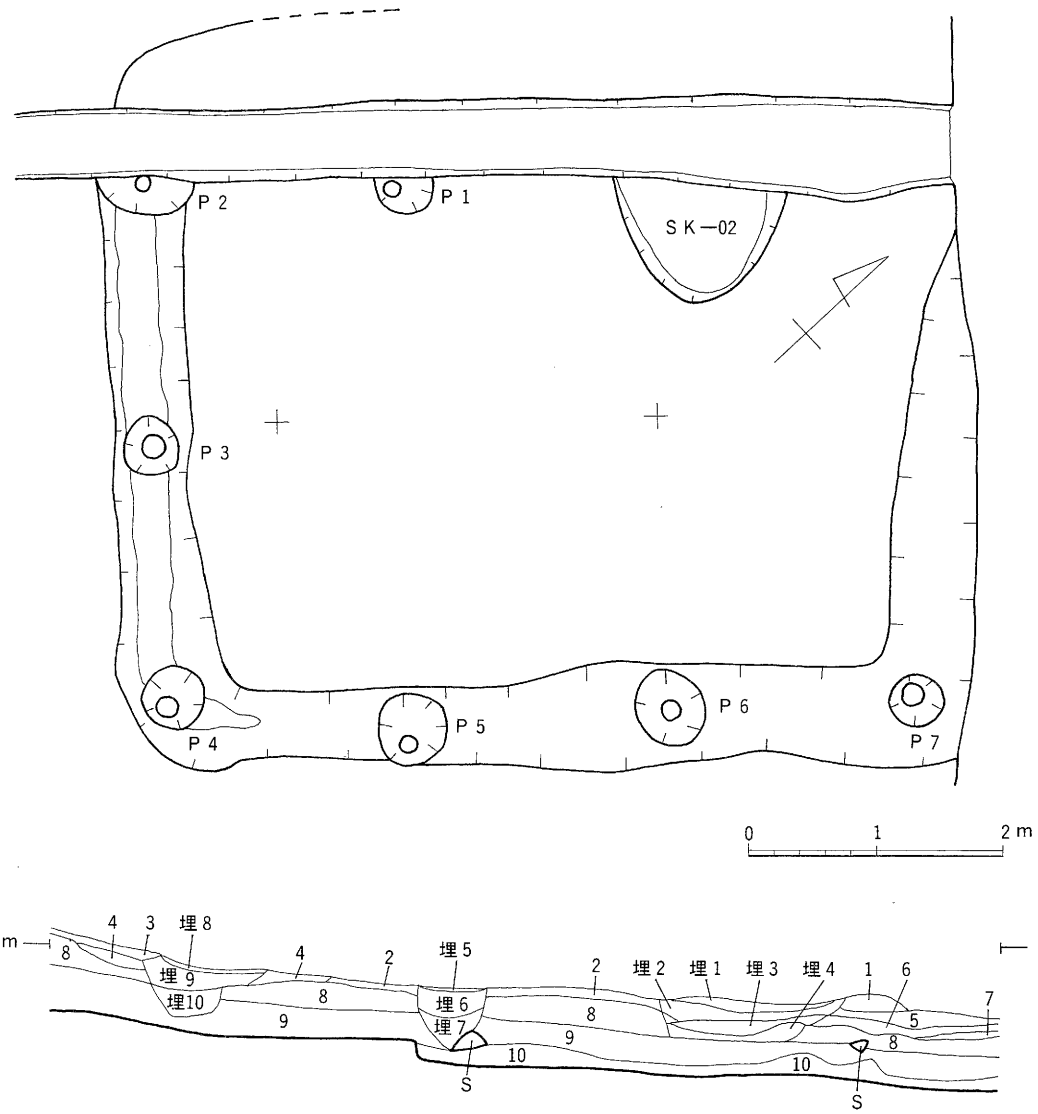
ＳＤ—03

確認層位は灰層。幅40～80cm、深さは25cmほどある。16—Ｄ区で湾曲し、13—Ｃ区で消滅している。

ＳＤ—04

確認層位は５層。15・16—Ｂ区で確認。幅160～270cm、深さ15cmほどである。

ＳＢ—01，ＳＫ—02



12—A～C　南壁（SX—02）セクション

層位	土色	土性	備考
埋土1	7.5YR1.7/1黒色	シルト	炭化物層。
埋土2	10YR3/2 黒褐色	粘質シルト	粗砂，小石，炭化物粒，土器を含む。
埋土3	7.5YR1.7/1黒色	シルト	炭化物層。
埋土4	10YR2/3 黒褐色	粘土	細砂，小石，土器を含む。
埋土5	7.5YR1.7/1黒色	シルト	炭化物層。
埋土6	7.5YR3/3 暗褐色	粘質シルト	凝灰岩粒，小石を含む。
埋土7	10YR2/3 黒褐色	粘質シルト	凝灰岩粒，小石を含む。
埋土8	7.5YR1.7/1黒色	シルト	炭化物層。
埋土9	7.5YR3/4 暗褐色	粘質シルト	凝灰岩粒，小石を含む。
埋土10	10YR2/2 黒褐色	粘質シルト	凝灰岩粒，小石を含む。
1層	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	粘性しまり共にあり。凝灰岩粒，小石，焼土粒，炭化物粒，土器を含む。
2層	10YR2/2 黒褐色	粘質シルト	粘性弱くしまり強い。貝層(アサリ，カキ主体)動物の骨を含む。
3層	10YR2/2 黒褐色	粘質シルト	粘性弱くしまり強い。
4層	10YR2/2 黒褐色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。地山崩壊土をブロック（2～3㎝）で多く含む。
5層	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	粘性しまり共にあり。凝灰岩粒，小石，焼土粒，炭化物粒，土器を含む。
6層	7.5YR1.7/1黒色	シルト	粘性弱くしまり強い。炭化物層，焼土粒を含む。
7層	7.5YR3/4 暗褐色	粘質シルト	粘性強く，しまり弱い。凝灰岩粒，小石，粗砂，土器，焼土粒を含む。
8層	10YR3/2 黒褐色	シルト	粘性ありしまり強い。
9層			基本層に対応。
10層			基本層に対応。

土　　壙

SK—01

確認層位は灰層。3—F区にあり50×150㎝ほどの楕円形で、深さは16㎝である。

SK—02

確認層位は5層。12—B区にあり100×140㎝ほどの楕円形と思われる。深さは35㎝である。

SK—03

確認層位は灰層である。13—E区にありSI—01に隣接している。90×110㎝の楕円形で、深さは25㎝ほどである。

製塩遺構

製塩炉は13カ所で確認されたが、構築形態から次のように分けられる。

A　類——石敷きで円形・楕円形の平面プランのもの。

B　類——土堤。

C1類——貝灰堤の円形のもの。

C2類——貝灰堤の楕円形のもの。

D1類——石組（凝灰岩を方形に整形し構築）で長楕円形のもの。

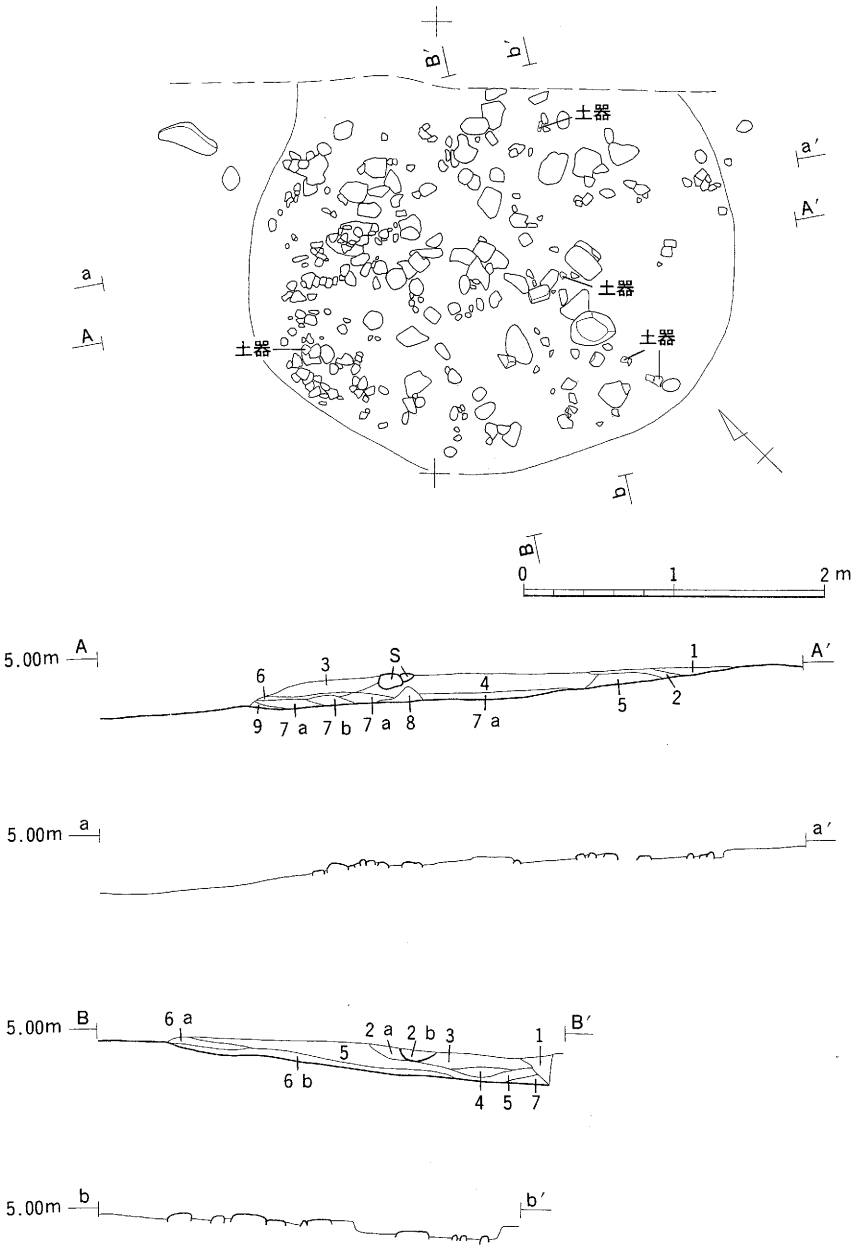
D2類——石囲（凝灰岩と河原石とで構築）で長楕円形のもの。

A類には1号炉がこれに相当し、B類には8号炉。C1類は9号・10a号・10b号・11号がこれにあたる。C2類は2a号・2b号・5号・7号が、D1類には3号と12号が、D2類には4号と6号があてはまる。なお、貝灰堤とは土堤に含めてもよいとも考えられたが、粘土に貝灰を混ぜて堤状に構築していることから土堤とは区別した。

1号製塩炉

確認層位は灰層。12・13—A区で認められた。楕円形の平面を呈し、10～20cm位の礫が不規則に敷き詰められている。中央部はあまり火を受けた形跡は認められないが、周辺になるに従い、炭化物が多くみられ礫ももろくなっている。製塩土器片の混入はあまりなかった。

1号製塩炉



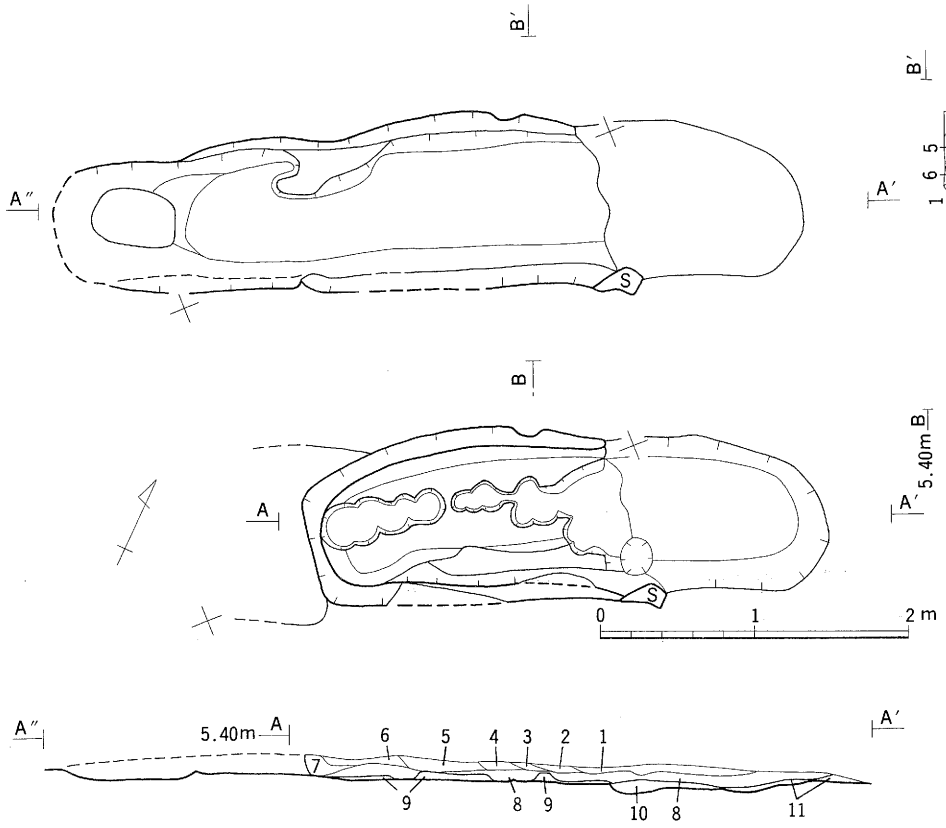
1号製塩炉セクション（A－A′）

層位	土色	土性	備考
1層	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	粘性しまり共にあり。3～8㎜程の小礫と40～50㎜の中礫及び製塩土器を含む。礫は焼けている。
2層	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	粘性しまり共にあり。20～50㎜の中礫を多く含む。また炭化物を多量に含んでいる。礫は焼けている。
3層	5YR3/3 暗赤褐色	シルト	粘性弱くしまりあり。5～20㎜程の小礫と30～50㎜の中礫を多く含む。また炭化物を少量含んでいる。礫は焼けている。
4層	2.5YR2/2 極暗赤褐色	シルト	粘性しまり共にあり。50～100㎜程の大礫を多く含む。また製塩土器，炭化物を少量含んでいる。灰をブロック状に含み，礫は焼けている。
5層	7.5YR3/4 暗褐色	シルト	粘性しまり共にあり。炭化物，製塩土器片を少量含む。また灰を含んでいる。礫は焼けている。
6層	5YR3/2 暗赤褐色	シルト	粘性しまり共にあり。炭化物を多く含んでいる。礫は焼けている。
7a層	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	粘性弱くしまりあり。2～5㎜の小礫及び同程度の製塩土器片を含む。また炭化物を少量含む灰層である。礫は焼けている。
7b層	7.5YR3/3 暗赤褐色	シルト	粘性弱くしまりあり。2～5㎜の小礫を含む。また炭化物を含んでいる灰層である。礫は焼けている。
8層	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	粘性しまり共にあり。2～4㎜の小礫，炭化物を多く含んでいる。礫は焼けている。
9層	7.5YR1.7/1黒色	シルト	粘性しまり共に弱い。炭化物層。

1号製塩炉（B－B′）

層位	土色	土性	備考
1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	粘性しまり共にあり。鉄の薄板等の混入。
2a層	2.5YR2/3 暗赤褐色	シルト	粘性弱くしまりあり。2～5㎜の小礫とわずかに製塩土器片を含む。灰層
2b層	5YR3/4 暗赤褐色	シルト	粘性弱くしまりあり。2～5㎜の小礫と炭化物をごくわずかに含んでいる。灰層
3層	7.5YR4/3 褐色	シルト	粘性弱くしまりあり。2～4㎜の小礫及び炭化物を含む。灰層
4層	5YR2/4 極暗赤褐色	シルト	粘性しまり共にあり。
5層			A－A′の4層に対応。
6a層	7.5YR4/3 褐色	シルト	粘性弱くしまりあり。製塩土器片1～3㎜の小礫及び炭化物を含む。灰層
6b層			A－A′の7a層に対応。
7層	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	粘性しまり共に弱い。炭化物をわずかに含む。灰層

2号製塩炉



2号製塩炉セクション（A－A′）

層位	土色	土性	備考
1層	7.5YR2/1 黒色	シルト	粘性なくしまり弱い。炭化物，貝がら，製塩土器片を含んでいる。
2層	7.5YR4/3 褐色	シルト	粘性なくしまり弱い。灰層(約1～2cm)と炭化物層(約0.8cm)が交互に重なっている。(灰2層＋炭1層の3層)製塩土器をわずかに含む。
3層	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	粘性なくしまり弱い。炭化物，製塩土器をわずかに含む。
4層	7.5YR2/3 極暗褐色	シルト	粘性なくしまり弱い。灰層と炭化物を含むが交互に重なる灰層(灰4層＋灰3層＝7層)
5層	7.5YR2/1 黒色	シルト	粘性なくしまり弱い。炭化物を多く含み製塩土器片もわずかに含んでいる。
6層	7.5YR6/2 灰褐色	シルト	粘性なくしまり弱い。灰層と炭化物層が交互に重なる層(灰2層＋炭1層)。
7層	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	粘場なくしまり弱い。炭化物を多く含み，製塩土器をわずかに含んでいる。
8層	7.5YR6/3 にぶい褐色	シルト	粘性なくしまり弱い。灰層(約2cm)と炭化物層(約0.2cm)が交互に重なっている(5層?)貝がら4cm内外の焼石を含む。
9層	7.5YR7/2 明褐灰色		貝灰層?壁?一部床面の固い貝灰層にのっている。
10層	7.5YR6/3 にぶい褐色	シルト	粘性なくしまり弱い。上層(8層)と違い薄い炭化物層はなく全体にまばらに炭化物片を含んでいる。灰層。他に貝がら片を含む。
11層	5YR4/4 にぶい赤褐色	シルト	粘性なくしまり弱い。貝がらを含む。灰層(炉構築基盤か?)。

2号製塩炉セクション（B－B′）

層位	土色	土性	備考
1層			東西セクション1層と対応(2号炉床)。
2a層	7.5YR4/4 褐色	シルト	粘性弱くしまりあり。製塩土器片，貝がら片，炭化物粒をわずかに含んでいる。
2b層	7.5YR5/2 褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，貝がら片炭化物粒をわずかに含む灰のブロック。
3層			(A－A′)10層と対応する。
4層	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	粘性しまり共になし。製塩土器片等の混入ごくわずか。
5層	5YR3/4 暗赤褐色	砂質シルト	粘性しまり共になし。製塩土器片，貝がら片，炭化物粒を含んでいる。
6層	7.5YR5/3 にぶい褐色	シルト	粘性しまり共になし。製塩土器片，貝がら片，炭化物粒を多く含む貝灰の固まりがブロック状に密集している。
7層	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，貝がら片を含んでいる貝灰の固たりのブロックが密集している灰層。
8層	7.5YR4/4 褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，貝がら片，炭化物粒，黄褐色粘土をわずかに含んでいる。

2a号製塩炉

11－C区、灰層で認められた。平面形は80×340cm程の長楕円形で、周囲を貝灰で堤状に構築している。深さは約30cmである。床面はかたくしまった灰層と、その下にやわらかい灰層、炭化物層と続く。この3層がセットになっており、全部で3セットが観察された。各層厚は1cmほどである。床面に連珠形の平坦な落ち込みがみられる。バケツ型の製塩土器をおいた跡とも思える。

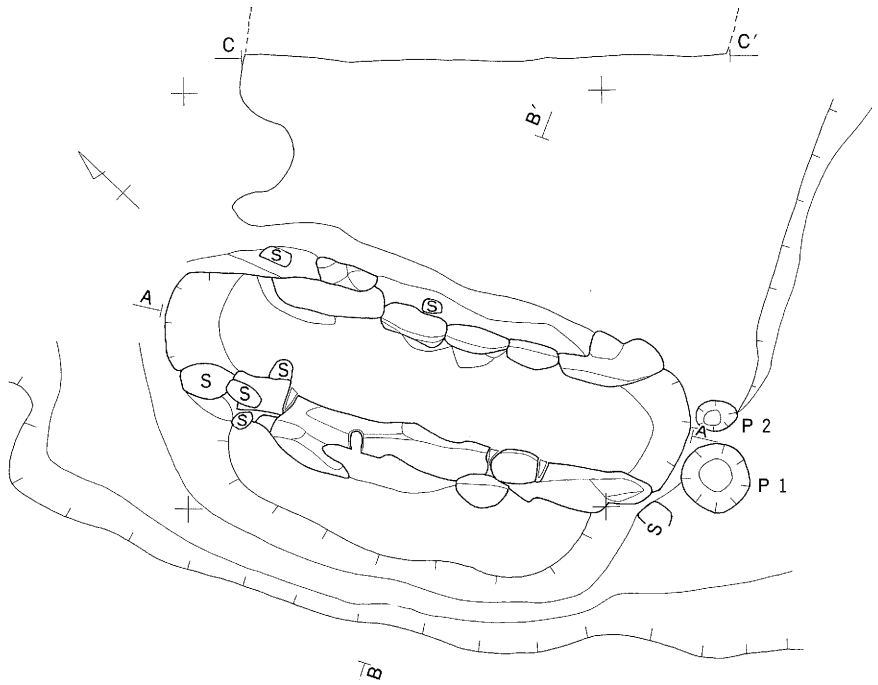
2b号製塩炉

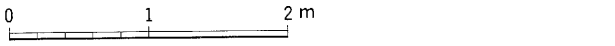
2a号製塩炉と重複している。80×480cm、深さ33cmの長楕円形の平面。周囲の堤部を貝灰で構築している。床面はほぼ平坦で、貝灰と炭化物層が交互に積み重なってみられる。

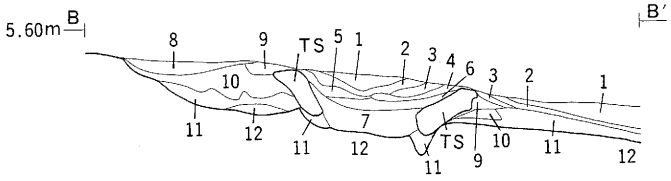
3号製塩炉

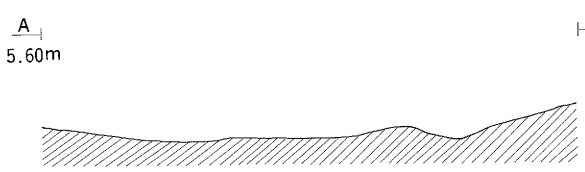
9－D区、灰層で認められた。規模は60×340cm、深さ40cmの長楕円形でSI－03の平面プラン内にある。堤の部分は、凝灰岩を方形に切り出して構築している。床面はほぼ平坦でかたくしまっている。

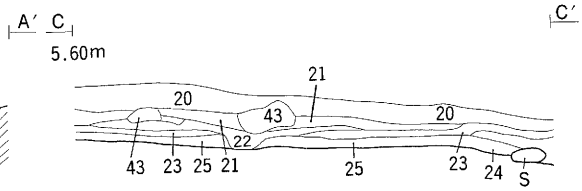
3号製塩炉











3号製塩炉セクション（B－B′）

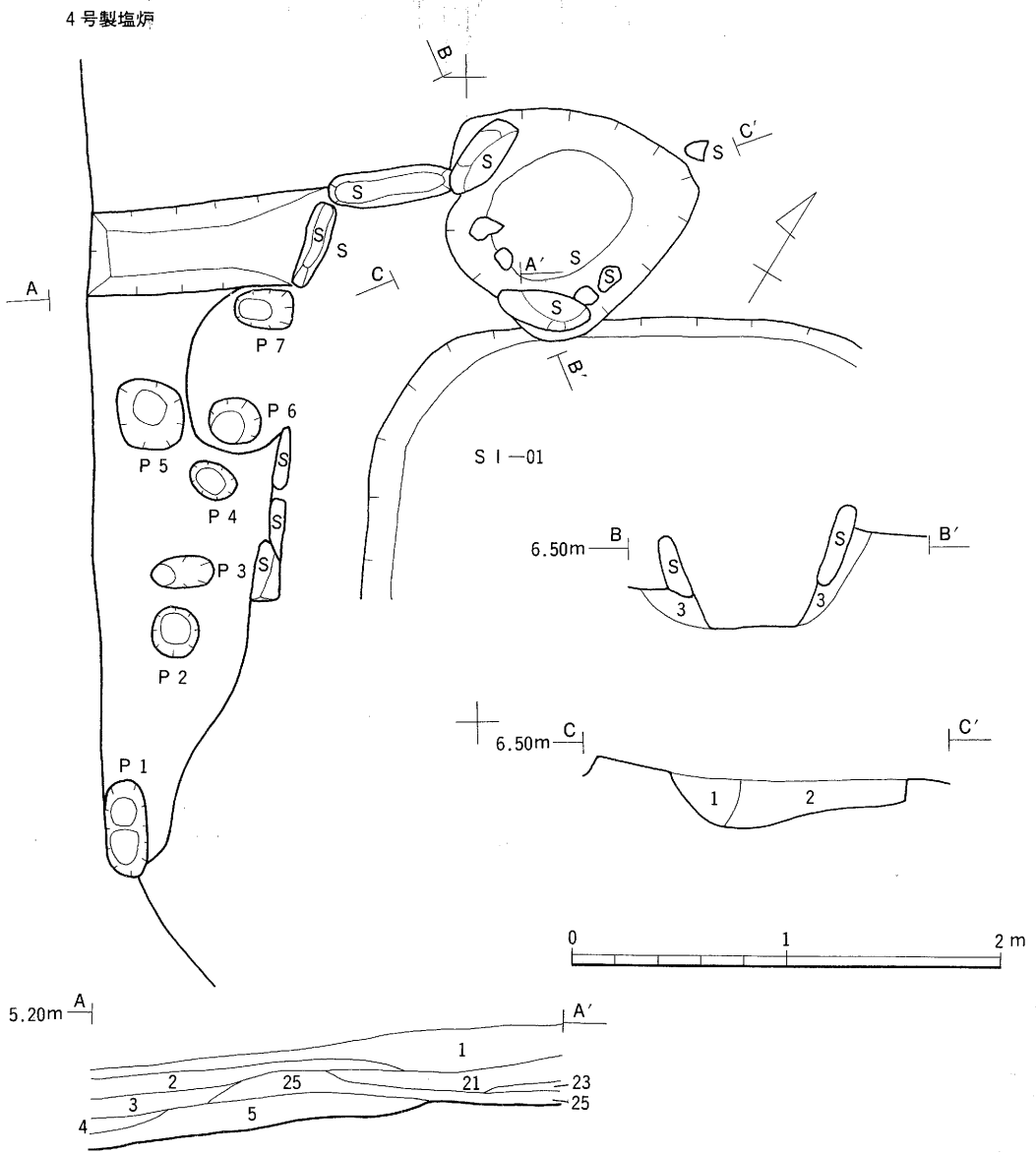
層位	土色	土性	備考
1層	10YR4/6 褐色	シルト	粘性弱くしまりあり。製塩土器片，焼礫，貝がら片，炭化物粒，層の中間に幅2cm程の灰を含むでいる。
2層	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片，貝がら(カキ等)炭化物粒を含んでいる。
3層	7.5YR4/4 褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器，貝がら小片，小礫，炭化物粒，灰を含んでいる。
4層	7.5YR4/3 褐色	シルト	粘性なくしまり弱い。製塩土器片，焼石を含んでいる。
5層	7.5YR5/4 にぶい褐色	シルト	粘性なくしまり強い。固い。炉壁又は天井崩壊部か？
6層	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	粘性しまり共にあり。炭化物層。
7層	7.5YR5/6 明褐色	シルト	粘性しまり共にあり。床面(貝灰で作ったと思われる)焼石，焼土。凝灰岩，火を受けていてもろい。炉の内側は(2.5YR5/8赤褐色)焼けている。
8層	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	粘性しまり共にあり。焼石(10~20cm)と焼土を多量に含む。
9層	7.5YR5/4 にぶい褐色	シルト	粘性しまり共にあり。炭化物粒と灰を含む。
10層	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	粘性しまり共にあり。炭化物粒と焼土を含む。
11層	7.5YR2/3 極暗褐色	シルト	粘性しまり共になし。焼けてもろくなった凝灰岩と灰を含む。
12層	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	基本層5層？

3号炉作業場セクション（C－C′）

層位	土色	土性	備考
20層	10YR3/1 黒褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。灰層，貝がら，凝灰岩粒を含む。 Cセクション8，9に対応
21層	10YR3/3 暗褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。灰層，土器，炭化物粒を含む。
22層	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	粘性強くしまり弱い。土器，炭化物を含む。
23層	7.5YR4/3 褐色	粘質シルト	粘性しまり共に弱い。土器，炭化物，焼土を含む。
24層	10YR4/4 褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。灰，凝灰岩粒，焼土を含む。
25層	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	粘性なくしまり強い。固い灰と炭化物がサンドイッチ状になった床面。
43層	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	粘性なくしまり強い。灰の固まり，炉壁又は，炉の天井？。炭化物粒，焼土を含む。

4号製塩炉

13—F区の灰層で認められた。SI—01と重複しているが、70×380cmほどの長楕円形と思われる。深さは35cmで、堤部を凝灰岩の切り石と河原石とで構築している。



4号製塩炉セクション（A－A′）

層位	土色	土性	備考
1層	10YR4/6 褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。灰層，貝がら，凝灰岩粒，土器，焼土，焼石を含む。
2層	5YR4/2 灰褐色	シルト	粘性しまり共になし。焼土，炭化物粒，土器を含む。
3層	10YR4/3 褐色	粘質シルト	粘性あり，しまり弱い。焼土，灰を含む。
4層	10YR5/6 黄褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。灰層，炭化物，焼土，焼石，小石，貝がら片，土器を含む。
5層			基本層位5層に対応。
21層	10YR3/3 暗褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。灰層，土器，炭化物粒を含む。21～25層はCセクションに対応
23層	7.5YR4/3 褐色	粘質シルト	粘性しまり共に弱い。土器，炭化物，焼土を含む。
25層	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	粘性なく，しまり強い。固い灰と炭化物がサンドイッチ状になった床面。

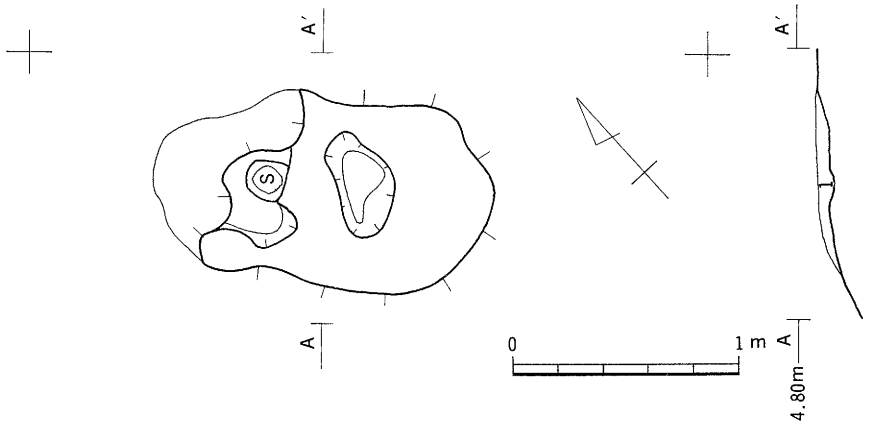
4号製塩炉セクション（B－B′，C－C′）

層位	土色	土性	備考
1層	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	粘性しまり共にあり。炭化物，土器片をごくわずかに含む。
2層	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	粘性しまり共にあり。15～17cmの凝灰岩を多く含む。炭化物，土器片を含む（1層より多い）黄褐色土を斑点状に含む。
3層	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	粘性しまり共にあり。小礫を含む（2～3mm程）黄褐色土をわずかに含む。

5号製塩炉

5－E区、灰層で認められた。80×150cmの楕円形に床面のみが認められた。

5号製塩炉



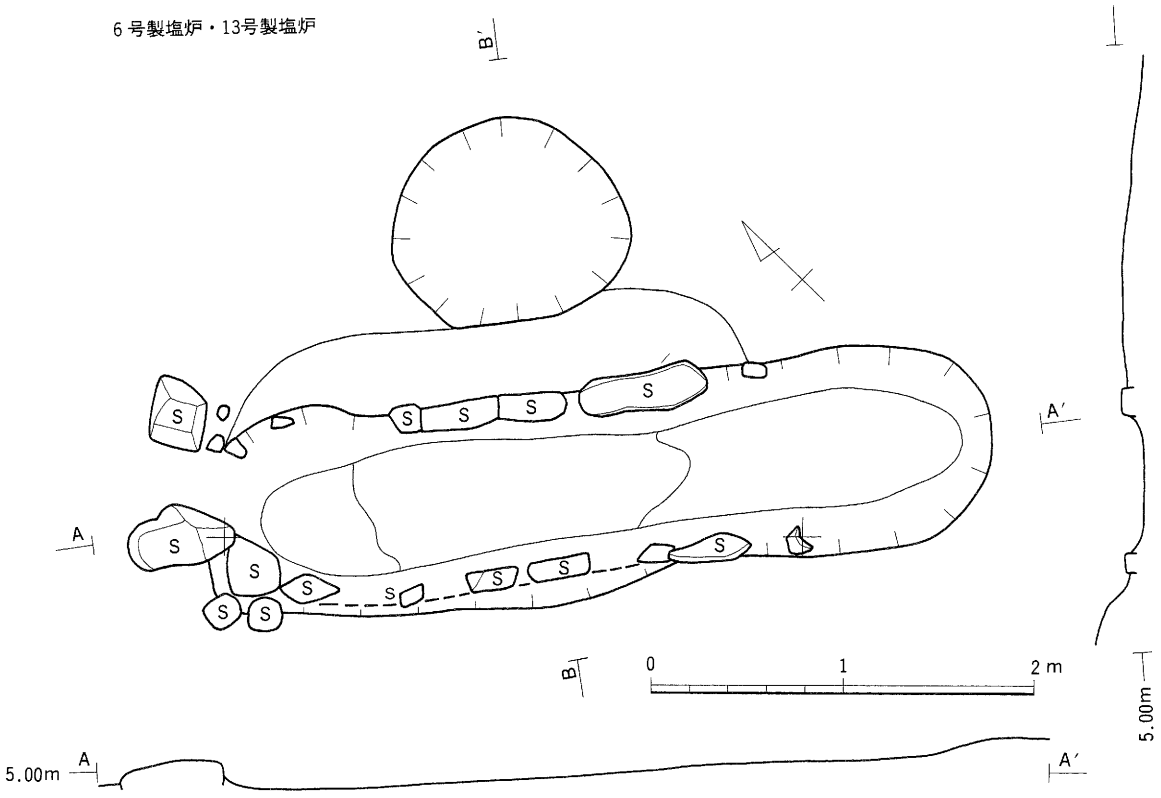
5号製塩炉セクション（A－A′）

層位	土色	土性	備考
1層	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。製塩土器片が多く，小礫貝がらをわずかに含む。

6号製塩炉

6－E・F区、灰層で認められた。80×450cm、深さ20cmの長楕円形で、堤部は4号と同じように凝灰岩と河原石とで構築している。

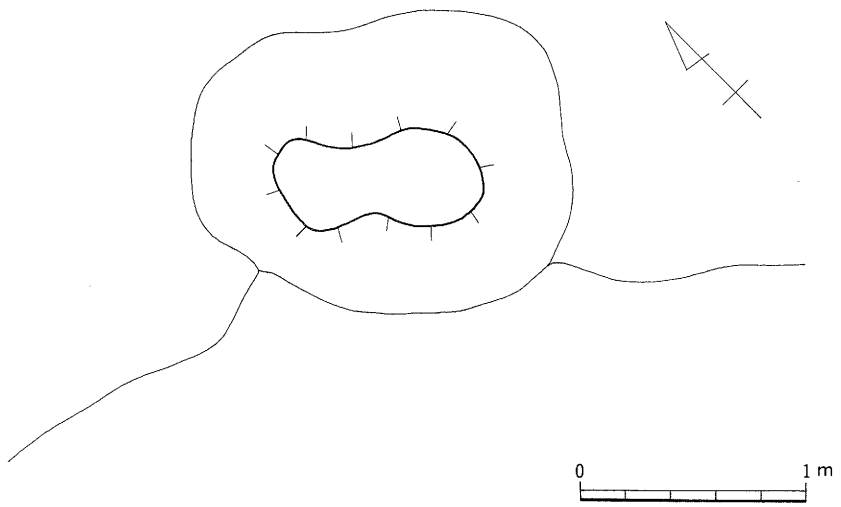
6号製塩炉・13号製塩炉



7号製塩炉

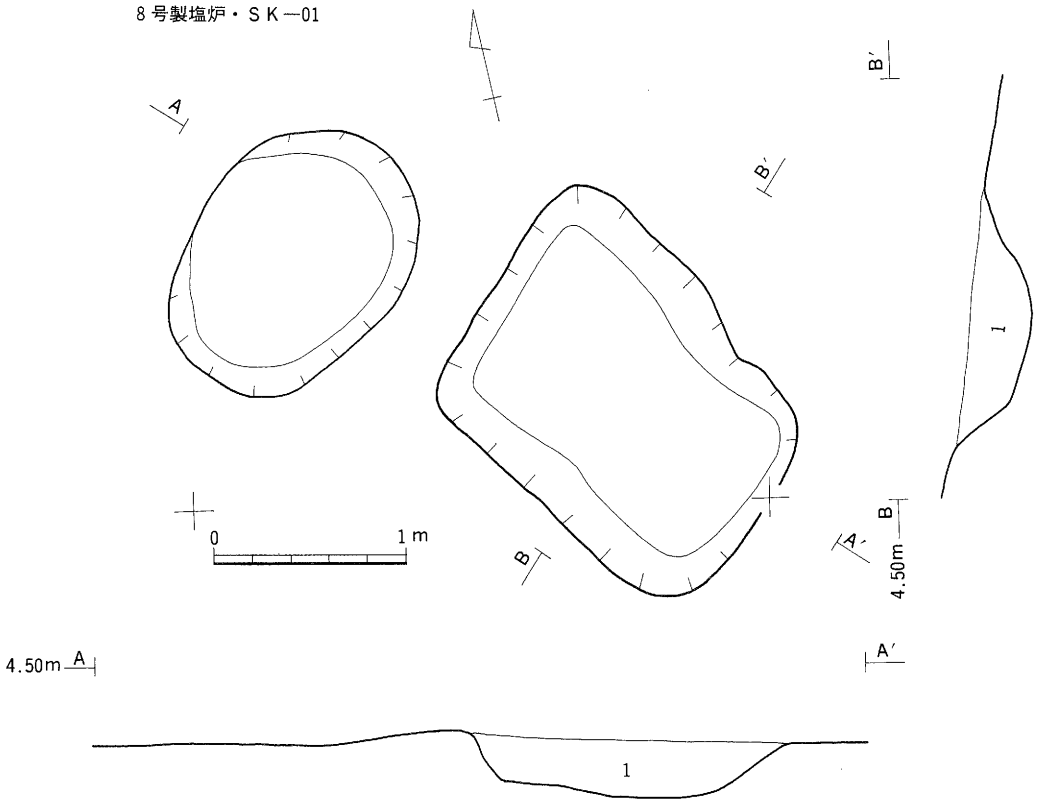
6－B区、灰層で認められた。床面のみが残存しており、40×90cmの楕円形を呈し、貝灰による堤部構築と思われる。

7号製塩炉



8号製塩炉

3－F区、灰層で認められた。140×200cm、深さ30cmの隅丸方形で、土堤である。



8号製塩炉セクション（A－A′）

層位	土色	土性	備考
1層	10YR1.7/1 黒色	シルト	炭化物，小石，土器片を含む。

SK－01 セクション（B－B′）

層位	土色	土性	備考
1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物，灰，貝殻，土器片を多量に含む。

9号製塩炉

2－E区、灰層で認められた。床面のみで約3分の1が残っているだけであるが、直径360cmほどの円形になると思われる。貝灰堤。

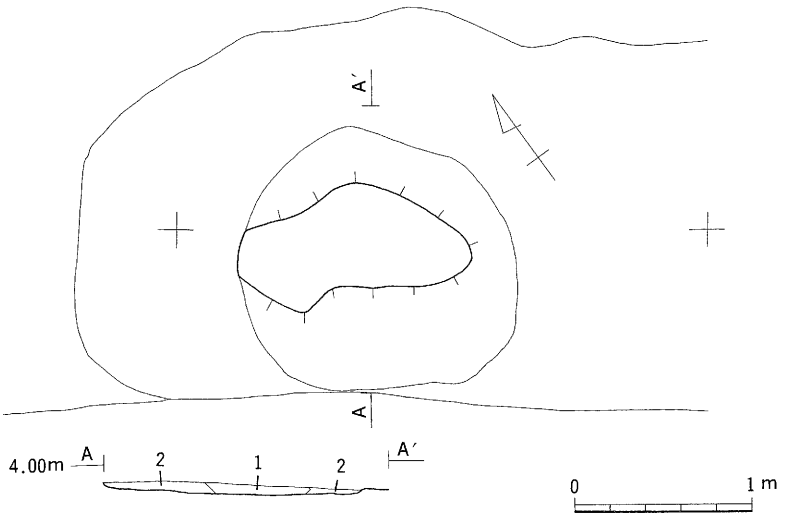
10ａ・ｂ号製塩炉

2－G・F区、灰層で認められた。いずれも床面のみで、直径100cmほどの円形である。貝灰堤。

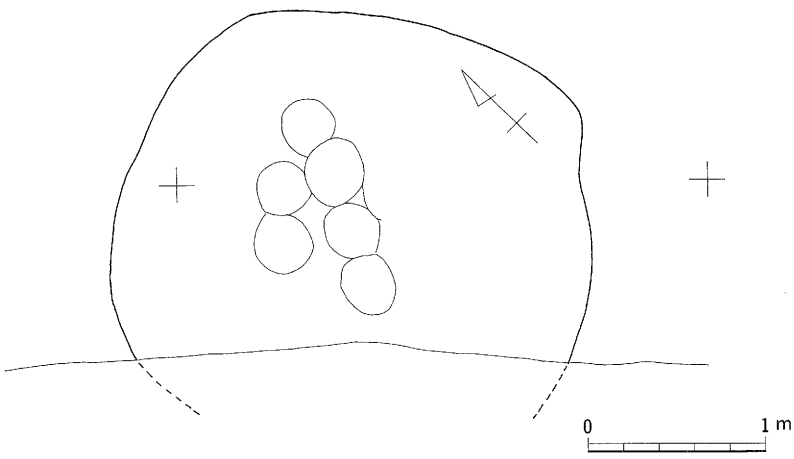
11号製塩炉

6－B・C区、灰層で認められた。床面のみが残存しており、200×280cmほどの楕円形である。床面に土器を置いたかのような、痕跡が認められる。貝灰堤。

11号製塩炉



11号製塩炉最終面



11号製塩炉セクション

層位	土色	土性	備考
1層	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	粘性なくしまり強い。貝灰の固まり，硬い，貝がらを含む。
2層	5YR4/6 赤褐色	シルト	粘性しまり共になし。製塩土器片貝がらを含む。 ※1，2層は炭化物を多く含む層の上にある。灰層の下部の黒色土部の一部が硬い（作業面か）

12号製塩炉

5・6－D区、5層で認められた。70×400cmの長楕円形で、北側半分の堤部は破壊されている。凝灰岩の石組。

13号製塩炉

6－E区、灰層で認められた。直径120cmの円形で、床面のみが残存していた。
貝灰が周辺部に見られることから、貝灰による堤と思われる。

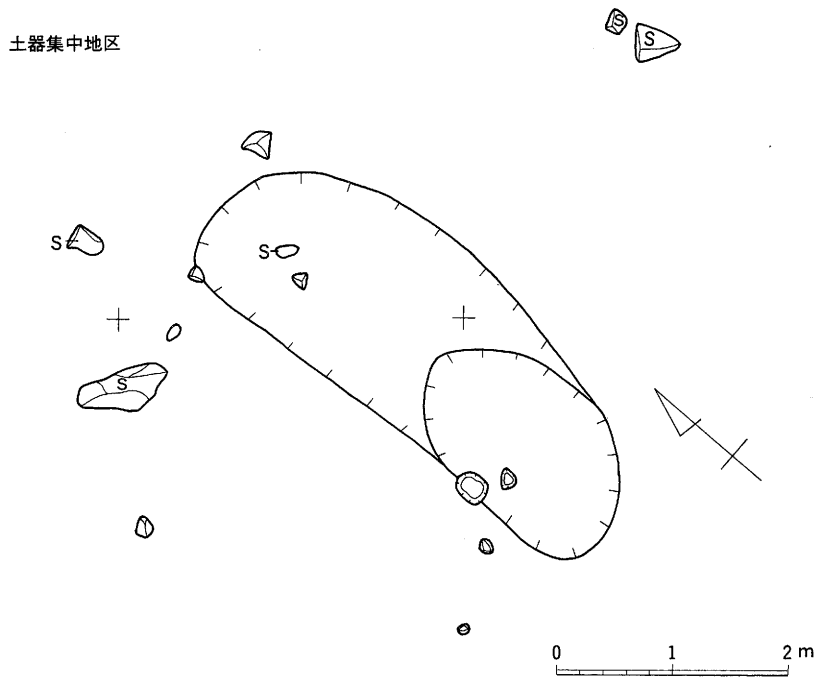
その他の遺構

作業場跡

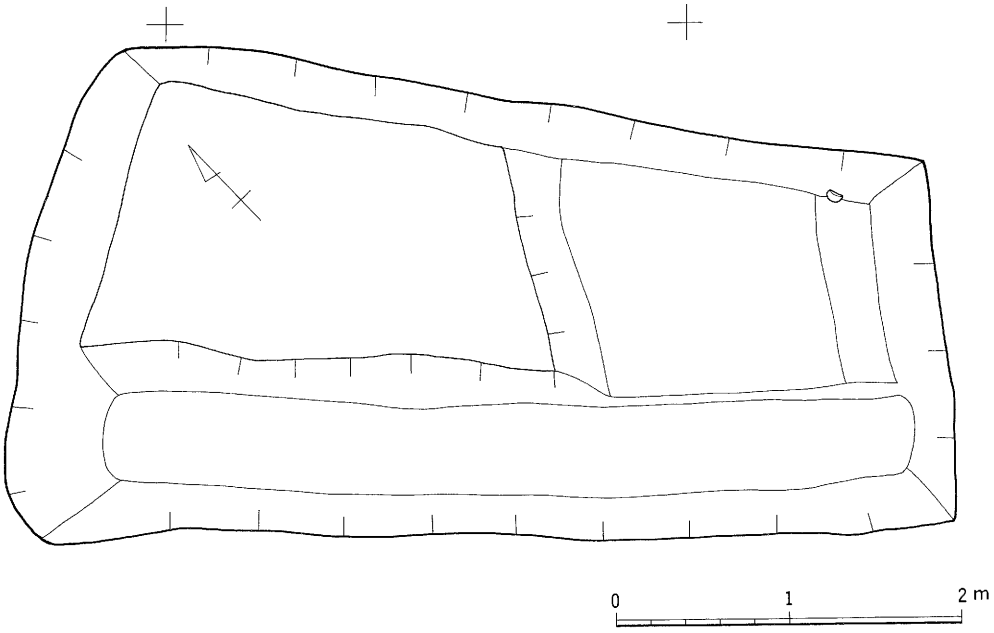
作業場と考えられるのは、2b号及び3号製塩炉に挟まれた9・10—C・D区で確認された。層厚2～3cmほどの貝灰と灰層、それに炭化物層がセットで積み重ねられており、炉から掻き出したものを平坦に叩きしめたと思われる。

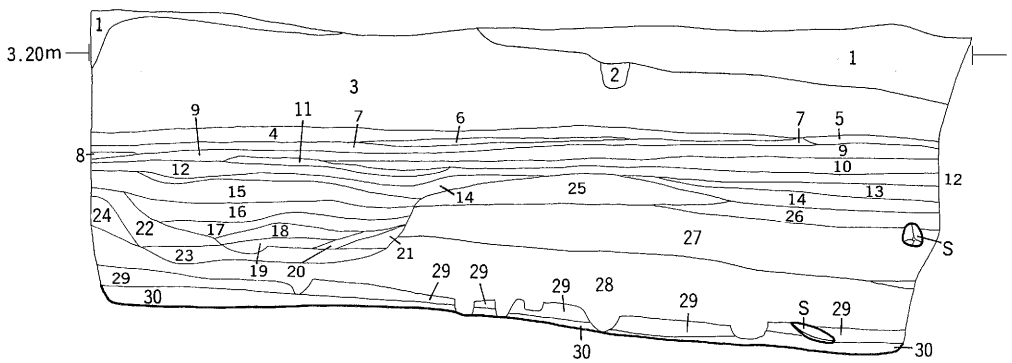
土器片集積地

製塩の土器片が集中してみられる箇所が、16・17—C・D区と5—D・E区とで認められた。いずれも小破片のみであり、意図的に捨てられた可能性が大きい。



Aラインサブトレンチ





Aサブトレンチセクション

層　位	土　色	土　性	備　考
1層	10YR3/3　暗　褐　色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。土器片を多量に含む。貝を含む。
2層	10YR4/3　にぶい黄褐色	砂質シルト	粘性弱くしまりなし。ピットか？
3層	2.5Y5/3　黄　褐　色	砂	粘性しまり共になし。貝がら，土器片（縄文～平安）小石等を含む。
4層	10YR2/1　黒　色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。貝がらを含む。炭化物を含む。
5層	7.5YR5/6　明　褐　色	シ　ル　ト	粘性しまり共にあり。灰土か？
6層	7.5YR4/4　褐　色	砂	粘性しまり共になし。貝がらを含む。
7層	7.5YR3/1　黒 褐 色	砂質シルト	粘性なく，しまり弱い。炭化物，灰？らしきもの貝がらを含む。
8層	7.5YR3/1　黒　褐　色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。
9層	10YR4/3　にぶい黄褐色	砂	粘性しまり共になし。貝がらを含む。砂が粗い。
10層	10YR3/3　暗　褐　色	砂	粘性しまり共になし。貝がらをわずかに含む。炭化物もわずかに含む。砂が9層より細かい。
11層	10YR3/2　黒　褐　色	砂	粘性しまり共になし。炭化物をわずかに含む。
12層	10YR3/1　黒　褐　色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。炭化物，遺物片，貝がらを含む。
13層	2.5Y5/3　黄　褐　色	砂	粘性しまり共になし。小石，貝がらをを多く含む。

Aサブトレンチセクション

層位	土色	土性	備考
14層	7.5YR3/3 暗褐色	砂質シルト	粘性しまり共に弱い。貝がら，炭化物を少量含む。
15層	10YR2/2 黒褐色	シルト	粘性しまり共にあり。小石を多く含む。
16層	10YR3/2 黒褐色	シルト	粘性しまり共にあり。炭化物少量含む。
17層	10YR2/3 黒褐色	粘質シルト	粘性強くしまりあり。
18層	10YR3/3 暗褐色	シルト	粘性しまり共にあり。多量に小石を含む。
19層	7.5YR3/1 黒褐色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。小石を含んでいる。
20層	7.5YR4/2 灰褐色	シルト質粘土	粘性しまり共に強い。
21層	10YR2/2 黒褐色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。小石，土器片を少量含む。
22層	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	粘性しまり共にあり。小石，土器片を少量含む。
23層	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	粘性ありしまり弱い。小石を多く含む。
24層	10YR2/2 黒褐色	シルト	粘性しまり共にあり。小石を多く含む。
25層	7.5YR2/1 黒色	シルト	粘性しまり共にあり。土器小片，小石を含む。
26層	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	粘性しまり共にあり。小石，土器小片，炭化物を含む。
27層	7.5YR2/2 黒褐色	シルト	粘性しまり共にあり。炭化物を含む。土器小片を多く含む。
28層	7.5YR2/1 黒色	シルト	粘性ありしまり強い。小石，土器小片を多く含む。
29層	10YR4/2 灰黄褐色	粘質シルト	粘性しまり共にあり。小礫を含む。
30層	10YR6/8 明黄褐色	シルト	粘性しまり共に弱い。地山。

(2) 遺　　物

土師器・須恵器

おもにＳＩ－01とＳＩ－02のカマド付近から出土している。すべてがロクロを使用して成型されており、坏では底部の切り離しが回転ヘラ切りによるものと糸切りによるものとがある。

製塩土器

内面はいずれもハケやヘラ状の工具および指ナデにより丁寧に磨きがかけられているものの、外面は粗雑で、粘土の積み上げ跡を明瞭に残しているものもある。成型は輪積みである。製塩土器は平箱で約60箱分を採集し、そのほとんどが小破片であったが、口縁部から底部まで接合し復元できたものが３点あった。

製塩土器の底部は大きく次のIII類に分けられる。

Ⅰ類→底部が胴体部よりも厚いもの

II類→底部が胴体部よりも薄いもの

III類→底部、胴体部とも同じ厚さのもの

立ち上がりの相違による分類。

１→ほぼ垂直に立ち上がっているもの

２→内反ぎみに立ち上がっているもの

３→立ち上がり部に丸みがあり、ほぼ垂直に立ち上がるもの

４→立ち上がり部に丸みがあり、内反ぎみに立ち上がるもの

５→外反ぎみに立ち上がっているもの

底部の厚さによる分類。

ａ→１cm以上の厚さのもの。

ｂ→１cm以下の厚さのもの。

口縁部の分類

胴体部や底部に比べると、口縁部の出土点数は極めて少ないものの、次のように分類できる。

Ⅰ類→口縁部を指などで平坦に調整しているもの。

II類→口縁部断面が逆Ｕ字状に調整しているもの。

立ち上がり方により

１→直立しているもの

２→内反しているもの

３→外反しているもの

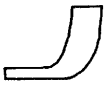
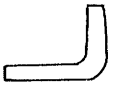
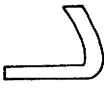
及び口縁部の厚さが１cm以上のもの→ａと以下のもの→ｂとに分けられる。

製塩土器分類表（口縁部）

出土地	層位	Ⅰ類（口縁部が平で厚）			Ⅰ類（口縁部が平で薄）			Ⅱ類（口縁部が山形で薄）			
		1a（直立）	2a（内反）	3a（外反）	1a（直立）	2b（内反）	3b（外反）	1b（直立）	2b（内反）	3b（外反）	
表採					3		4	1			8
C－2	灰原上				1						1
C－6	灰原上				10		1				11
D－2	灰原上						1				1
D－3	灰原上						1				1
D－5	灰原上				1	1	1		2		5
D－9，10	灰原				1	2	4				7
C－3	灰原中				1						1
C－4	灰原中					1					1
C－6	灰原中				5			1			6
C－4	灰原下				1						1
C－6	灰原下				1						1
A－8	灰層上面				4		1	1			6
C－5	灰層上面				1						1
C－6	灰層上面						1				1
DE－10，11	灰層中				1	5	2	1	1		10
A－9	1層上面							2			2
C－4	1層上面						1				1
D－10	1層上面	1			1						2
A－8	2層上面				1		1				2
B－8	2層上面								1		1
C－2	2層上面				1						1
C－3	2層上面				2						2
C－6	2層上面			1	3		3				7
D－9	2層上面				2		1		1	1	5
D－10	2層上面				4						4
A～C 8～10	5層上面				2						2
D－5	5層上面	1									1
D－10	土坑				1						1
D－10	落ち込み埋土									1	1
SK－02								1			1
SK－03	埋土									1	1
SK－04	埋土					1			1		2
2号製塩炉	埋土						1				1
2号製塩炉	B埋土				1		1				2
2号製塩炉跡	2層上面						1				1
3号製塩炉	埋土				2						2
3号製塩炉	床面							1			1
3号製塩炉		1						1			2
4号製塩炉	埋土						1	2	1		4
4号製塩炉							2				2
6号製塩炉							1				1
合計		3		1	50	10	29	11	7	3	114

製塩土器分類表（底部）

製塩		I_1		I_2		I_3		I_4		I_5		II_1		II_2	
出土地	層位														
a＝1㎝以上	b＝1㎝以下	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b
	表採		1						3			3	3	1	1
C－2	灰原上						1								
C－3	灰原上		1						1						
C－5	灰原上								1						
C－6	灰原上				3		1		3			3	7		5
C－11	灰原上														
D－3	灰原上														
D－5	灰原上								3						
B－8	灰　原												1		
C－4	灰　原														
D－9，10	灰　原					1						1			
C－6	灰原中				2		3		1						
F－2，3	灰原中														
A－8	灰層上面		1									5	3	3	
ABC－8	灰　層								1						
F－8	灰　層														
BC－5，6，7	灰層中														1
C－6	灰層中				1										1
C－10	灰層中														
DE－10，11	灰層中		1		1				4			1	2		
A－9	1層上面														
C－4	1層上面												1		
D－3	1層上面														
D－11	1層上面				1										
D－10（SK－05）	1　層														
D－10	1層上面											1			
A－8	2層上面				1							1	1		
B－8	2層上面														
C－2	2層上面														
C－3	2層上面														
C－4	2層上面							1				1			
C－6	2層上面														
D－3	2層上面														
D－4	2層上面														
D－9	2層上面														
D－10	2層上面													1	
D－11	2層上面				2		1								1
A－2	2　層										1				
D－5	5層上面灰層														
A，C 8－10	5層上面														
D－5	5層上面						2		1						
E－4	5層上面														
D－10	5層上面				1				3						
D－11	5層上面		1												
D－10	5　層								1						
SK－03															1
SK－09												1			
SK－03	埋　土												2		
SK－04	埋　土								1						
2号製塩炉									1						
2号製塩炉	埋　土														1
D－10	土　坑														
D－10	落ち込み														
A－13石敷炉			1												
3号製塩炉															1
3号製塩炉	床　下														
4号製塩炉															
4号製塩炉	埋　土														1
	合　計		6		12	1	8	1	24		1	17	20	5	13

II$_3$		II$_4$		II$_5$		II$_6$		III$_1$		III$_2$		III$_3$		III$_4$		III$_5$		
																		
a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	合計
3														1	2	1	1	20
													1			1		3
1				1												1		5
																		1
		1	2					2	4		9		3	1	2			46
													1					1
													2					2
											1				2			6
				1														2
									1									1
2		3	2	1				1						1				12
	1										3				1			11
													1					1
	1							3	2							1		19
															1			2
											1							1
			1															2
											1							3
	1								1									2
		2	1		1	1							1	1	1			17
			1								1							2
																1		2
1																		1
															2			3
1		1																2
												1						2
		2													3			8
1																		1
													1					1
								1										1
				2														4
											3		1					4
																	1	1
									2									2
3								1	1			1						6
1												1	2	2	1			8
																		4
				1								1						3
															1			1
															1			1
1											1		1		1			7
									1		1							2
									1									5
																		1
																		1
1																		2
																		1
			1	1	1			1										6
																		1
									1		1							3
											1		2					4
1		1																2
																	1	1
											1		1		1			4
									1		1							3
									1									1
											1		1					2
									2		1		3		2			9
16	3	10	8	7	2	1		9	18		27	4	21	6	21	5	3	269

縄文土器

3－A地区のサブトレンチから13点出土した。深鉢および鉢の土器片と思われ、頸部に浅い沈線が施されているものと、口唇部まで縄文の施されているものとがみられる。

弥生式土器

縄文土器と同様にサブトレンチから出土しており、口縁部に平行する沈線を施してあるものと、頸部に連続する列点文を施すものとがあり、胴部には縄文が認められる。

石　　器

石鏃石斧各2点と、石核、紡錘車などが出土している。

土　製　品

土錘4点と支脚、フイゴの羽口が出土した。

骨　角　器

鹿角製の刺突具とヘラ状工具が4点出土した。

自然遺物

貝類ではマガキが最も多く、アサリ・ハマグリ・イガイ・シオフキ・アカニシ・ウミニナ・オオツタノハが出土している。魚類ではマダイの椎骨。獣骨ではシカとウマそれに種不明のものが出土している。

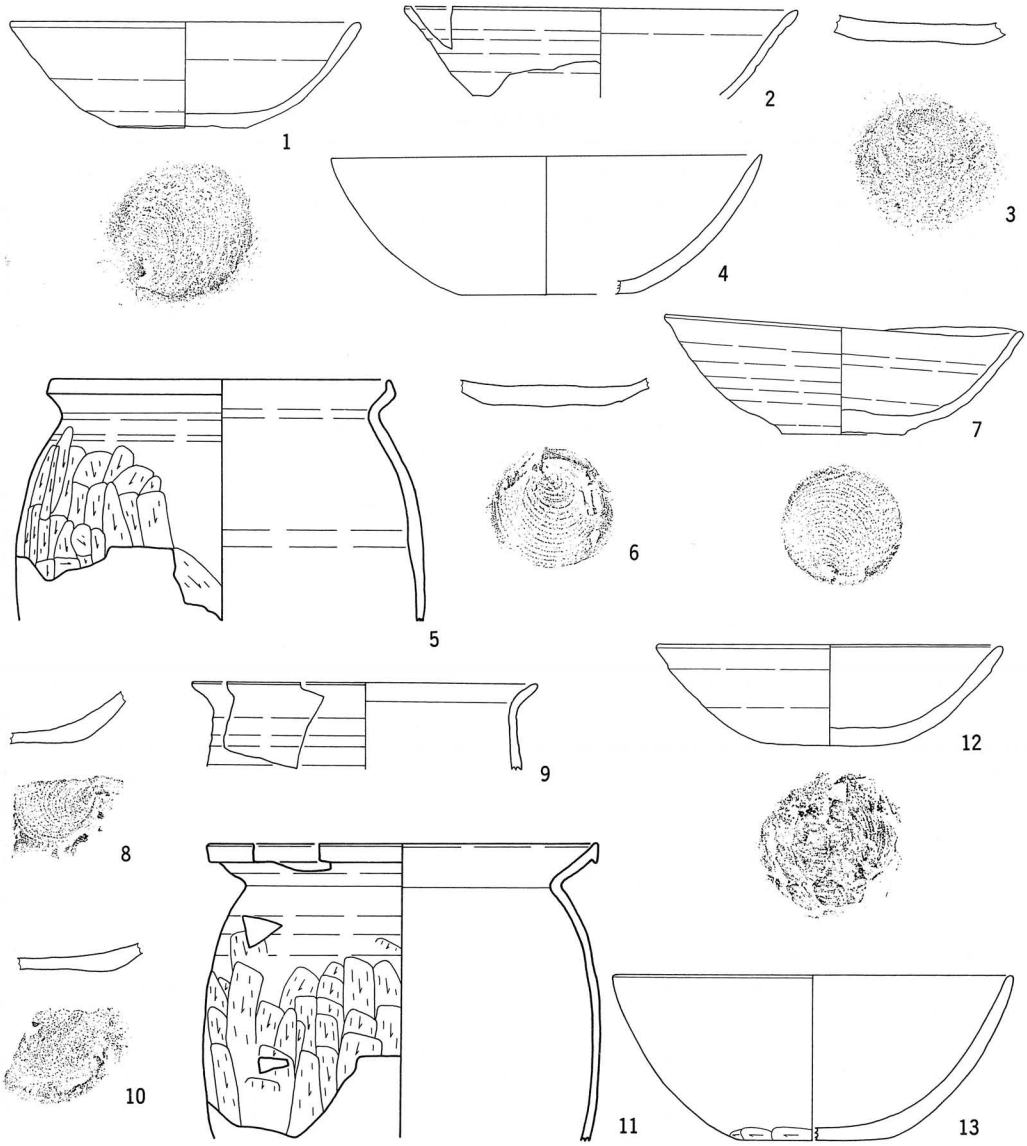
また、サブトレンチからは縄文と弥生の製塩土器が検出されている。縄文土器と伴出の土器はすべて尖底であり、底部に小さなくぼみをもつものもある。弥生土器伴出の製塩土器は小平底で木葉痕のみられるものもある。

自然遺物集計表

	表　採	灰　原	灰　層	1　層	2　層	4　層	5　層	炉　跡	埋　土	層位不明	計
マ　ガ　キ	4	1	15	1		1	1	6	7	3	39
イ　ガ　イ		1						2	1	2	6
オオツタノハ							1				1
ハ　マ　グ　リ	1	1	2				3		1		8
シ　オ　フ　キ		1	1						2	2	6
ア　サ　リ		2						1	11	3	17
ア　カ　ニ　シ	1		2		2					1	6
ウ　チ　ニ　ナ						1			1	1	3
計	6	6	20	1	2	2	5	9	23	12	86

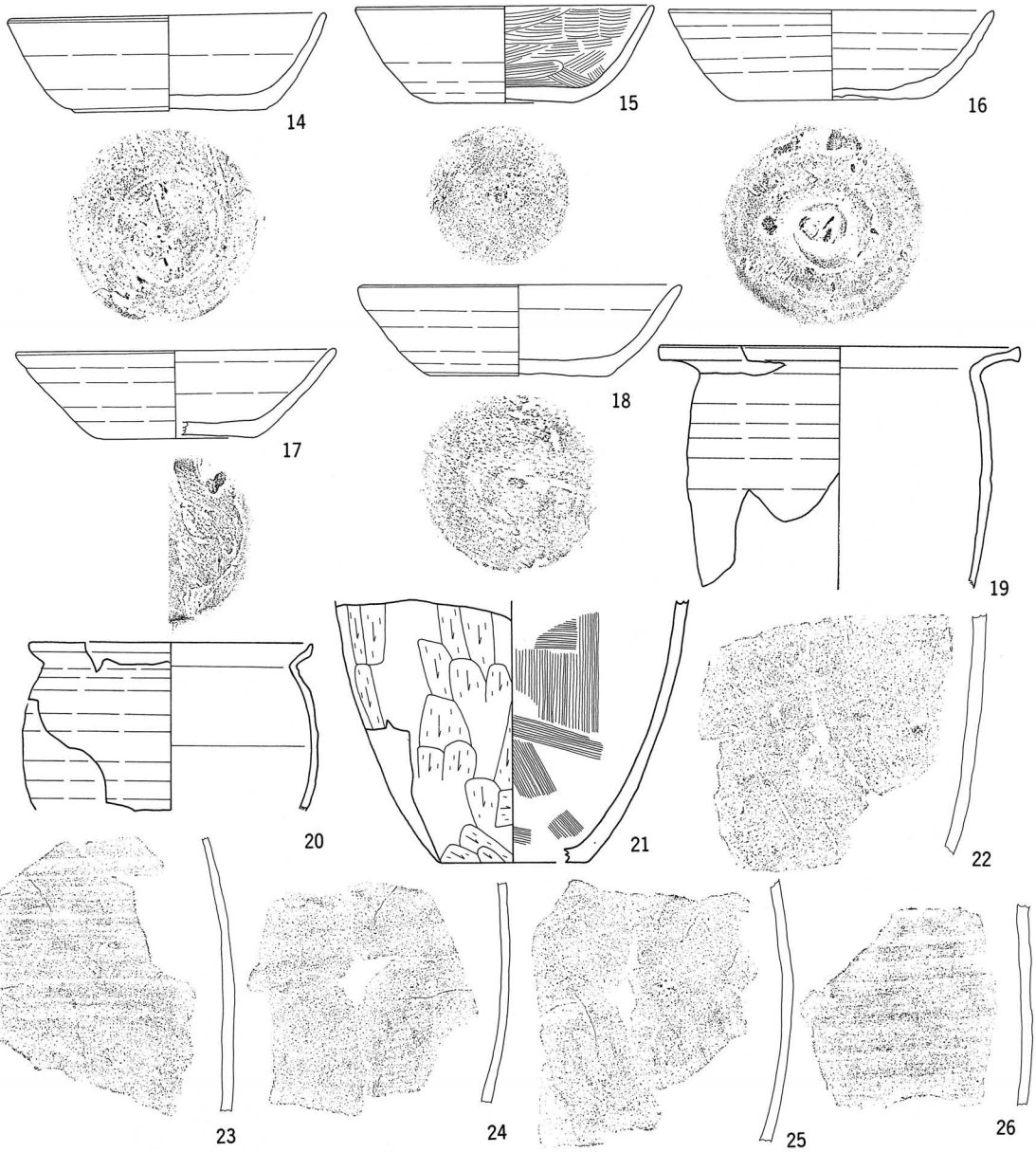
自然遺物集計表

	表採	灰原	灰層	2層	5層	炉跡	埋土	サブトレ	層位不明	計	備考
シカ 鹿角		2		1					1	4	
〃 踵骨			1		1					2	
〃 距骨					1					1	
〃 中手骨		1								1	
〃 中足骨			1							1	
〃 大腿骨		1								1	
〃 腰椎								1		1	
〃 指骨								3		3	
計		4	2	1	2			4	1	14	
ウマ 基節骨				1						1	
〃 足根骨		4								4	一括
〃 中足骨		1								1	
〃 踵骨		1								1	
〃 距骨		1								1	
〃 歯骨	1	2							2	5	
計	1	9		1					2	13	
不明獣骨		5	1	9	2	2	2		1	22	
〃 肋骨				2	1					3	一括
〃 鳥骨					1					1	
計		5	1	11	4	2	2		1	26	
マダイ椎骨					2					2	
計					2					2	
合計	1	18	3	13	8	2	2	4	4	55	



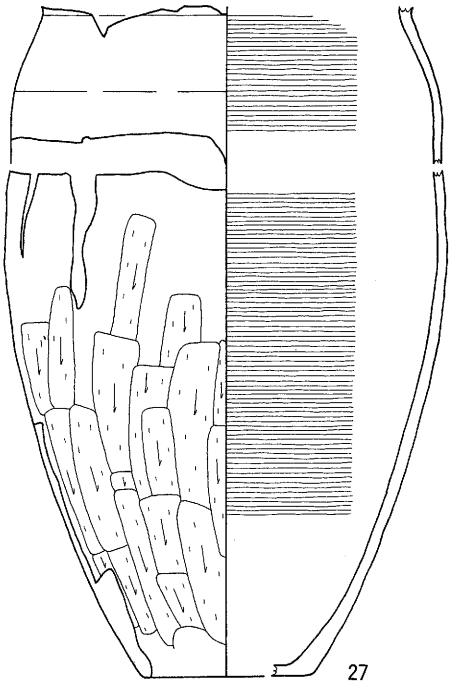
表－1　ＳＩ－01　出土遺物

土器番号	出土地区－層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
1	ＳＩ－01 カマド内 3層	土師器	坏 口縁～底部	4.2	13.6	5.5	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部 回転糸切り	1/3
2	ＳＩ－01 カマド内 3層	土師器	坏 口縁～体部	－	15.6	－	0.3	ロクロ調整	ロクロ調整	1～2㎜の石英粒を少し含む。	1/3
3	ＳＩ－01 カマド内 3層	土師器	坏 底部	－	－	5.0	0.7	ナデ		底部回転糸切り	1/3
4	ＳＩ－01 3層	土師器	坏 口縁～底部	5.5	17.1	6.8	0.5	ロクロ調整	ロクロ調整	1～2㎜の石英粒を少し含む	1/3
5	ＳＩ－01 カマド内	土師器	甕 口縁～体部	－	18.1	－	0.6	ロクロ調整	ロクロ調整 ヘラケズリ	1～2㎜の石英粒を少し含む	1/4
6	ＳＩ－01 カマド内	土師器	坏 底部	－	－	4.8	0.9	ナデ		底部 回転糸切り	1/3
7	ＳＩ－01 床面直上	須恵器	坏 口縁～底部	4.6	14.3	4.7	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部 回転糸切り，口縁部上に炭化物が付着している	1/3
8	ＳＩ－01 床面直上	土師器	坏 底部	－	－	5.6	0.4～0.6	ロクロ調整	ロクロ調整	底部 回転糸切り	1/3
9	ＳＩ－01 埋土	土師器	甕 口縁～体部	－	18.4	－	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	1～2㎜の石英粒を少し含む	1/4
10	ＳＩ－01 埋土	土師器	坏 底部	－	－	5.0	0.5～0.7	ミガキ	ロクロ調整	底部 回転糸切り	1/3
11	ＳＩ－01 煙道	土師器	甕 口縁～体部	－	28.0	－	0.5	ロクロ調整	ロクロ調整 ヘラケズリ	2㎜以下の石英粒を多く含む	1/4
12	ＳＩ－01 テラス	土師器	坏 口縁～底部	4.0	13.6	5.6	0.5	黒色処理 ミガキ	ロクロ調整	底部 回転糸切り キガキは摩滅してよくわからない	1/3
13	ＳＩ－01	土師器	坏 口縁～底部	6.6	16.2	6.0	0.6	ロクロ調整	ロクロ調整	底部へラケズリ調整	1/3

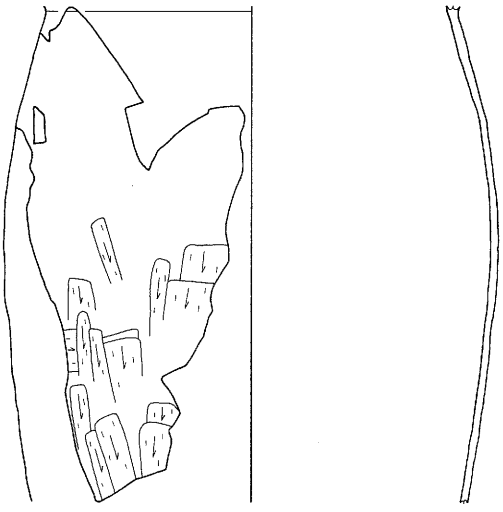


表一2　ＳＩ一02出土遺物

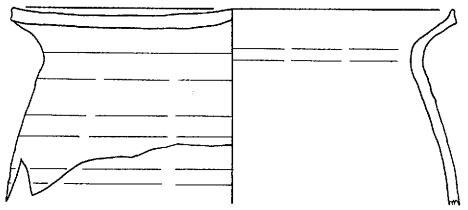
土器番号	出土地 地区一層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
14	ＳＩ一02　北西コーナー　2層	須恵質土器坏	口縁～底部	3.9	13.2	8.2	0.5	ロクロ調整	ロクロ調整	底部回転ヘラ切り	1/3
15	ＳＩ一02　10層	土師器　坏	口縁～底部	4.1	12.4	5.8	0.4	黒色処理 ミガキ	ロクロ調整	底部回転ヘラ切り　1～2㎜の石英粒　1㎜の小石粒を含む	1/3
16	ＳＩ一02　カマド内	須恵質土器坏	口縁～底部	3.9	13.7	8.4	0.5	ロクロ調整	ロクロ調整	底部ヘラ切り　ひずみがある	1/3
17	ＳＩ一02　カマド内	須恵器　坏	口縁～底部	3.7	13.3	6.8	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部回転ヘラ切り後手持ヘラケズリ　1～7㎜の小石粒を含む	1/3
18	ＳＩ一02　カマド内	土師器　坏	口縁～底部	3.8	13.8	7.5	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部手持ちヘラ切り	1/3
19	ＳＩ一02　カマド内	土師器　甕	口縁～体部	—	20.4	—	0.5	ロクロ調整	ロクロ調整	1～2㎜の石英粒を多く含む	1/4
20	ＳＩ一02　カマド内	土師器　甕	口縁～体部	—	15.8	—	0.3	ロクロ調整	ロクロ調整	焼成あまり良くない	1/4
21	ＳＩ一02　カマド内	土師器　甕	体部～底部	—	—	8.4	0.6	ナデ・刷毛目	ヘラケズリ	底部ヘラ切り，指ナデしているが，はっきりわからない。1～2㎜の石英粒，小石粒を含む。	1/4
22	ＳＩ一02　カマド内	土師器　甕	体部	—	—	—	0.7	指ナデ	ヘラケズリ	1～2㎜の石英粒，白色粒を含む。	1/4
23	ＳＩ一02　カマド内	土師器　甕	体部	—	—	—	0.4～0.7	ロクロ調整	ロクロ調整 ヘラケズリ	1㎜以下の石英粒を多く含む。	1/4
24	ＳＩ一02　カマド内	土師器　甕	体部	—	—	—	0.3	刷毛目	ロクロ調整 ヘラケズリ	1㎜以下の石英粒，白色粒を含む。	1/4
25	ＳＩ一02　カマド内	土師器　甕	体部	—	—	—	0.6	刷毛目	ロクロ調整 ヘラケズリ	1～2㎜以下の石英粒，白色粒を含む。	1/4
26	ＳＩ一02　カマド内	土師器　甕	体部	—	—	—	0.9	回転刷毛目	ロクロ調整	1㎜以下の石英粒を含む。	1/4



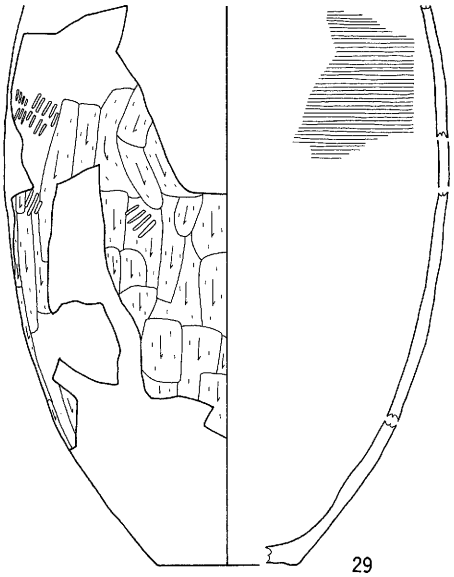
27



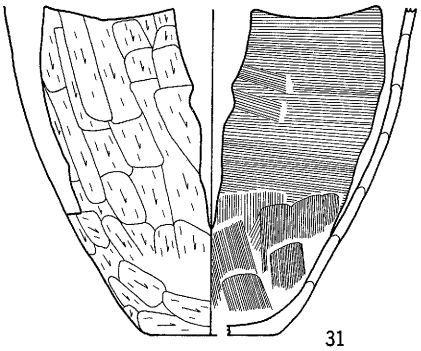
28



30



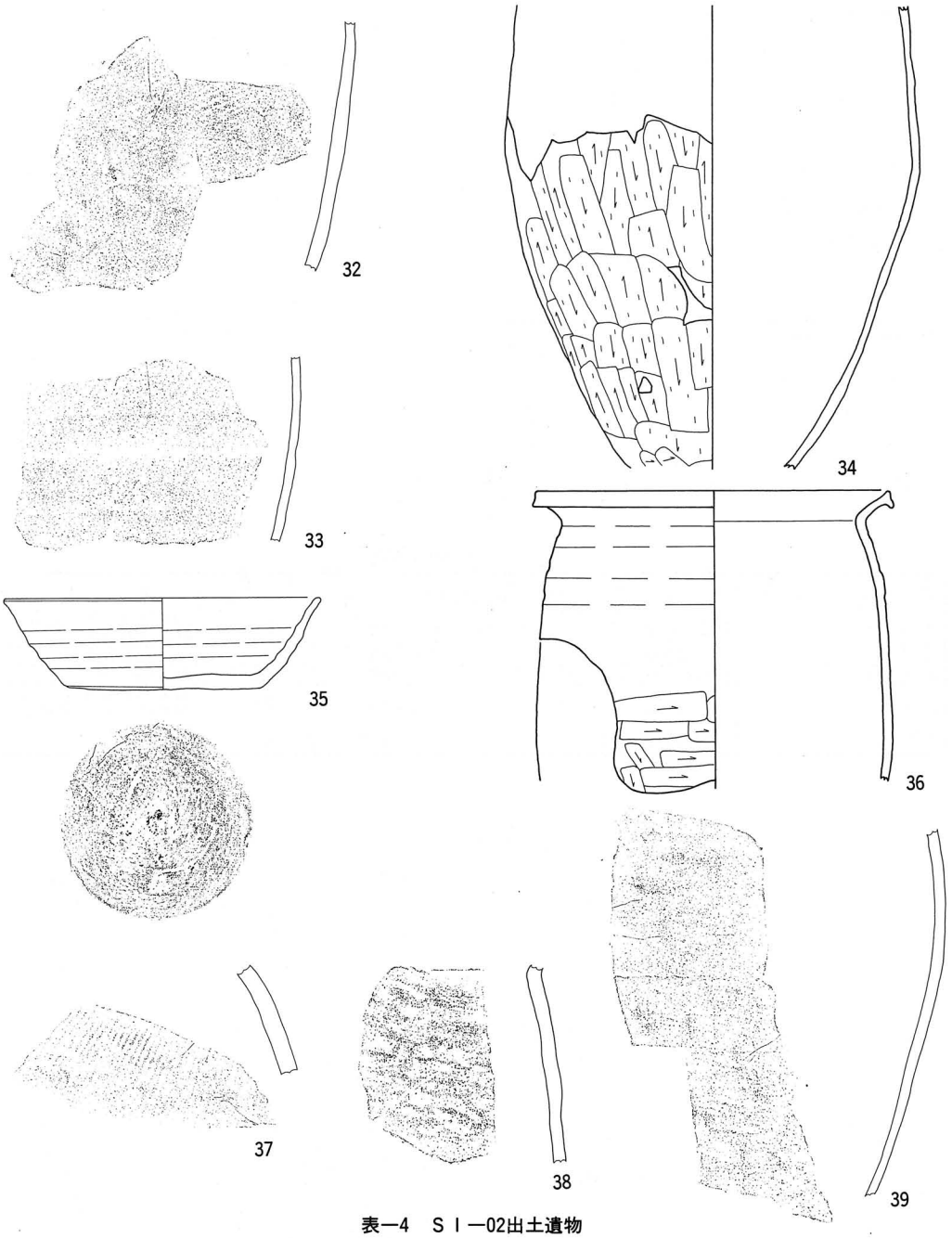
29



31

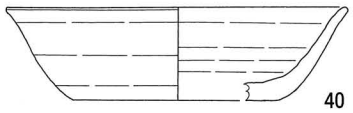
表－3　ＳＩ－02出土遺物

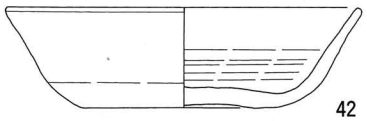
土器番号	出土地 地区－層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
27	ＳＩ－02 煙道	土師器 甕	体部～底部	－	－	9.0	0.6	回転刷毛目	ロクロ調整 ヘラケズリ	底部ヘラ切リ。1～3㎜の石英粒，白色粒・小石粒を多く含む。	1/4
28	ＳＩ－02 煙道	土師器 甕	体部	－	－	－	0.4	回転刷毛目 刷毛目	ロクロ調整 ヘラケズリ	1～3㎜の石英粒，小石粒を含む。	1/4
29	ＳＩ－02 煙道	土師器 甕	体部～底部	－	－	7.4	0.6	頸部～体部刷毛目 胴部～底部指ナデ	ロクロ調整 ヘラケズリ　叩き	底部　ヘラ切リ，1～2㎜の石英粒，1～5㎜の小石粒を含む。	1/4
30	ＳＩ－02 煙道	土師器 甕	口縁～体部	－	23.4	－	0.5	ロクロ調整	ロクロ調整	器高に誤差あり	1.4
31	ＳＩ－02 煙道	土師器 甕	体部～底部	－	－	6.8	0.5	回転刷毛目 刷毛目	ロスロ調整 ヘラケズリ	底部近くは雑なナデの後に刷毛目調整が施されている。	1/4

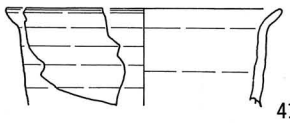


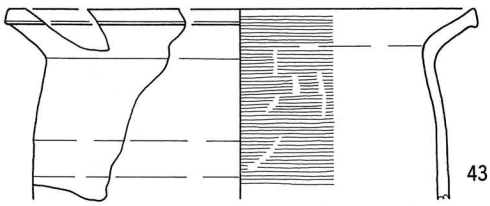
表—4　ＳＩ—02出土遺物

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
32	ＳＩ—02　煙道	土師器	甕 体部	—	—	—	0.5～0.8	刷毛目	平行叩き ヘラケズリ	1㎜以下の石英粒を含む。	1/4
33	ＳＩ—02　煙道	土師器	甕 体部	—	—	—	0.5	ロクロ調整	平行叩き後 ロクロ調整		1/4
34	ＳＩ—02　煙道	土師器	甕 体部～底部	—	—	7.6	0.4	ロクロ調整	ヘラケズリ	1～2㎜の石英粒・小石粒を多く含んでいる。	1/4
35	ＳＩ—02　床面	須恵器	坏 口縁～底部	4.0	13.7	8.3	0.5	ロクロ調整	ロクロ調整	底部　回転ヘラ切り後ヘラケズリ調整。1㎜程の小石粒・白色粒を含む。	1/3
36	ＳＩ—02	土師器	甕 口縁～体部	—	20.4	—	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	1㎜以下の石英粒を多く含む。	1/4
37	ＳＩ—02	須恵器	甕 体部	—	—	—	0.9	ナデ	平行叩き	1～2㎜の石英粒を多く含む。	1/4
38	ＳＩ—02	土師器	甕 体部	—	—	—	0.5～0.7	ロクロ調整	平行叩き後 ロクロ調整	1㎜以下の石英粒を多く含む。	1/3
39	ＳＩ—02	土師器	甕 体部	—	—	—	0.6	回転刷毛目	ロクロ調整 ヘラケズリ	1㎜以下の石英粒を多く含む。3㎜程の石英粒も若干含む。	1/4



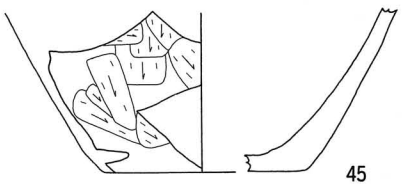


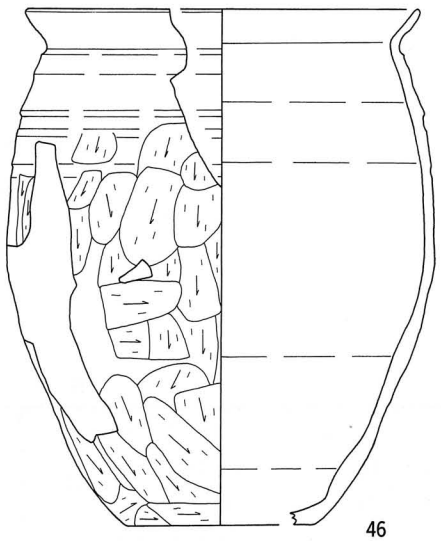




表－5　ＳＤ出土遺物

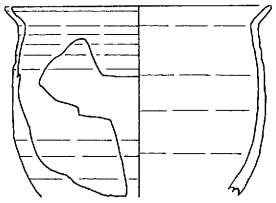
土器番号	出土地区－層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
40	ＳＤ－02	須恵器	坏 口縁～底部	3.7	13.4	8.4	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部ヘラケズリ　1～2㎜の石英粒，小石粒を含む。	1/3
41	ＳＤ－02	土師器	甕 口縁	－	14.6	－	0.5	ロクロ調整	ロクロ調整	1～2㎜の石英粒を含む	1/4
42	ＳＤ－03	須恵質土器	坏 口縁～底部	4.0	14.4	8.0	0.5	ロクロ調整	ロクロ調整	底部　回転ヘラ切リ	1/3
43	ＳＤ－03	土師器	甕 口縁～体部	－	25.0	－	0.5	回転刷毛目	ロクロ調整 叩き	外面に叩き調整が施されているが摩滅している。1～2㎜の石英粒を多く含む。	1/4
44	ＳＤ－04	須恵質土器	甕 底部	－	－	14.0	0.8	ロクロ調整	ロクロ調整	底部はく離している	1/3



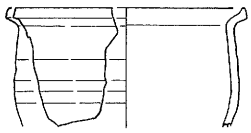


表－6　ＳＫ出土遺物

土器番号	出土地区－層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
45	ＳＫ－02	土師器	甕 体部～底部	8.5	－	10.6	1.5	ミガキ	ナデ		1/4
46	ＳＫ－08	土師器	甕 口縁～底部	27.7	20.8	10.0	0.5	ロクロ調整	ロクロ調整 ヘラケズリ	底部ヘラ切リ　1～2㎜の石英粒，白色粒をわずかに含む。	1/4



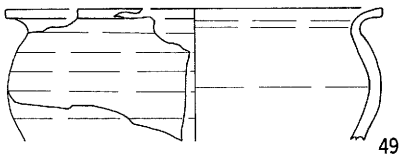
47



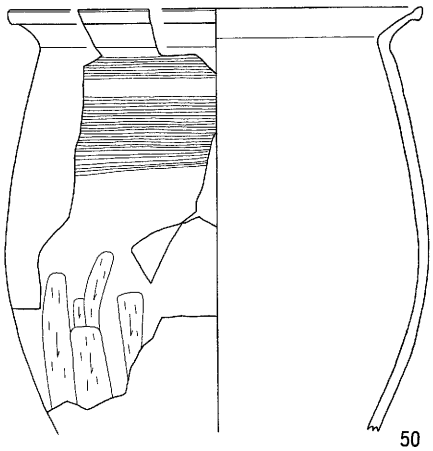
48

表－7　3号製塩炉出土遺物

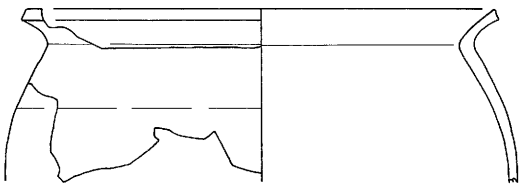
土器番号	出土地 地区－層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
47	3号炉	土師器 甕	口縁～体部	－	14.1	－	0.3	ロクロ調整	ロクロ調整		1/4
48	3号炉	土師器 甕	口縁～体部	－	12.4	－	0.3	ロクロ調整	ロクロ調整	1～2㎜の石英粒，小石粒を含む。	1/4



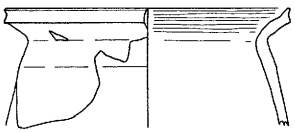
49



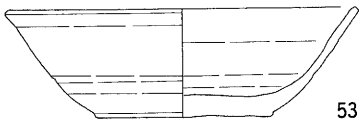
50



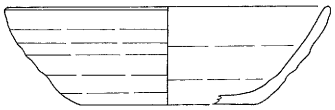
51



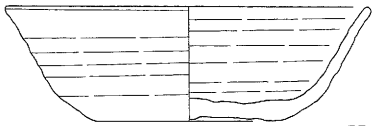
52



53



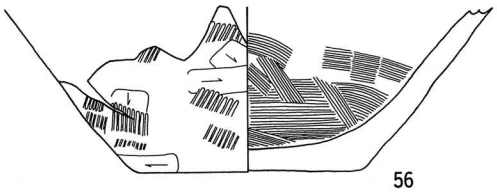
54



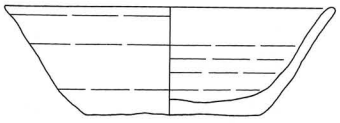
55

表－8　Aライン出土遺物

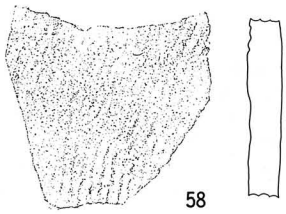
土器番号	出土地 地区－層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
49	A－3　4層上面	須恵器 甕	口縁～体部	－	20.2	－	0.6	ロクロ調整	ロクロ調整		1/4
50	A－5　5層上面	土師器 甕	口縁～体部	－	22.0	－	0.6	刷毛目	回転刷毛目		1/4
51	A－9　5層上面	土師器 甕	口縁～体部	－	25.2	－	0.5	ロクロ調整	ロクロ調整	1～3㎜の石英粒，小石粒を含む。	1/4
52	A－9　5層上面	土師器 甕	口縁～体部	－	15.6	－	0.6	口縁部刷毛目	ロクロ調整	1～2㎜の石英粒，白色粒を含む。	1/4
53	A－10　5層上面	須恵質土器坏	口縁～底部	4.3	13.8	6.8	0.3	ロクロ調整	ロクロ調整	底部回転ヘラ切リ	1/3
54	A－10　5層上面	須恵質土器坏	口縁～底部	3.9	13.0	7.0	0.5	ロクロ調整	ロクロ調整	底部回転ヘラ切リ	1/3
55	A－10　5層上面	須恵器 坏	口縁～底部	4.6	14.6	7.5	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部 回転ヘラ切リ 1.5㎜の小石粒，1㎜程の白色粒を含む。	1/3



56



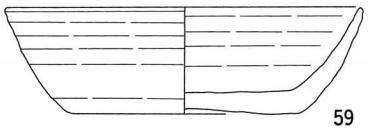
57



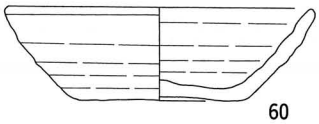
58

表－9　Aライン出土遺物

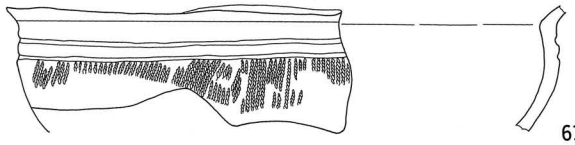
土器番号	出土地区－層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
56	A－10　5層上面	須恵器	甕 体部～底部	－	－	12.4	1.2	回転刷毛目	ヘラナデ　平行叩き		1/4
57	A－8　5層中	須恵器	坏 口縁～底部	4.3	13.6	6.8	0.5	ロクロ調整	ロクロ調整	底部　回転ヘラ切り	1/3
58	A－12	須恵器	甕 体部	－	－	－	1.3～1.4	同心円文	平行叩き		1/3



59



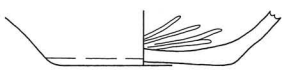
60



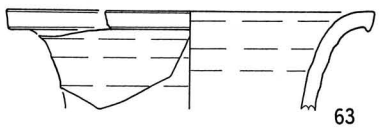
61

表－10　Bライン出土遺物

土器番号	出土地区－層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
59	B－14　4a層	須恵器	坏 口縁～底部	4.2	14.2	9.4	0.6	ロクロ調整	ロクロ調整	底部ヘラケズリ	1/3
60	B－8・9　5層上面	須恵器	坏 口縁～底部	3.7	13.6	6.8	0.6	ロクロ調整	ロクロ調整	底部ヘラケズリ	1/3
61	B－2　深掘トレンチ	縄文土器	甕 口縁	－	20.0	－	0.5	横ミガキ	平行沈線文，撚糸文	1㎜以下の石英粒を多く含む。	1/3



62

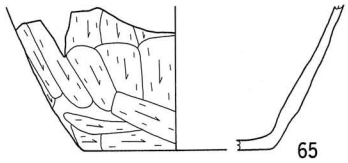


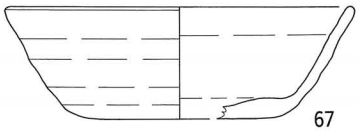
63

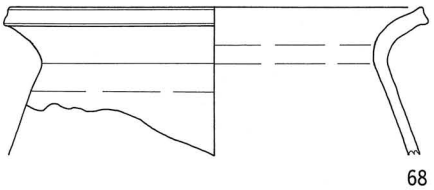
64

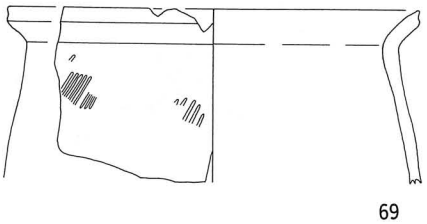
表－11　Cライン出土遺物

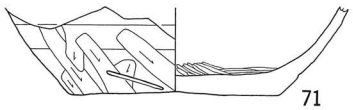
土器番号	出土地区－層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
62	C－3　灰原上	土師器	杯 底部	－	－	7.0	0.5	黒色処理 ミガキ	ロクロ調整	底部　回転糸切り	1/3
63	C－3　灰原上	須恵器	甕 口縁	－	19.8	－	0.7	ロクロ調整	ロクロ調整		1/4
64	C－6　灰原中	須恵器	甕 体部	－	－	－	1.2	ナデ	叩き		1/3

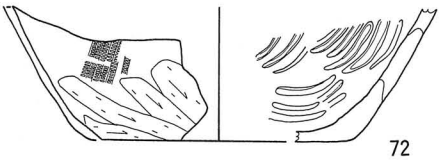


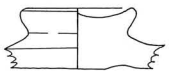


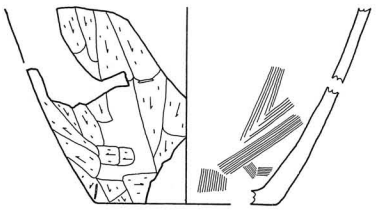






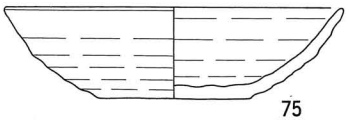




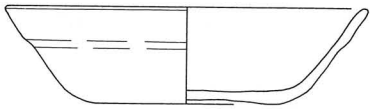


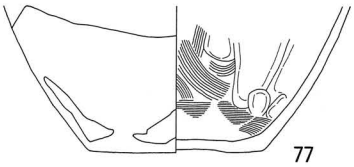
表—12　Cライン出土遺物

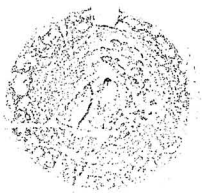
土器番号	出土地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
65	C—7 灰原中	土師器 甕	体部～底部	—	—	10.2	0.6	ナデ	ヘラケズリ	1～2㎜の石英粒，1～3㎜の小石粒を多く含む。	1/4
66	C—7 灰原中	土師器 甕	体部	—	—	—	0.4～0.7	ナデ	平行叩き後ナデ		1/4
67	C—5 灰原下	須恵器 杯	口縁～底部	4.5	13.8	7.6	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部 ヘラ切り 1～2㎜の石英粒，小石粒を含む。	1/3
68	C—15 灰層上面	土師器 甕	口縁	—	21.0	—	0.7	ロクロ調整	ロクロ調整		1/4
69	C—15 灰層上面	土師器 甕	口縁～体部	—	22.0	—	0.6	回転刷毛目	ロクロ調整 叩き		1/4
70	C—3 灰層中	須恵器	ツマミ	—	—	—	—	ロクロ調整	ロクロ調整		1/4
71	C—5 灰層中	土師器 杯	底部	—	—	8.4	0.4	黒色処理 ヘラミガキ	ロクロ調整 ナデ	底部 回転ヘラ切り後ヘラ調整	1/3
72	C—5・6・7 灰層	須恵器 甕	体部～底部	—	—	11.0	0.8	同心円文	ヘラナデ 平行叩き		1/4
73	C—5・6・7 灰層	須恵器 甕	体部	—	—	—	0.7～1.0	ナデ	平行叩き		1/4
74	C—17 ベルト 1層	土師器 甕	体部～底部	—	—	9.6	0.7	ナデ	ヘラケズリ	1～3㎜の石英粒，1～2㎜の小石粒を含む。	1/4

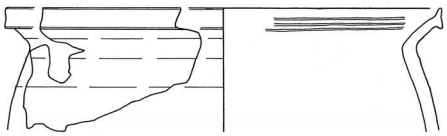

75

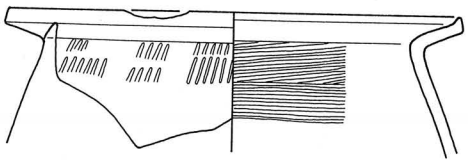
76

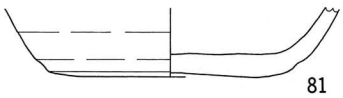

78

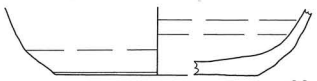

77




79


80

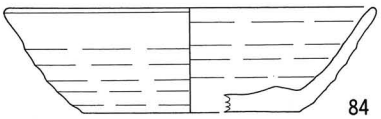

81

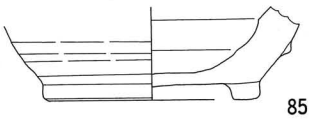

82

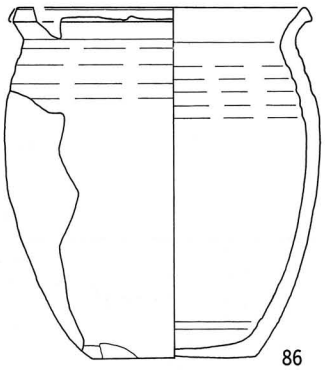
表—13　Cライン出土遺物

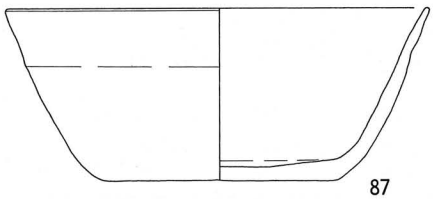
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
75	C—14　2層上面	土師器	坏 口縁～底部	3.7	13.5	6.2	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部ヘラ切り　1～2㎜の石英粒，小石粒を含む。	1/3
76	C—16　2層	須恵器	甕 体部	—	—	—	0.8～1.0	ロクロ調整	平行叩き後ロクロ調整		1/4
77	C—15　2層	土師器	甕 体部～底部	—	—	9.2	0.5	ナデ	ヘラケズリ	1～2㎜の石英粒，小石粒を多く含む。	1/4
78	C—16　2層	須恵質土器	坏 口縁～底部	3.8	14.6	7.2	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部　回転ヘラ切り	1/3
79	C—16　2層	土師器	甕 口縁	—	17.2	—	0.5	刷毛目	ロクロ調整	1～2㎜の石英粒を含む。	1/4
80	C—16　2層	土師器	甕 口縁	—	24.2	—	0.5	回転刷毛目	叩き	1～2㎜の石英粒を多く含む。	1/4
81	C—17　2層	土師器	甕 底部	—	13.2	9.0	0.7	ロクロ調整	ロクロ調整	底部回転ヘラ切り	1/4
82	C—15　3層	須恵器	坏 体部～底部	—	—	8.2	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部回転ヘラ切り	1/3

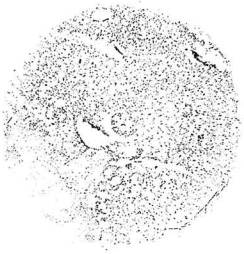
83

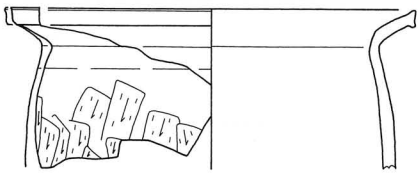

84

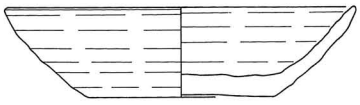

85

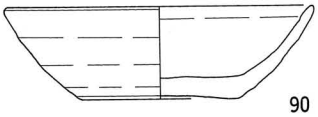

86

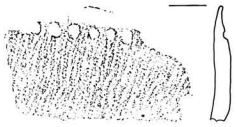

87

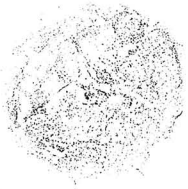


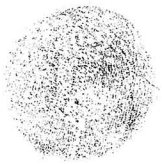

88


89


90

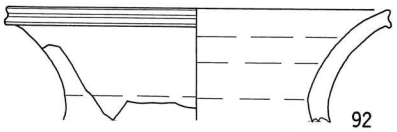

91

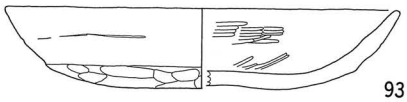




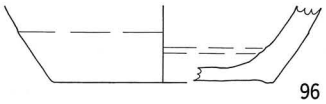
表—14　Cライン出土遺物

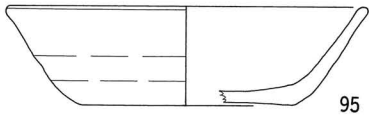
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
83	C—14　4a層	土師器	坏底部	—	—	8.4	0.5	黒色処理　ミガキ	ヘラケズリ	底部ヘラ切り　ミガキはあるが摩滅してよくわからない。	1/3
84	C—16　4層上面	須恵器	坏口縁～底部	4.2	14.6	8.6	0.5	ロクロ調整	ロクロ調整	底部切り離し後手持ちヘラケズリ　1～2㎜の石英粒，小石粒を含む。	1/3
85	C—16　4層	須恵器	甕底部	—	—	8.6	1.5	ロクロ調整	ロクロ調整	台付底部	1/4
86	C—17　4層	土師器	甕口縁～底部	18.8	14.3	8.8	0.7	ロクロ調整	ロクロ調整 ヘラケズリ	2㎜以下の石英粒を多く含む。	1/4
87	C—17　4層中	土師器	坏口縁～底部	6.9	16.8	9.4	0.6	ロクロ調整	ロクロ調整	底部　回転ヘラ切り	1/3
88	C—17　4層中	土師器	甕口縁	—	21.8	—	0.6	ロクロ調整　ナデ	ロクロ調整 ヘラケズリ	1～2㎜の石英粒，白色粒，小石粒を含む。	1/4
89	C—5　5層上面	須恵器	坏口縁～底部	3.6	13.8	7.4	0.5	ロクロ調整	ロクロ調整	底部　回転ヘラ切り　1～2㎜の石英粒，小石粒を含む。	1/3
90	C—10　5層上面	土師器	坏口縁～底部	3.7	12.2	6.2	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部　ヘラ切り　1㎜以下の石英粒，1～5㎜の小石粒を含む。	1/3
91	C—2　5層	縄文土器	口縁	—	—	—	0.6	ミガキ	撚糸文　竹管文		1/3


92


93

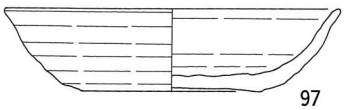
94

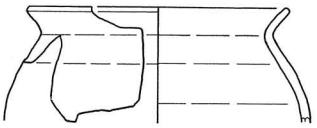

96

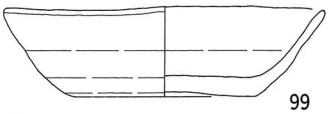

95

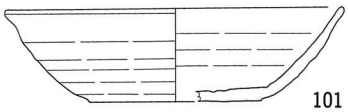
表—15　Cライン出土遺物

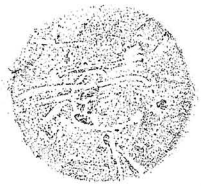
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
92	C—12　5層	須恵質土器甕	口縁	—	10.2	—	1.1	ナデ	ロクロ調整		1/4
93	C—13　5層中	土師器　坏	口縁～底部	3.2	15.2	6.0	0.6	ヘラミガキ	横ナデ	底部ヘラケズリ調整　2㎜以下の小石粒・白色粒を含む。	1/3
94	C—13　5層中（炭層上）	須恵器	蓋	—	15.1	—	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	1～6㎜の小石粒を含む。	1/3
95	C—16　6層上面	須恵器　坏	口縁～底部	4.0	14.4	8.5	0.5	ロクロ調整	ロクロ調整	底部回転ヘラケズリ	1/3
96	C—16　6層	土師器　甕	底部	—	—	8.8	0.9	ロクロ調整	ロクロ調整	1～2㎜の石英粒，小石粒を含む。	1/4

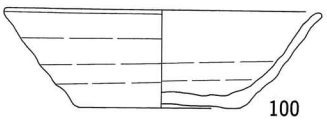

97

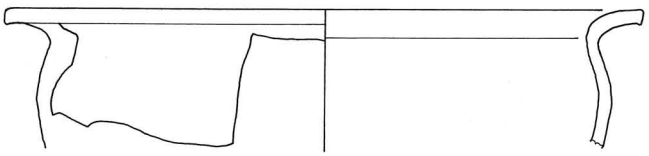

98


99


101

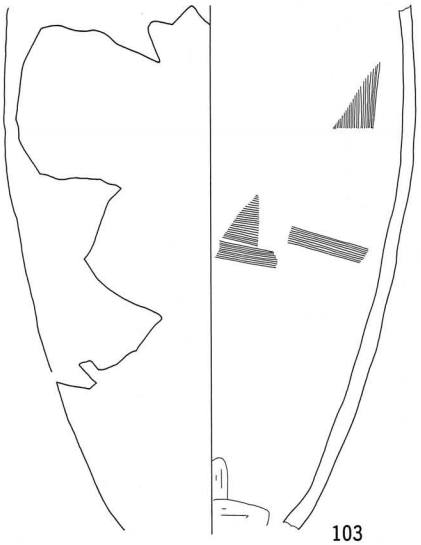



100

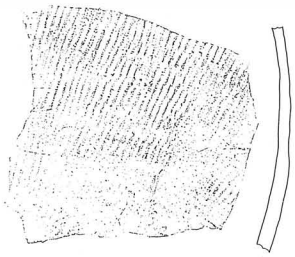

102

表—16　Dライン出土遺物

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
97	D—5　灰原上	須恵器　坏	口縁～底部	3.3	13.3	7.2	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部回転糸切り　焼きひずみのため口径，器高に誤差あり。1～3㎜の小石粒を含む。	1/3
98	D—3　灰原中	土師器　甕	口縁～体部	—	14.8	—	0.5	ロクロ調整	ロクロ調整	1～2㎜の石英粒，小石粒をわずかに含む。	1/4
99	D—4　灰原下	須恵器　坏	口縁～底部	3.7	12.7	7.2	0.3	ロクロ調整	ロクロ調整	底部回転ヘラ切り。焼きひずみあり。わらの焼け跡がある。	1/3
100	D—8　4層	須恵器　坏	口縁～底部	4.0	12.7	6.3	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部回転糸切り。焼成良好。胎土密。	1/3
101	D—5　5層上面	須恵器　坏	口縁～底部	3.7	13.4	6.8	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部ヘラ切り　1～2㎜の石英粒，小石粒を含む。	1/3
102	D—5　5層上面	須恵器　甕	口縁	—	34.2	—	0.5	ロクロ調整	ロクロ調整	石英粒を含む。	1/4



103

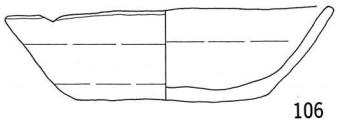


104

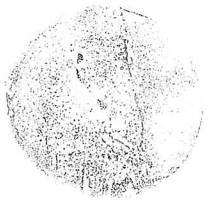
表—17　Dライン出土遺物

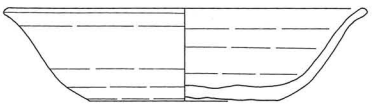
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
103	D—5　5層上面	土師器　甕	体部	—	—	9.2	0.6	ナデ	ヘラケズリ	全体にケズリがあるが，再調整がわからない。	1/4
104	D—2　貝層上	須恵器　甕	体部	—	—	—	0.5～0.8	青海波文	平行叩き ヘラケズリ		1/4

105

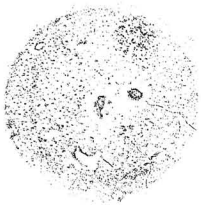


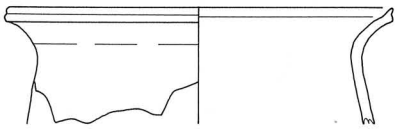
106





107

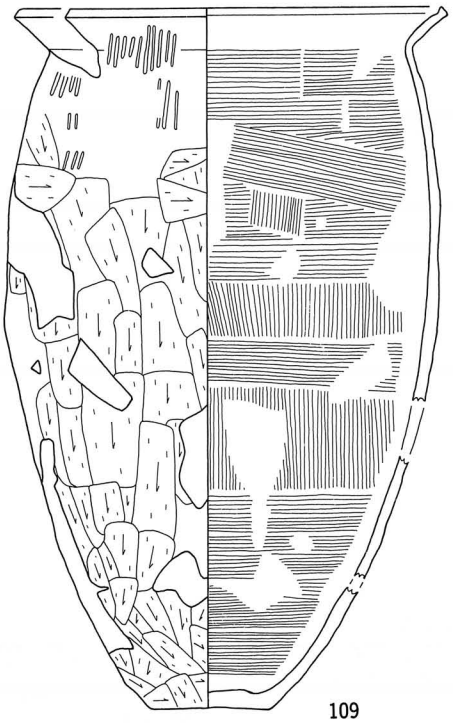




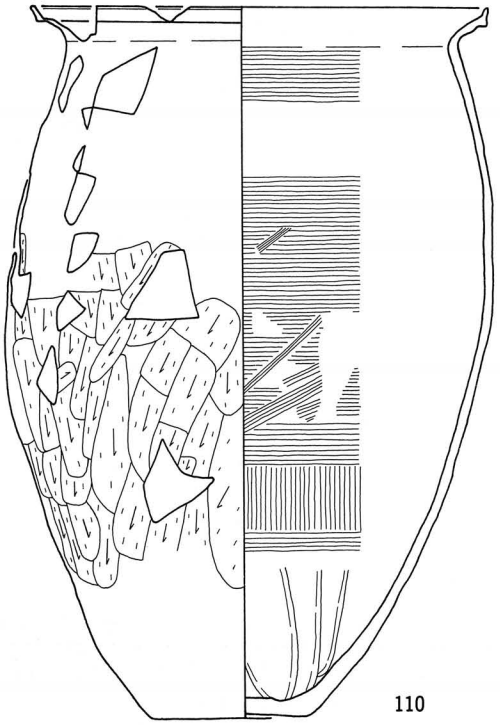
108

表—18　Eライン出土遺物

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
105	E—3　灰原上	須恵器　甕	体部	—	—	—	0.8～1.0	ナデ	平行叩き		1/3
106	E—3　灰層中	須恵器　坏	口縁～底部	3.8	12.0	7.4	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部回転ヘラ切り	1/3
107	E—15　4b層	須恵質土器坏	口縁～底部	3.7	14.4	7.6	0.3	ロクロ調整	ロクロ調整	底部回転ヘラ切り	1/3
108	E—4　5層上面	土師器　甕	口縁	—	20.4	—	0.6	ロクロ調整	ロクロ調整		1/4



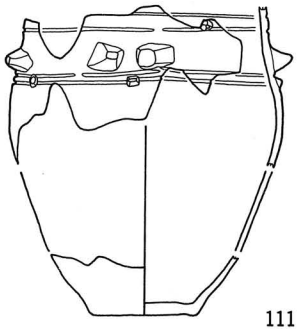
109



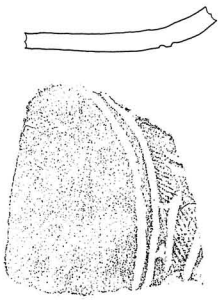
110

表—19　Eライン出土遺物

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
109	E—4 5層上面	土師器 甕	口縁～底部	37.7	22.4	6.2	0.6	刷毛目	ヘラケズリ 叩き	頸部に叩きが施されているが，あまり良く見えない。	1/4
110	E—4 5層上面	土師器 甕	口縁～底部	38.2	24.1	8.4	0.5	刷毛目底部近くは指ナデ	ヘラケズリ	体部から底部に灰が付着 焼きひずみがある。	1/4



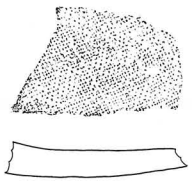
111

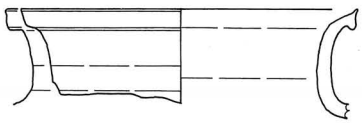


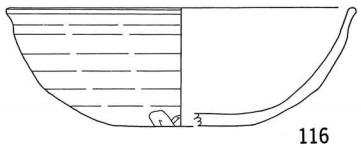
112

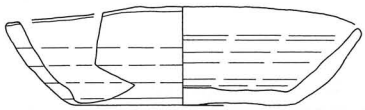
表—20　Fライン出土遺物

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
111	F—2・3 灰層中	弥生土器甕	体部～底部	—	—	5.8	0.4	ナデ	手持ヘラケズリ ナデ	外面，平行沈線文，ボタン状粘土貼付文が施されている。1㎜以下の石英粒，小石粒を含む。	1/4
112	F—2 2層	大陸式土器皿	底部	—	—	—	0.7	ナデ	雲形文 平行沈線文		1/3

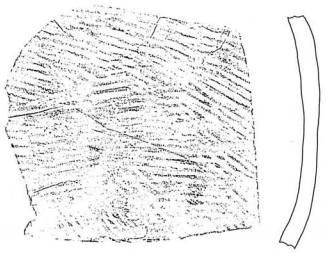

113

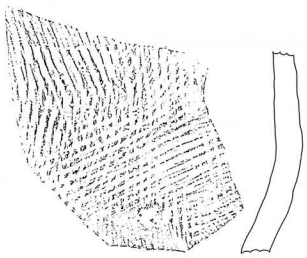

115

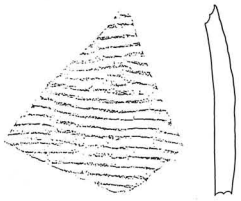

116

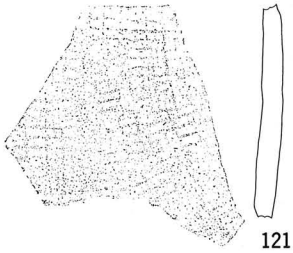

117

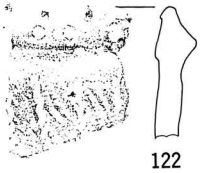
114


118

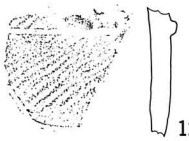

119

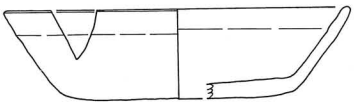

120


121


122

123


124

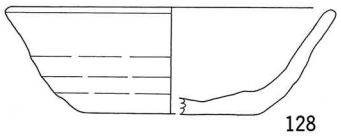

125

表—21　地区不明，表採遺物

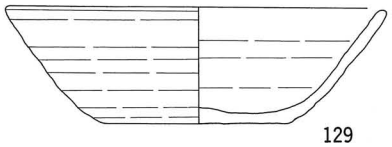
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
113	東拡張部 表採	瓦		—	—	—	1.8	布目			1/3
114	不明 表採	瓦		—	—	—	1.0～1.4	布目	ナデ		1/3
115	不明 表採	須恵器 甕	口縁	—	18.6	—	0.7	ロクロ調整	ロクロ調整		1/2
116	不明 表採	土師器 坏	口縁～底部	4.7	13.8	5.4	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部ヘラ切り	1/3
117	不明 表採	須恵器 坏	口縁～底部	3.9	14.0	8.8	0.7	ロクロ調整	ロクロ調整	底部ヘラ切り，焼きひずみがあり，口径器高に誤差がある。1～3㎜小石粒を含む	1/3
118	不明 表採	須恵器 甕	体部	—	—	—	1.0～1.2	ナデ刷毛目	平行叩き		1/4
119	不明 表採	須恵器 甕	体部	—	—	—	1.0～1.5	ナデ	平行叩き		1/4
120	不明 表採	須恵器 甕	体部	—	—	—	0.7～0.9	ナデ	平行叩き		1/3
121	不明 表採	須恵器 甕	体部	—	—	—	1.0～1.2	ナデ	格子目状叩き		1/4
122	不明 表採	縄文土器	口縁	—	—	—	1.0	ミガキ	口唇部粘土貼付による突起竹管文，綾絡文・縄文	1～2㎜の小石粒を含む	1/3
123	不明 表採	縄文土器	体部	—	—	—	1.0	ナデ ミガキ	LR縄文	繊維を含む，2㎜程の石英粒・小石粒を含む	1/3
124	不明 表採	縄文土器	体部	—	—	—	0.7	ナデ	RL縄文帯状による粘土貼付	1㎜程の石英粒・小石粒を含む	1/3
125	不明 5層中貝層	須恵器 坏	口縁～底部	3.6	13.8	8.4	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部 回転ヘラ切り	1/3

126

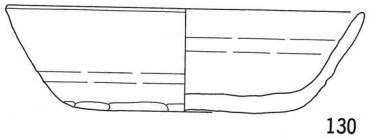
127



128



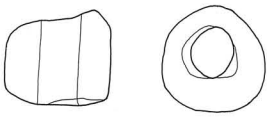
129



130

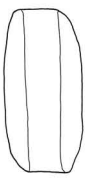
表—22　その他の地区出土遺物

土器番号	出土地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
126	DE—13・14 灰層	須恵質土器壺	高台付底部	—	—	6.8	0.6	ロクロ調整	ロクロ調整	底部　回転糸切り	1/3
127	BC—2・3 灰層中	須恵器　甕	体部	—	—	—	0.5	青海波文	平行叩き	外面に自然油が付着している	1/4
128	DE—2・3・4 5層中貝層上面	須恵器　坏	口縁～底部	4.3	13.3	6.6	0.6	ロクロ調整	ロクロ調整	底部回転ヘラ切リ後手持ちヘラケズリ	1/3
129	BCD—10 5層上面	須恵器　坏	口縁～底部	4.6	15.2	7.4	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部切り離し後手持ちヘラケズリ	1/3
130	DE—2・3・4 5層中貝層	須恵器　坏	口縁～底部	4.1	14.4	8.7	0.4	ロクロ調整	ロクロ調整	底部　回転ヘラ切り　0.1～1㎜程の小石粒白色粒を含む	1/3

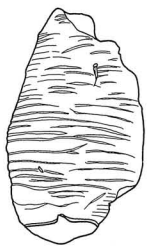


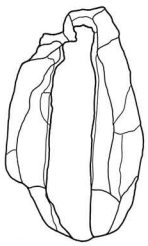
131

132

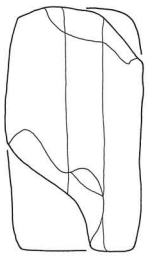


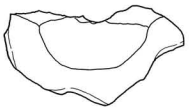
134



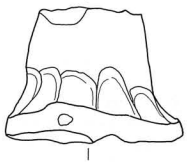


135

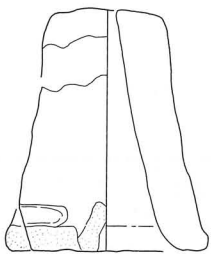




133



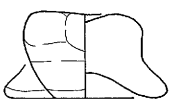
137



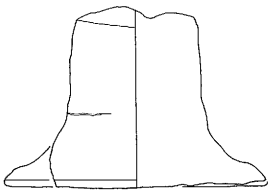
136

表—23　土製品

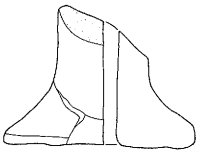
土器番号	出土地—層位	種別	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	底径(cm)	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
131	不明 表採	土錘	3.4	4.1	1.4	—		指ナデ	内面は棒状のもので抜いたのか仕上げは滑らかである	1/3
132	不明 表採	土製支脚	—	—	—	6.5		ナデ	内面は棒状のもので抜いたのか仕上げは滑らかである	1/2
133	不明 第1層	土錘	9.7	5.7	2.1	—		ナデ	0.5㎜以下の白色粒1㎜以下の石英砂を含む	1/3
134	C—13 1層上面	土錘	6.5	3.3	0.8	—		ナデ	中央部がやや脹らんでいる	1/3
135	F—2・3 灰原中	土錘	10	5.5	—	—		指ナデ後縄の様なもので巻き付け模様を施してある	内面は棒状のものを引き抜いたのか滑らかである	1/3
136	F—3 灰層下	吹子の羽口	9.6	8.0	—	—		ナデ	1㎜以下の石英粒・白色粒を多く含む。頭部に自然油が付着している	1/3
137	F—5 2層上面	土製支脚	—	—	—	—		ナデ調整　指の跡が残っている	1㎜以下の石英粒を含む	1/3

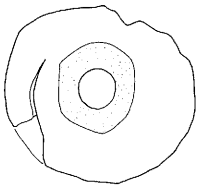


138



139

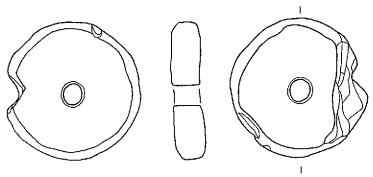




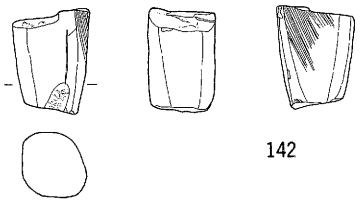
140

表—24　土製品

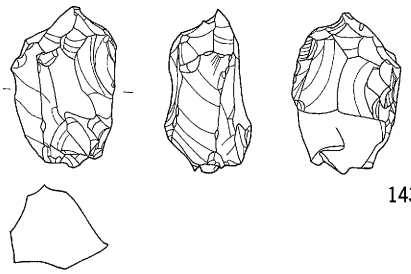
土器番号	出土地 — 層 位	種 別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	底径 (cm)	文様調整 内面	文様調整 外面	備 考	縮尺
138	A－8 深掘トレンチ東壁 3層上面	土製支脚	2.3	4.4	—	—		ナデ		1/2
139	E－4 5層上面	土製支脚	(7.2)	—	—	10.5		雑なナデ		1/3
140	D—16 黒色土	土製支脚	(5.5)	—	—	7.5		雑なナデ	内面は棒状のような物を引き抜いたようだ	1/3



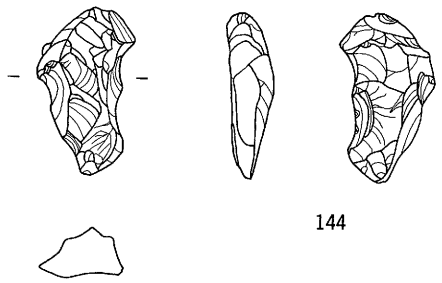
141



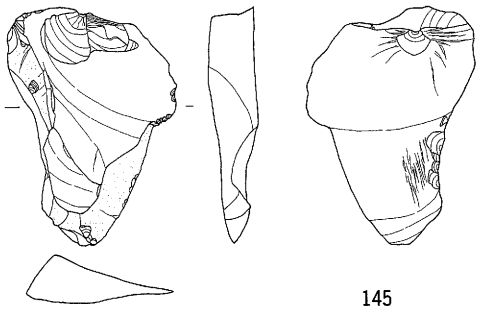
142



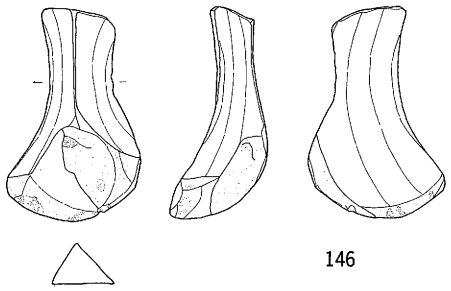
143



144



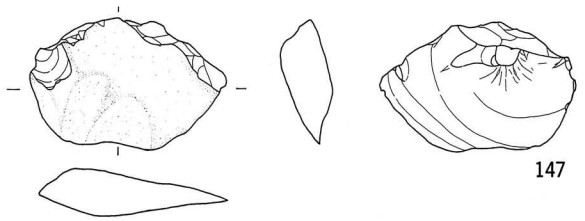
145



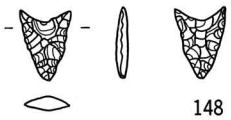
146

表—25　石製品

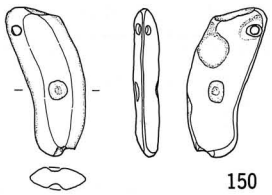
No.	出土地 — 層 位	種 別	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	石 質	現存状態	備 考	縮尺
141	東部拡張部 表採	紡錘車	5.6	5.6	1.2		完形品	全体にミガキがかけてある	1/3
142	C—16 表採	摩製石斧	(4.2)	3.0	2.7	チャート			1/3
143	D—5・6 表採	石 核	6.3	3.9	3.3	チャート質			1/3
144	不 明 表採	石 核	4.5	2.2	1.3	黒曜石			1/2
145	不 明 表採	不定形石器	9.5	6.0	1.7			折れ面に加工してある	1/3
146	C—11 2層	砥 石	8.4	5.2	3.1		完形品		1/3



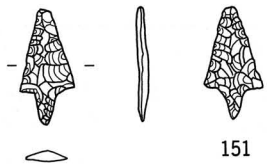
147



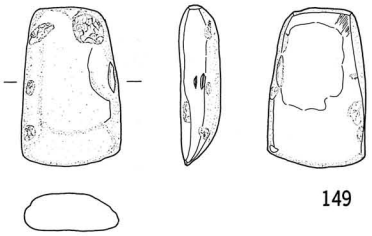
148



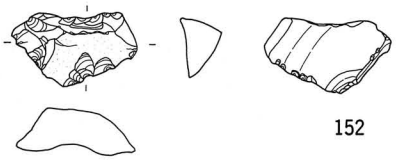
150



151



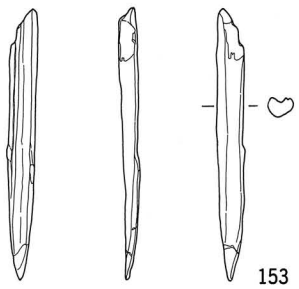
149



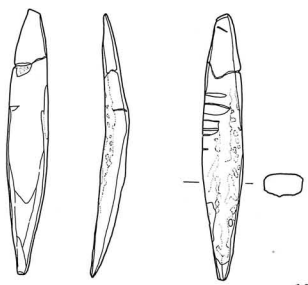
152

表—26　石製品

No.	出土地 — 層 位	種　別	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	石　質	現存状態	備　考	縮尺
147	C—16　2層	不定形石器	5.0	7.6	1.8			片面加工，表は自然面，刃部は不明瞭，二次加工のある剝片	1/3
148	C—17　2層	石　鏃	1.9	0.9	0.3		完形品		1/2
149	C—14　4a層	摩製石斧	6.4	3.9	1.6		完形品	片面だけに擦切の痕跡を残す。刃部は片辺に近い。	1/3
150	C—16　4a層	不明	5.8	2.4	1.1		完形品	端部に4㎜の孔あり	1/3
151	C—16　4層	石鏃（平基有茎鏃）	3.0	1.5	0.3		完形品		1/2
152	B—8　5層上面	スクレイパー	2.7	5.1	1.5	チャート質		打面一部二次加工してある	1/3



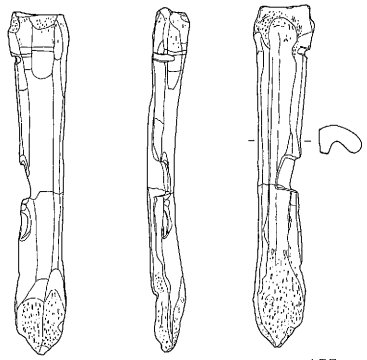
153



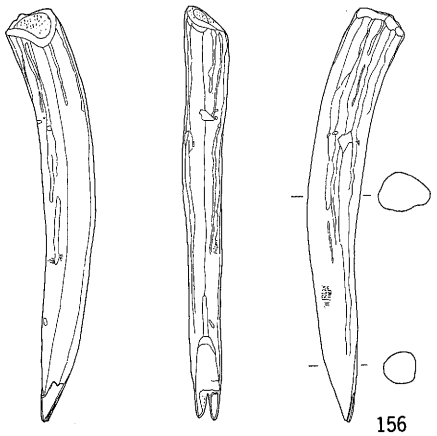
154

表—27　骨製品

No.	出土地 — 層 位	種　別	最大長(㎜)	最大幅(㎜)	最大厚(㎜)	素　材	現存状態	備　考	縮尺
153	SI—02　埋土	ヤス	109	11	8	鹿　角	完形品		1/3
154	B—8　2層上面	ヤス	107	16	10	鹿　角	完形品		1/3



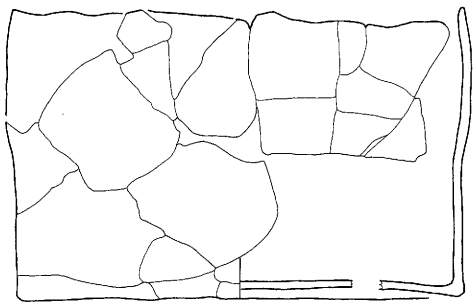
155



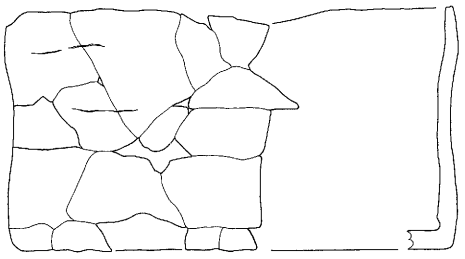
156

表—28　骨製品

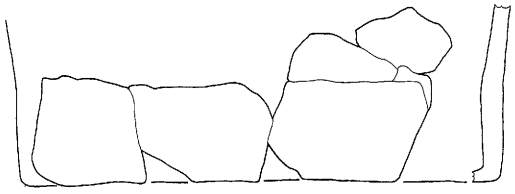
No.	出土地 一 層 位	種　別	最大長(㎜)	最大幅(㎜)	最大厚(㎜)	素　材	現存状態	備　考	縮尺
155	D－4　灰原下	骨ベラ	182	32	19	鹿	半製品		1/3
156	F－3　灰原下	不明	220	33	24	鹿　角	半製品		1/3



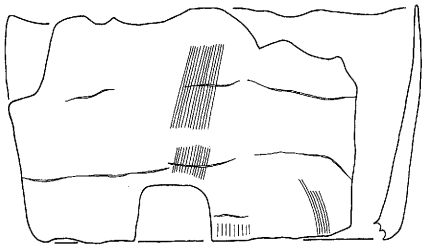
157



158



159



160

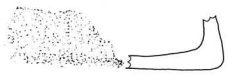
表—29　ＳＩ—02，ＳＫ・Ａ区出土遺物

土器番号	出土地 地区一層位	器種	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
157	ＳＩ—02　埋土	製塩土器	口縁～底部	11.1	18.0	17.8	0.5	指ナデ	指ナデ	全体に薄い土器で口縁部の高さが一定でない。焼成はもろく底部中央部がふくらんでいる	1/3
158	ＳＫ—02	製塩土器	口縁～底部	12.8	23.5	22.5	1.0	指ナデ	指ナデ	指ナデが浅く粘土紐の重ね目が残っている。5㎜以下の大粒の石も含む。	1/4
159	ＳＫ—02	製塩土器	体部～底部	—	—	—	1.9	指ナデ	指ナデ	5㎜以下の白色粒を含む	1/3
160	Ａ—2　2層	製塩土器	口縁～底部	9.3	16.6	13.4	0.1～1.0	ミガキ風ナデ	指ナデ	外面軽いナデなので粘土紐の重ね目が残っている。口縁は刷毛目調整の跡が残っている。	1/3

161

162

163

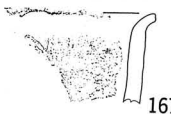

164

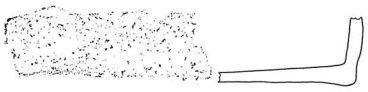
表—30　1号製塩炉出土遺物

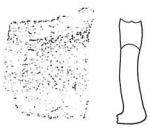
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
161	1号製塩炉	製塩土器	底部	—	—	—	0.9	ナデ	ナデ	Ⅲ2b	1/3
162	1号製塩炉	製塩土器	底部	—	—	—	0.5	ナデ	ナデ	Ⅰ1b	1/3
163	1号製塩炉	製塩土器	底部	—	—	—	0.5	ナデ	ナデ	Ⅲ4b	1/3
164	1号製塩炉	製塩土器	底部	—	—	—	0.5	ナデ	ナデ	Ⅲ3b	1/3

165

166


167

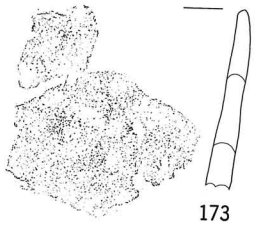

168


169

170

171

172


173

表—31　2号製塩炉出土遺物

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
165	2号製塩炉 B埋土	製塩土器	口縁	—	—	—	0.7	ナデ	ナデ	Ⅱ2b	1/3
166	2号製塩炉 B埋土	製塩土器	口縁	—	—	—	0.7	ナデ	ナデ	Ⅰ3b	1/3
167	2号製塩炉 B埋土	製塩土器	口縁	—	—	—	0.3～0.6	横ナデ	ナデ	Ⅰ3b	1/3
168	2号製塩炉 B埋土	製塩土器	底部	—	—	—	0.6	ナデ	ナデ	Ⅲ3b	1/3
169	2号製塩炉 B埋土	製塩土器	底部	—	—	—	0.8～1.0	ナデ	ナデ	Ⅱ2b	1/3
170	2号製塩炉 B埋土	製塩土器	底部	—	—	21.0	0.8～1.0	ナデ	ナデ	Ⅲ3b	1/3
171	2号製塩炉 埋土	製塩土器	底部	—	—	—	0.6	ナデ	横ナデ	Ⅰ4b	1/3
172	2号製塩炉 埋土	製塩土器	底部	—	—	—	0.3～0.6	ナデ	ナデ	Ⅲ1b	1/3
173	2号製塩炉 2層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.4～0.9	ナデ	ナデ	Ⅰ3b	1/3

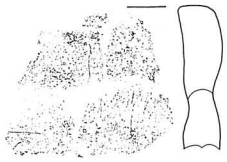
174

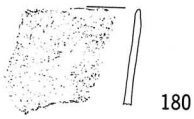
175

176

177

178


179


180

181

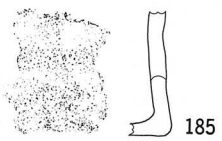
182

表—32　3号製塩炉出土遺物

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
174	3号製塩炉 埋土	製塩土器	口縁	—	—	—	0.7	横ナデ	ナデ	Ⅰ1b	1/3
175	3号製塩炉 埋土	製塩土器	口縁	—	—	—	0.7	ナデ	ナデ	Ⅰ1b	1/3
176	3号製塩炉	製塩土器	底部	—	—	—	0.7	横ナデ	ナデ	Ⅲ2b	1/3
177	3号製塩炉	製塩土器	底部	—	—	—	0.5	ナデ	ナデ	Ⅲ1b	1/3
178	3号製塩炉	製塩土器	底部	—	—	—	0.4～0.7	ナデ	ナデ	Ⅱ2b	1/3
179	3号製塩炉	製塩土器	口縁	—	—	—	1.0～1.5	ナデ	ナデ	Ⅰ1a	1/3
180	3号製塩炉	製塩土器	口縁	—	—	—	0.3	ナデ	ナデ	Ⅱ3b	1/3
181	3号製塩炉 床面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.3	ナデ	ナデ	Ⅱ1b	1/3
182	3号製塩炉 床面	須恵器	体部	—	—	—	0.9	刷毛目	ミガキ		1/3

183

184


185

186

187

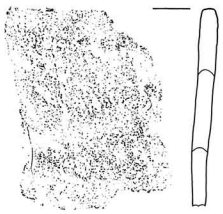
188

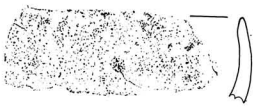
189

190

表—33　4号製塩炉出土遺物

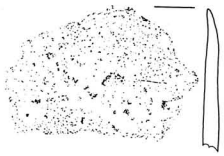
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
183	4号製塩炉 埋土	製塩土器	底部	—	—	—	0.6	ナデ	横ナデ	Ⅲ3b	1/3
184	4号製塩炉 埋土	製塩土器	底部	—	—	—	0.7	横ナデ	横ナデ	Ⅱ2b	1/3
185	4号製塩炉 埋土	製塩土器	底部	—	—	—	0.7	横ナデ	ナデ	Ⅲ4b	1/3
186	4号製塩炉 埋土	製塩土器	底部	—	—	—	0.6～0.8	横ナデ	ナデ	Ⅲ2b	1/3
187	4号製塩炉 埋土	製塩土器	底部	—	—	—	0.6	ナデ	横ナデ	Ⅲ3b	1/3
188	4号製塩炉 埋土	製塩土器	底部	—	—	—	0.7	ナデ	ナデ	Ⅲ3b	1/3
189	4号製塩炉 埋土	製塩土器	底部	—	—	—	0.8	ナデ	ナデ	Ⅲ4b	1/3
190	4号製塩炉 埋土	製塩土器	底部	—	—	—	0.6	横ナデ	横ナデ	Ⅲ1b	1/3

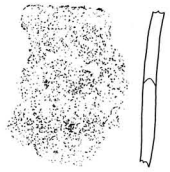

191


192

193

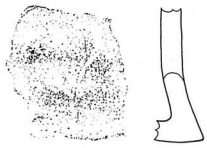
194

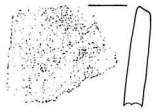

195


196

198

197


199


200

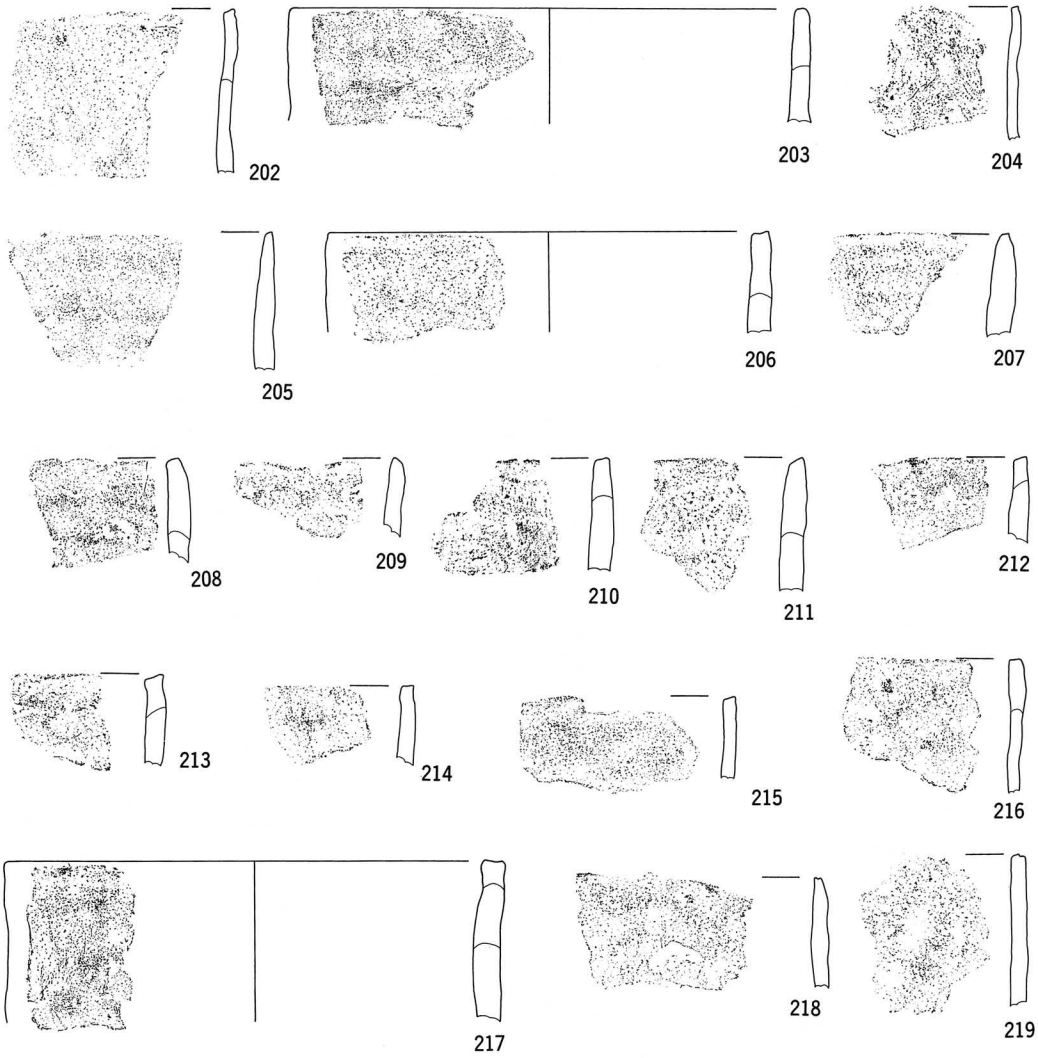
表—34　4号・6号製塩炉

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
191	4号製塩炉 埋土	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6～0.7	横ナデ	ナデ	I 3 b	1/3
192	4号製塩炉 埋土	製塩土器	口縁	—	—	—	0.5～0.3	横ナデ	ナデ	II 2 b	1/3
193	4号製塩炉 埋土	製塩土器	口縁	—	—	—	0.4	ナデ	ナデ	I 3 b	1/3
194	4号製塩炉 埋土	製塩土器	口縁	—	—	—	0.2～0.5	ナデ	ナデ	II 3 b	1/3
195	4号製塩炉 埋土	製塩土器	口縁	—	—	—	0.3～0.5	ナデ	ナデ	II 2 b	1/3
196	4号製塩炉 埋土	製塩土器	体部	—	—	—	0.5	ナデ	ナデ		1/3
197	4号製塩炉 埋土	製塩土器	体部	—	—	—	0.6	ナデ	ナデ		1/3
198	4号製塩炉	製塩土器	底部	—	—	—	0.4	ナデ	ナデ	III 3 b	1/3
199	4号製塩炉	製塩土器	底部	—	—	—	0.8	横ナデ	横ナデ	III 2 b	1/3
200	6号製塩炉	製塩土器	口縁	—	—	—	0.7	横ナデ	ナデ	I 3 b	1/3

201

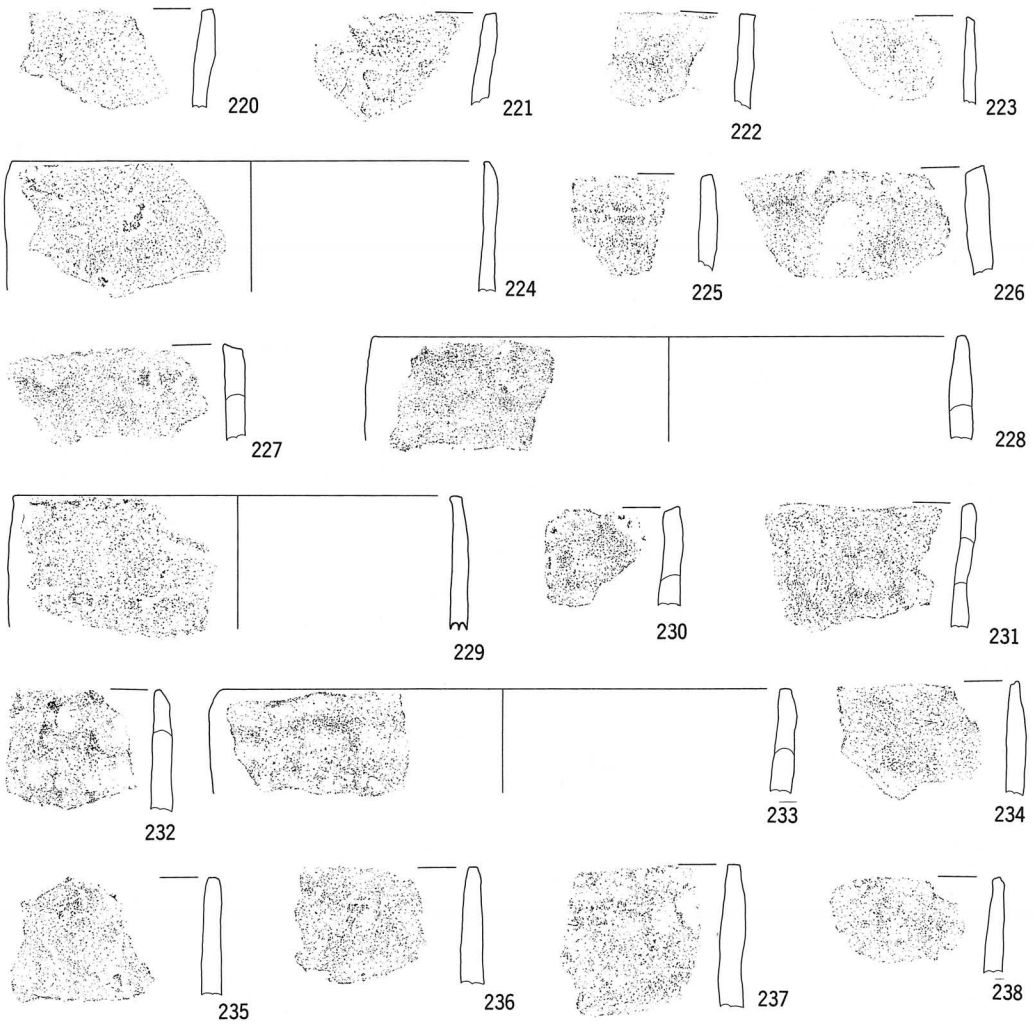
表—35　Dライン製塩土器

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
201	D—5 5層上面	製塩土器	体部	—	—	—	1.0～1.2	ナデ	ナデ		1/4



表—36　製塩土器　Ⅰ類1 b

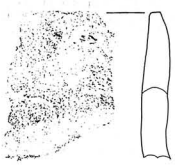
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
202	表採	製塩土器	口縁	—	—	—	0.5～0.7	ナデ　刷毛目	ナデ		1/3
203	表採	製塩土器	口縁	—	20.8	—	0.7	ナデ	ナデ		1/3
204	表採	製塩土器	口縁	—	—	—	0.4	ナデ	ナデ		1/3
205	C—2 灰原上	製塩土器	口縁	—	—	—	0.4～0.8	ナデ	ナデ		1/3
206	C—6 灰原上	製塩土器	口縁	—	—	—	0.9	ナデ	ナデ		1/3
207	C—6 灰原上	製塩土器	口縁	—	—	—	0.4～1.0	ナデ	ナデ		1/3
208	C—6 灰原上	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6～0.9	ナデ	ナデ		1/3
209	C—6 灰原上	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6	ナデ	ナデ		1/3
210	C—6 灰原上	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6～0.8	ナデ	ナデ		1/3
211	C—6 灰原上	製塩土器	口縁	—	—	—	1.0	ヘラナデ	ナデ		1/3
212	C—6 灰原上	製塩土器	口縁	—	—	—	0.5～0.6	ナデ	ナデ		1/3
213	C—6 灰原上	製塩土器	口縁	—	—	—	0.8	ナデ	ナデ		1/3
214	C—6 灰原上	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6	ナデ	ナデ		1/3
215	C—6 灰原上	製塩土器	口縁	—	—	—	0.5	ナデ　刷毛目	ナデ		1/3
216	D—5 灰原上	製塩土器	口縁	—	—	—	0.4～0.7	ナデ	ナデ		1/3
217	D—9・10 灰原	製塩土器	口縁	—	20.0	—	1.0	ナデ	ナデ		1/3
218	C—3 灰原中	製塩土器	口縁	—	—	—	0.3～0.7	ナデ	ナデ		1/3
219	C—6 灰原中	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6	ナデ	ナデ		1/3

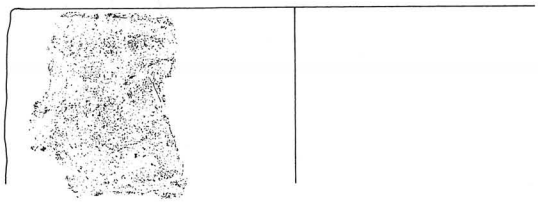


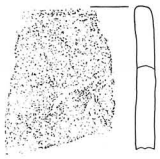
表—37　製塩土器　Ⅰ類1 b

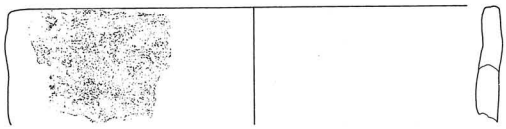
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
220	C—6 灰原中	製塩土器	口縁	—	—	—	0.7	ナデ	ナデ		1/3
221	C—6 灰原中	製塩土器	口縁	—	—	—	0.5	ナデ	ナデ		1/3
222	C—6 灰原中	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6	ナデ	ナデ		1/3
223	C—6 灰原中	製塩土器	口縁	—	—	—	0.4	ナデ	ナデ		1/3
224	C—4 灰原下	製塩土器	口縁	—	9.6	—	0.5～0.6	ナデ	ナデ		1/3
225	C—6 灰原下	製塩土器	口縁	—	—	—	0.7	ナデ	ナデ		1/3
226	A—8 灰層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	1.0	ナデ	ナデ		1/3
227	A—8 灰層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.8	ナデ	ナデ		1/3
228	A—8 灰層上面	製塩土器	口縁	—	23.6	—	0.5～1.0	ナデ	ナデ		1/3
229	A—8 灰層上面	製塩土器	口縁	—	18.0	—	0.3～0.7	ナデ	ナデ		1/3
230	C—5 灰層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.7	ナデ	ナデ		1/3
231	DE—10・11 灰層中	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6	ナデ	ナデ		1/3
232	D—10 1層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.7	ナデ	ナデ		1/3
233	A—8 2層上面	製塩土器	口縁	—	22.8	—	0.5～0.8	ナデ	ナデ		1/3
234	C—2 2層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.4～0.7	ナデ	ナデ		1/3
235	C—3 2層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6～0.7	ナデ	ナデ		1/3
236	C—3 2層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6～0.8	ナデ	ナデ		1/3
237	C—6 2層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.5～1.0	ナデ	ナデ		1/3
238	C—6 2層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.3～0.6	ナデ	ナデ		1/3

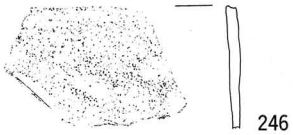
239

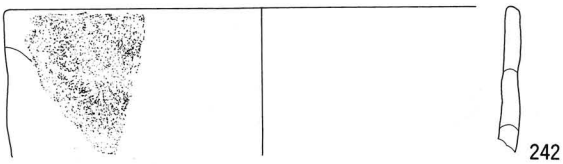

244

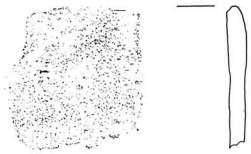

240

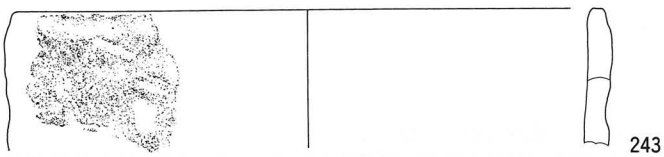

245

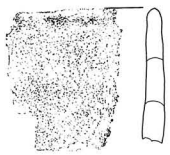

241


246


242

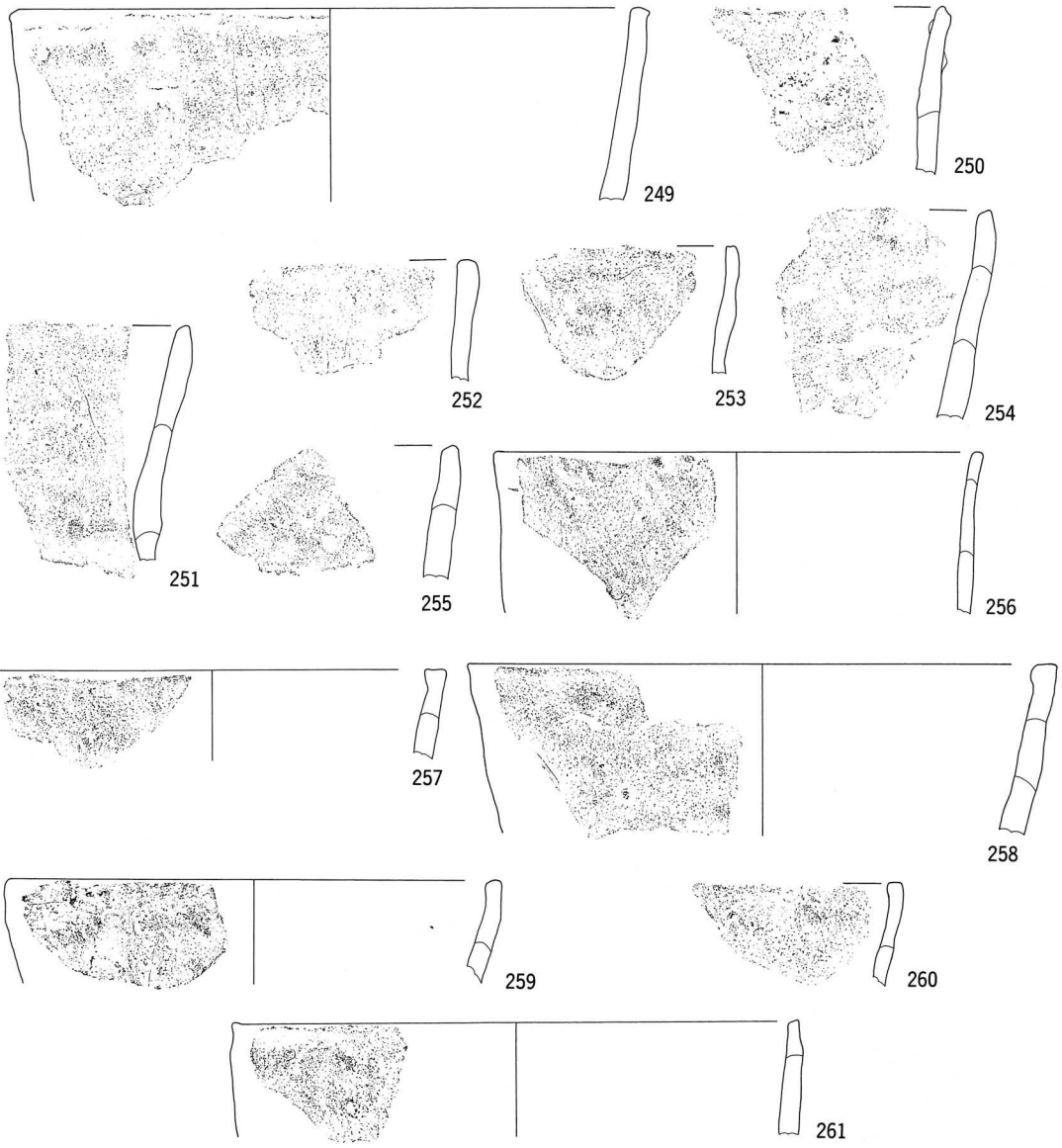

247


243


248

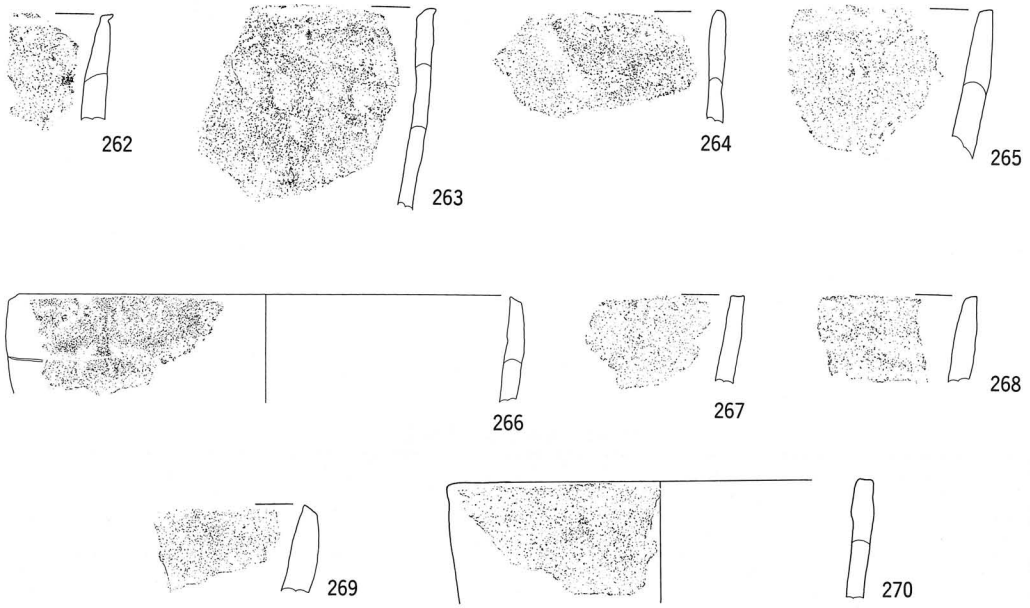
表—38　製塩土器　Ⅰ類１ｂ

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
239	C—6　2層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6	ナデ	ナデ		1/3
240	D—9　2層上面	製塩土器	口縁	—	22.6	—	0.6～1.1	ナデ	ナデ		1/3
241	D—9　2層上面	製塩土器	口縁	—	19.6	—	0.7～0.9	ナデ	ナデ		1/3
242	D—10　2層上面	製塩土器	口縁	—	20.6	—	0.7	ナデ	ナデ		1/3
243	D—10　2層上面	製塩土器	口縁	—	23.4	—	0.7～0.9	刷毛目	ナデ		1/3
244	D—10　2層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6～1.1	刷毛目	ナデ		1/3
245	D—10　2層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.7	刷毛目	ナデ		1/3
246	A～C 8～10　5層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.3～0.4	ナデ	ナデ		1/3
247	A～C 8～10　5層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6～0.8	ナデ	ナデ		1/3
248	D—10　土坑	製塩土器	口縁	—	—	—	0.7	刷毛目	ナデ		1/3



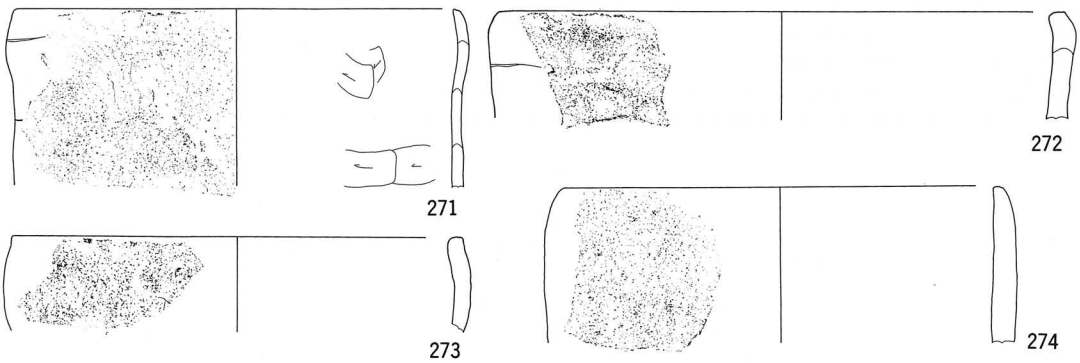
表一39　製塩土器　Ⅰ類3 b

土器番号	出土地 地区一層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
249	表採	製塩土器	口縁	—	24.8	—	0.7～1.0	ナデ	ナデ		1/3
250	表採	製塩土器	口縁	—	—	—	0.8	ナデ	ナデ		1/3
251	表採	製塩土器	口縁	—	—	—	0.9～1.0	ナデ	ナデ		1/3
252	表採	製塩土器	口縁	—	—	—	0.9	ナデ	ナデ		1/3
253	C－6 灰原上	製塩土器	口縁	—	—	—	0.5～0.7	ナデ	ナデ		1/3
254	D－2 灰原上	製塩土器	口縁	—	—	—	0.8～1.0	ナデ	ナデ		1/3
255	D－3 灰原上	製塩土器	口縁	—	—	—	0.7～1.0	横ナデ	ナデ		1/3
256	D－5 灰原上	製塩土器	口縁	—	19.6	—	0.5～0.6	ナデ	ナデ		1/3
257	D－9・10 灰原	製塩土器	口縁	—	18.8	—	0.8～1.0	ナデ	ナデ		1/3
258	D－9・10 灰原	製塩土器	口縁	—	23.8	—	0.8～1.0	ナデ	ナデ		1/3
259	D－9・10 灰原	製塩土器	口縁	—	20.0	—	0.6	ナデ	ナデ		1/3
260	D－9・10 灰原	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6	刷毛目	ナデ		1/3
261	A－8 灰層上面	製塩土器	口縁	—	22.8	—	0.4～0.7	ナデ	ナデ		1/3



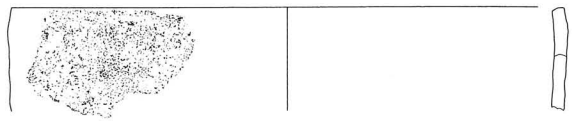
表—40　製塩土器　Ⅰ類３ｂ

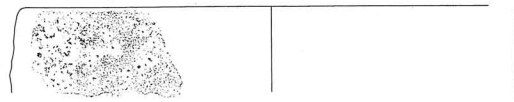
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
262	C—6 灰層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.5～0.8	ナデ	ナデ		1/3
263	DE—10・11 灰層中	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6	ナデ	ナデ		1/3
264	DE—10・11 灰層中	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6～0.7	ナデ	ナデ		1/3
265	C—4 1層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6～1.0	ナデ	ナデ		1/3
266	A—8 2層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.7～0.9	ケズリ	ナデ		1/4
267	C—6 2層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6	ナデ	ナデ		1/3
268	C—6 2層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6～0.9	ナデ	ナデ		1/3
269	C—6 2層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6～1.1	ナデ	ナデ		1/3
270	D—9 2層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.7	ナデ	ナデ		1/3

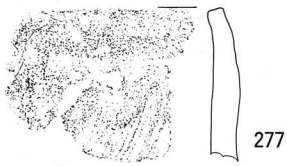


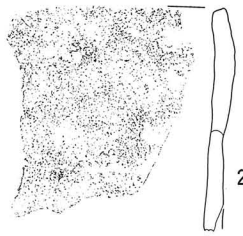
表—41　製塩土器　Ⅰ類２ｂ

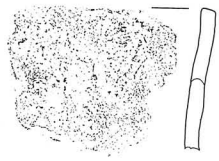
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
271	D—5 灰原上	製塩土器	口縁	—	17.8	—	0.4	ナデ	ナデ		1/3
272	D—9・10 灰原	製塩土器	口縁	—	22.6	—	0.8～1.0	ナデ	ナデ		1/3
273	D—9・10 灰原	製塩土器	口縁	—	19.0	—	0.8	ナデ	ナデ		1/3
274	C—4 灰原中	製塩土器	口縁	—	8.9	—	0.4～0.9	ナデ	ナデ		1/3

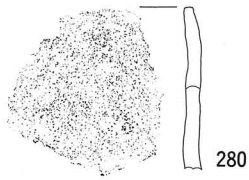






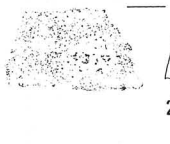


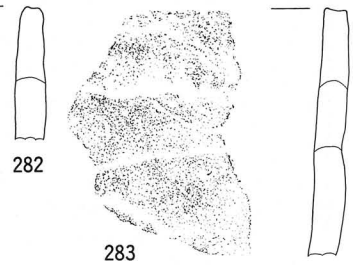




表—42　製塩土器　Ⅰ類２ｂ

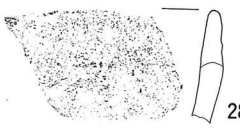
土器番号	出土地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
275	DE—10・11 灰層中	製塩土器	口縁	—	29.4	—	0.8	ナデ	ナデ		1/4
276	DE—10・11 灰層中	製塩土器	口縁	—	26.8	—	0.7～0.9	ナデ	ヘラナデ		1/4
277	DE—10・11 灰層中	製塩土器	口縁	—	—	—	0.8～1.2	ナデ	ナデ		1/3
278	DE—10・11 灰層中	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6～0.8	ナデ	ナデ		1/3
279	DE—10・11 灰層中	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6	ナデ	ナデ		1/3
280	SK—04 埋土	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6	ナデ	ナデ		1/3

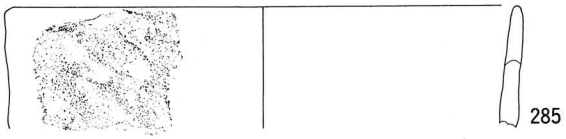


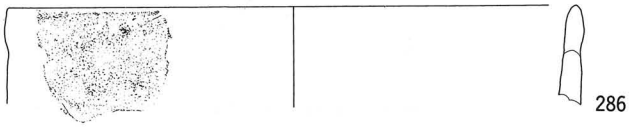


表—43　製塩土器　Ⅰ類３ａ，Ⅰ類１ａ

土器番号	出土地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
281	C—6 2層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	1.1	ナデ	ナデ		1/3
282	D—10 1層上面	製塩土器	口縁	—	20.2	—	1.1	ナデ	ナデ		1/3
283	D—5 5層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	1.0～1.2	横ナデ	ナデ		1/3

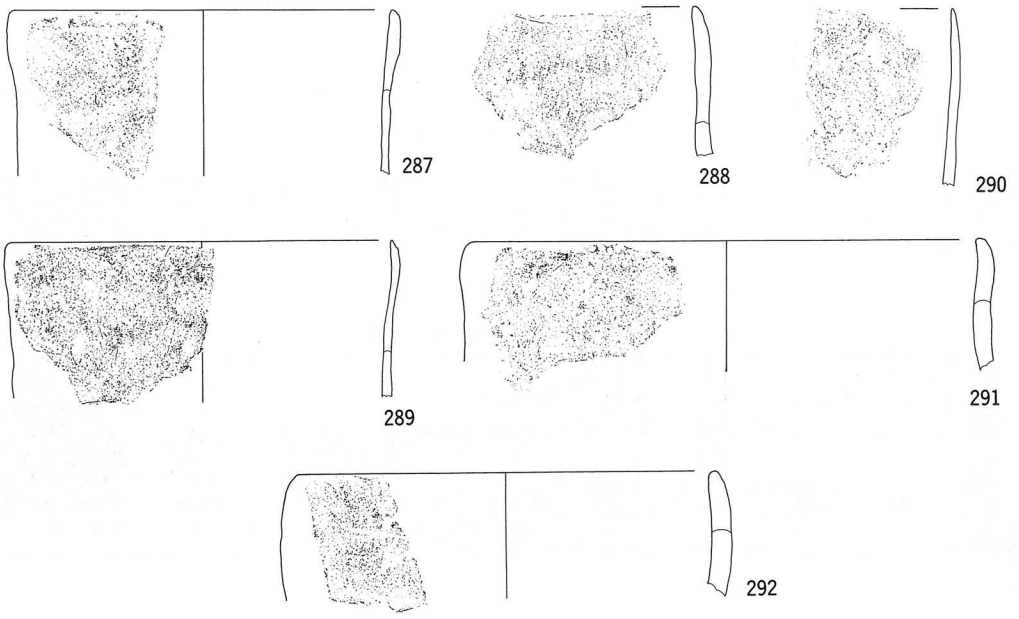






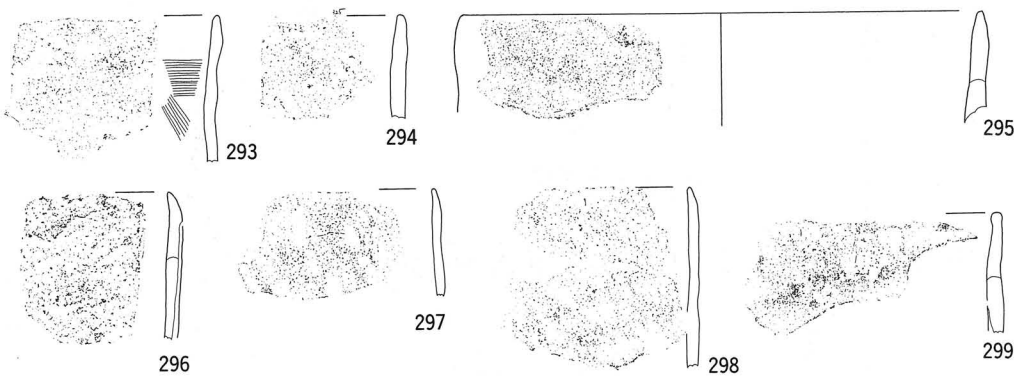
表—44　製塩土器　Ⅱ類３ｂ

土器番号	出土地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
284	D—9 2層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.6～0.9	ナデ	ナデ		1/3
285	D—10 落ち込み埋土	製塩土器	口縁	—	20.6	—	0.4～0.7	ナデ	ナデ		1/3
286	SK—03 埋土	製塩土器	口縁	—	22.8	—	0.8	ナデ	ナデ		1/3



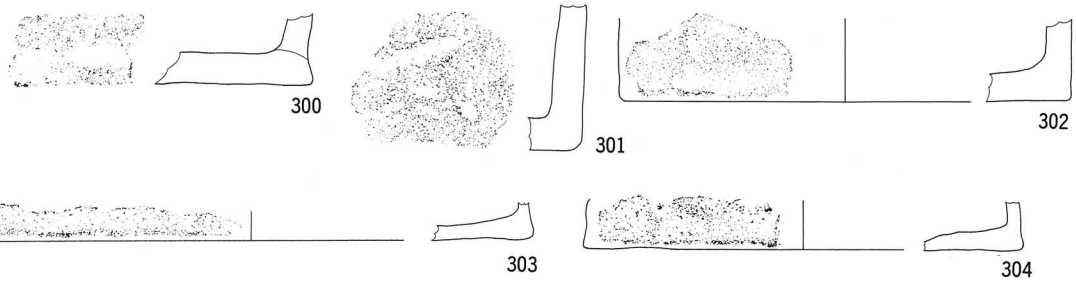
表—45　製塩土器　II類２ｂ

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
287	D—5 灰原上	製塩土器	口縁	—	15.2	—	0.3～0.4	ナデ	ナデ		1/3
288	D—5 灰原上	製塩土器	口縁	—	—	—	0.5～0.6	ナデ	ナデ		1/3
289	DE—10・11 灰層中	製塩土器	口縁	—	—	—	0.3	ナデ	ナデ		1/3
290	B—8 2層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.3	ナデ	ナデ		1/3
291	D—9 2層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.5	ナデ	ナデ		1/3
292	SK—04 埋土	製塩土器	口縁	—	—	—	0.8	ナデ	ナデ		1/3



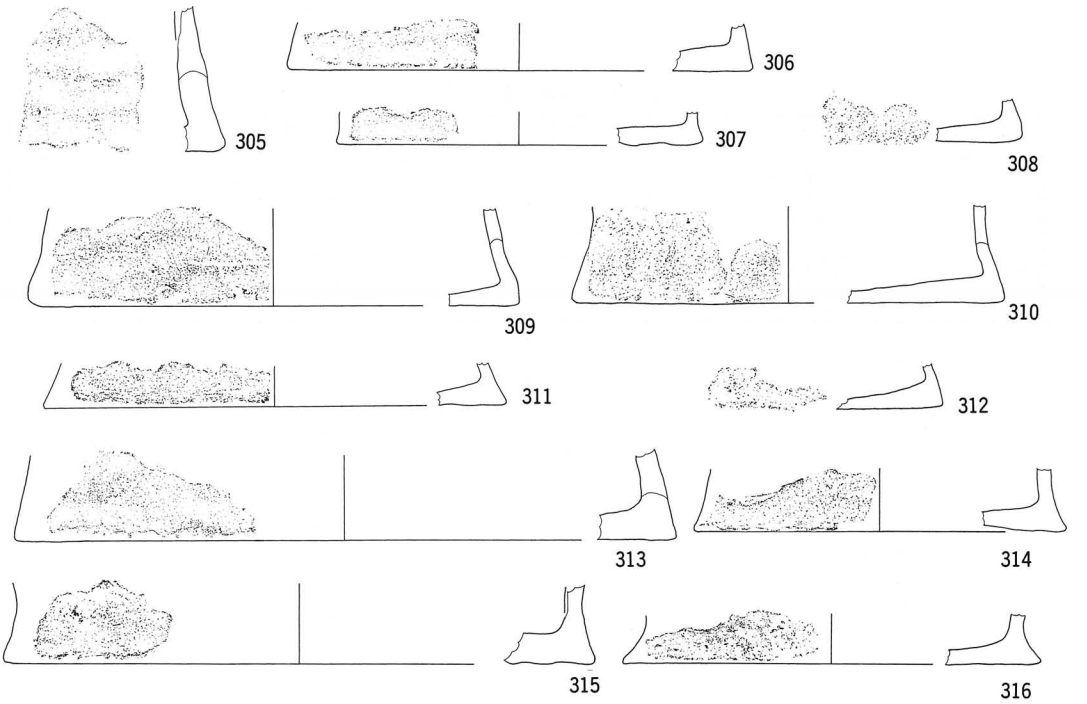
表—46　製塩土器　II類１ｂ

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
293	表採	製塩土器	口縁	—	—	—	0.3～0.5	ナデ 刷毛目	ナデ		1/3
294	C—6 灰原中	製塩土器	口縁	—	—	—	0.3～0.5	ナデ	ナデ		1/3
295	A—8 灰層上面	製塩土器	口縁	—	20.8	—	0.3～0.8	ナデ	ナデ		1/3
296	DE—10・11 灰層中	製塩土器	口縁	—	—	—	0.5	ナデ	ナデ		1/3
297	A—9 1層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.2～0.3	ナデ	ナデ		1/3
298	A—9 1層上面	製塩土器	口縁	—	—	—	0.3～0.5	ナデ	ナデ		1/3
299	SK—02	製塩土器	口縁	—	—	—	0.5	横ナデ	ナデ		1/3



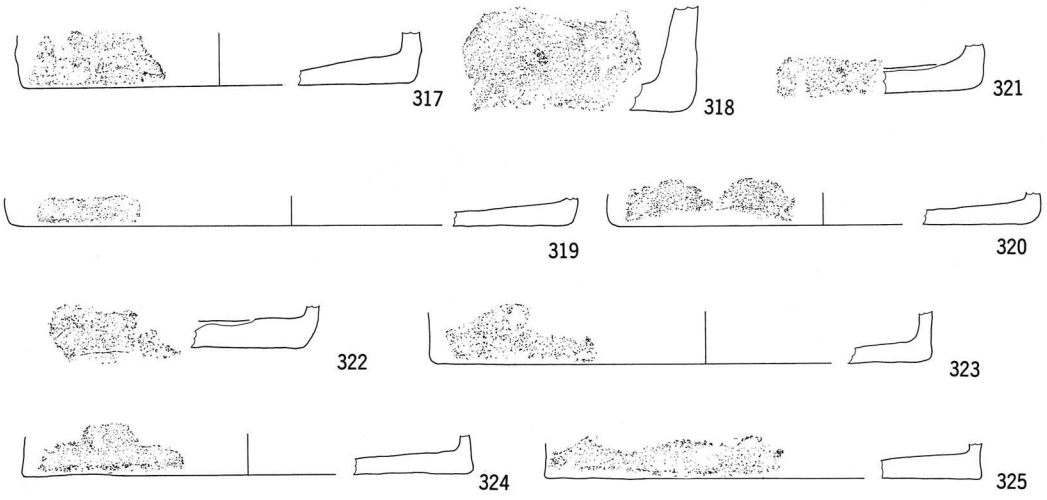
表—47　Ⅰ類1 b

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
300	表採	製塩土器	底部	—	—	—	1.0	ナデ	ナデ		1/3
301	C—3 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	1.1～1.2	ナデ	ナデ		1/3
302	A—8 灰層上面	製塩土器	底部	—	—	18.0	1.0	ナデ	ナデ		1/3
303	DE—10・11 灰層中	製塩土器	底部	—	—	22.4	0.5	ナデ	ナデ		1/3
304	D—11 5層上面	製塩土器	底部	—	—	17.6	0.5	ナデ	ナデ		1/3



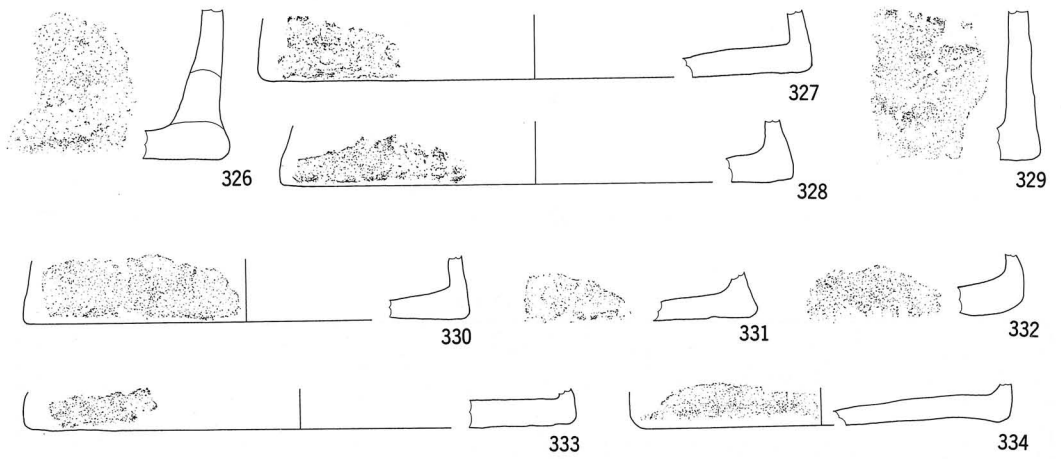
表—48　Ⅰ類2 b

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
305	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	1.2	ナデ	刷毛目		1/3
306	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	19.0	0.5	ナデ	ナデ		1/3
307	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	13.0	0.4	ナデ	ナデ		1/3
308	C—6 灰原中	製塩土器	底部	—	—	—	0.4	ナデ	ナデ		1/3
309	C—6 灰原中	製塩土器	底部	—	—	18.8	0.5	ナデ	ナデ		1/3
310	C—6 灰層中	製塩土器	底部	—	—	17.2	0.4	ナデ	ナデ		1/3
311	DE—10・11 灰層中	製塩土器	底部	—	—	18.4	0.4	ミガキ風ナデ	ナデ		1/3
312	D—11 1層上面	製塩土器	底部	—	—	—	0.4	ナデ	ナデ		1/3
313	A—8 2層上面	製塩土器	底部	—	—	26.4	0.8	ナデ	ナデ		1/3
314	D—11 2層上面	製塩土器	底部	—	—	14.8	0.6	ナデ	ナデ		1/3
315	D—11 2層上面	製塩土器	底部	—	—	23.6	0.7	ナデ	ナデ		1/3
316	D—10 5層上面	製塩土器	底部	—	—	16.6	0.6	横ナデ	ナデ		1/3



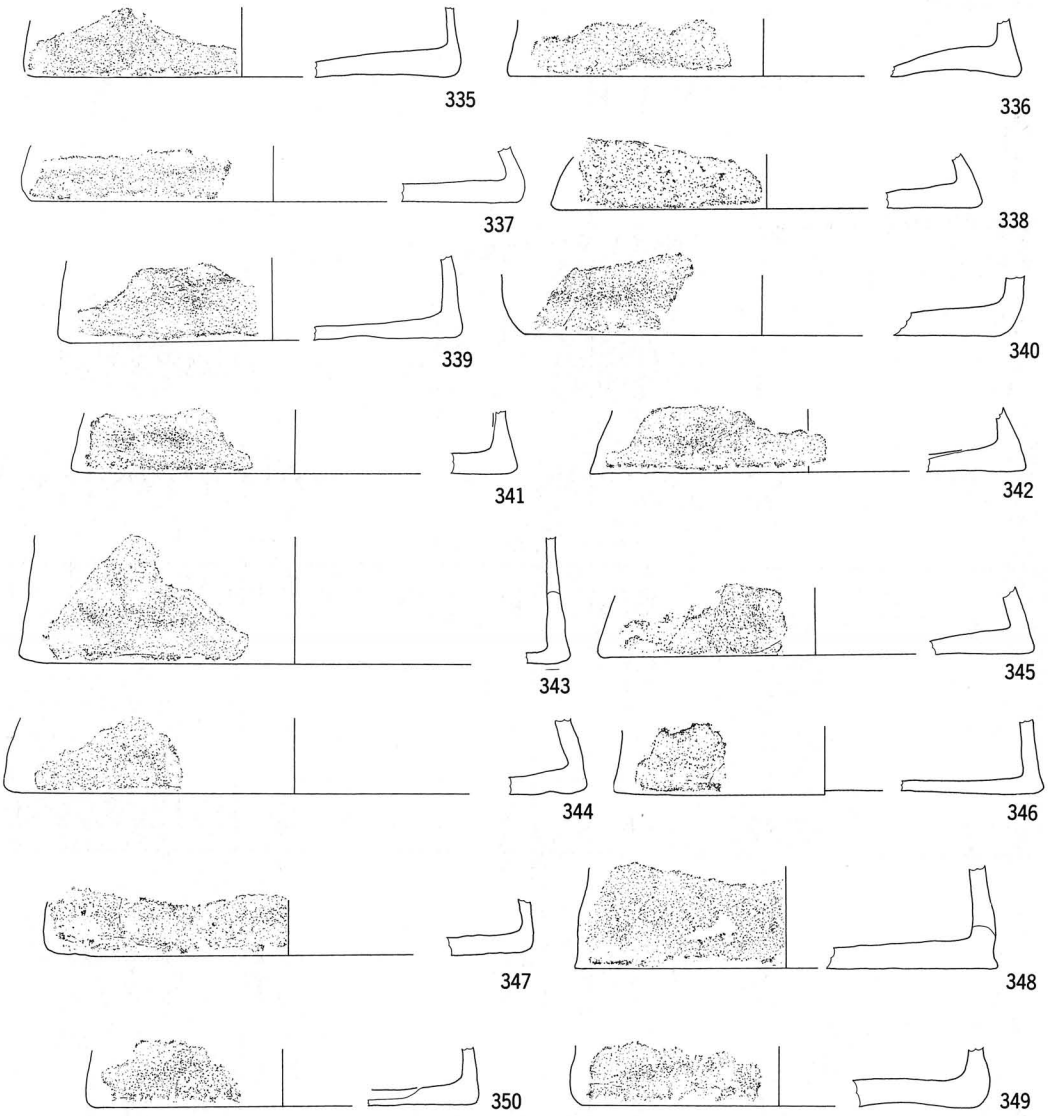
表—49　Ⅰ類３ａ３ｂ

土器番号	出土地 地区－層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
317	D－9・10　灰原	製塩土器	底部	－	－	15.8	0.7	ナデ	ナデ		1/3
318	C－2　灰原上	製塩土器	底部	－	－	－	1.0～1.4	ナデ	ナデ		1/3
319	C－6　灰原上	製塩土器	底部	－	－	22.6	0.5	ナデ	ナデ		1/3
320	C－6　灰原中	製塩土器	底部	－	－	17.2	－	ナデ	ナデ		1/3
321	C－6　灰原中	製塩土器	底部	－	－	－	0.7	ナデ	ナデ		1/3
322	C－6　灰原中	製塩土器	底部	－	－	－	0.5	ナデ	ナデ		1/3
323	D－11　2層上面	製塩土器	底部	－	－	20.0	0.5	ナデ	ナデ		1/3
324	D－5　5層上面	製塩土器	底部	－	－	14.6	0.4	ナデ	横ナデ		1/3
325	D－5　5層上面	製塩土器	底部	－	－	17.4	0.5	ナデ	ナデ		1/3



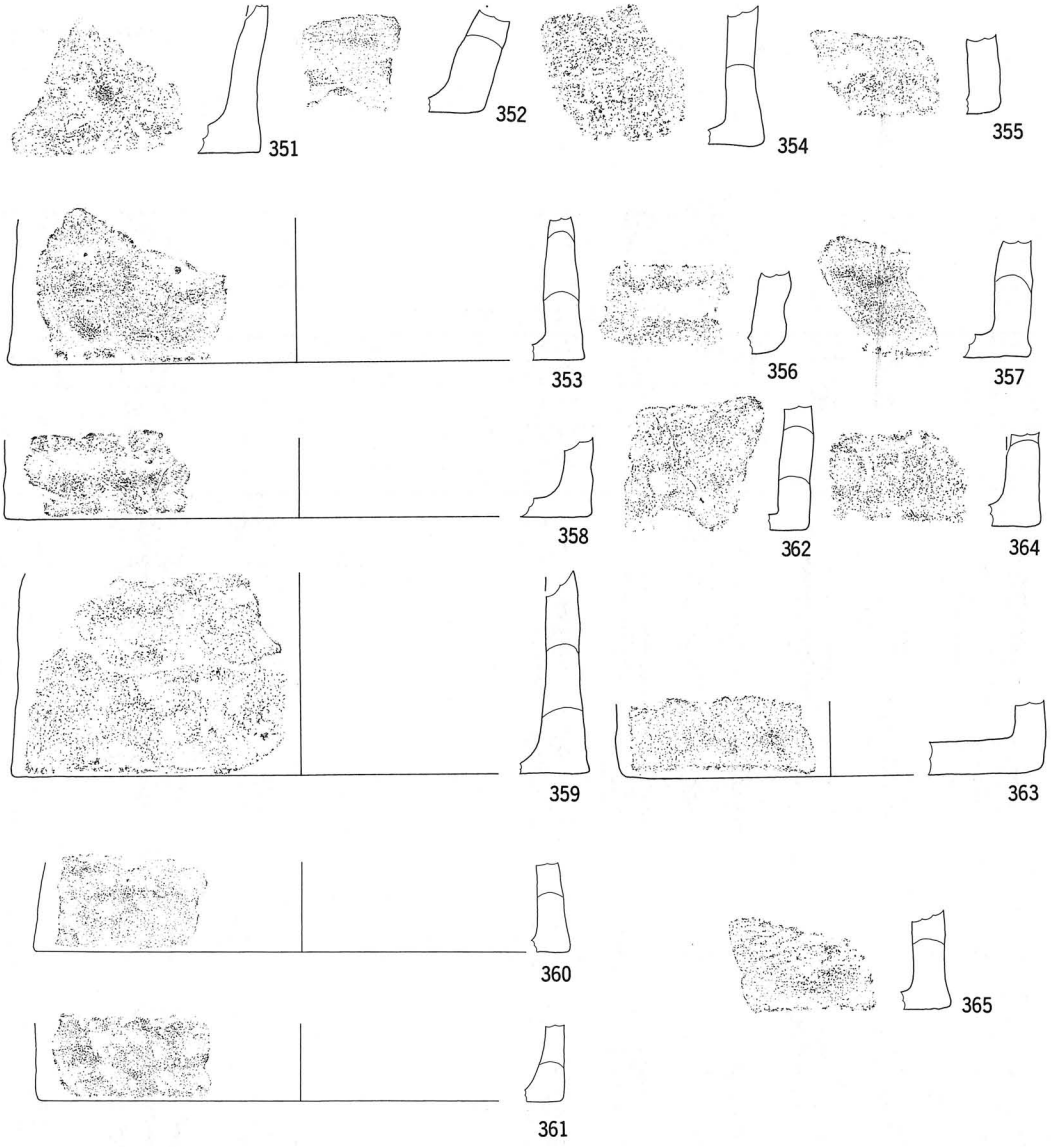
表—50　Ⅰ類４ａ４ｂ

土器番号	出土地 地区－層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
326	C－4　2層上面	製塩土器	底部	－	－	－	1.6～0.8	横ナデ	ナデ		1/3
327	表採	製塩土器	底部	－	－	22.0	0.7	ナデ	ナデ		1/3
328	表採	製塩土器	底部	－	－	20.4	0.5	ナデ	ナデ		1/3
329	C－3　灰原上	製塩土器	底部	－	－	－	0.7～1.2	ナデ	ナデ		1/3
330	C－5　灰原上	製塩土器	底部	－	－	17.8	0.6	ナデ	ナデ		1/3
331	C－6　灰原上	製塩土器	底部	－	－	－	0.6	ナデ	ナデ		1/3
332	C－6　灰原上	製塩土器	底部	－	－	－	0.5	ナデ	ナデ		1/3
333	C－6　灰原上	製塩土器	底部	－	－	－	0.6	ナデ	ナデ		1/3
334	D－5　灰原上	製塩土器	底部	－	－	15.2	0.6	ナデ	ナデ		1/3



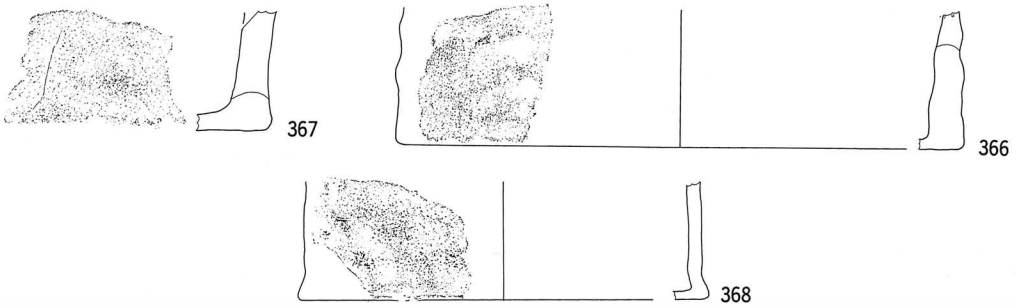
表—51　Ⅰ類4 b

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
335	D—5 灰原上	製塩土器	底部	—	—	17.4	0.3	ナデ	ナデ		1/3
336	D—5 灰原上	製塩土器	底部	—	—	20.4	0.6	ナデ	ナデ		1/3
337	ABC 灰層	製塩土器	底部	—	—	26.0	0.6～0.7	ナデ	ナデ		1/4
338	DE—10・11 灰層中	製塩土器	底部	—	—	17.2	0.6	ナデ	ナデ		1/3
339	DE—10・11 灰層中	製塩土器	底部	—	—	15.0	0.5	ナデ	ナデ		1/3
340	DE—10・11 灰層中	製塩土器	底部	—	—	19.0	0.8	ナデ	ナデ		1/3
341	DE—10・11 灰層中	製塩土器	底部	—	—	17.8	0.4～0.6	ミガキ風ナデ	ナデ		1/3
342	D—5 5層上面	製塩土器	底部	—	—	17.6	0.5～0.7	ナデ	横ナデ		1/3
343	D—10 5層上面	製塩土器	底部	—	—	12.2	0.3～0.8	ナデ	横ナデ		1/3
344	D—10 5層上面	製塩土器	底部	—	—	23.2	0.7	ナデ	ナデ		1/3
345	D—10 5層上面	製塩土器	底部	—	—	17.4	0.7	ナデ	横ナデ		1/3
346	D—10 5層	製塩土器	底部	—	—	17.2	0.5	ナデ	ナデ		1/3
347	SK—04 埋土	製塩土器	底部	—	—	19.4	0.5	ナデ	ナデ		1/3
348	表採	製塩土器	底部	—	—	17.0	0.6～0.9	横ナデ	ナデ		1/3
349	表採	製塩土器	底部	—	—	16.0	0.7	ナデ	ナデ		1/3
350	C—6 灰原中	製塩土器	底部	—	—	15.7	0.4	ナデ	ナデ		1/3



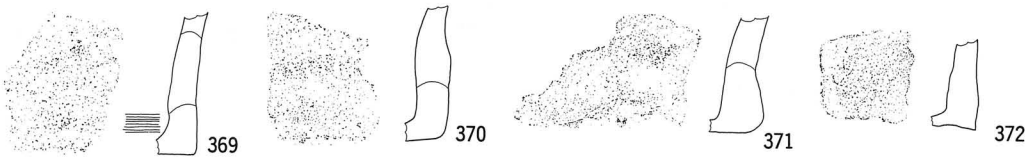
表—52　Ⅰ類5ｂ，Ⅱ類1ａ

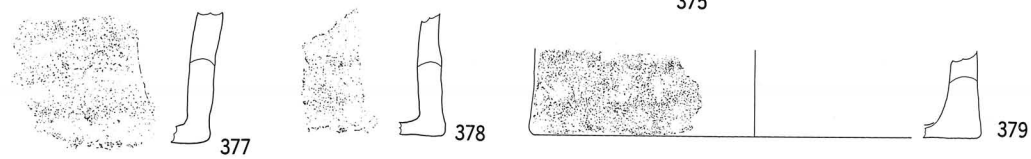
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
351	A—2　2層	製塩土器	底部	—	—	—	1.0~1.1	ナデ	ナデ		1/3
352	表採	製塩土器	底部	—	—	—	1.8	ナデ	ナデ		1/3
353	表採	製塩土器	底部	—	—	23.0	1.0~1.4	ナデ	ナデ		1/3
354	表採	製塩土器	底部	—	—	—	1.2	ナデ	ナデ		1/3
355	C—6　灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	1.3	ナデ	ナデ		1/3
356	C—6　灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	1.1~1.3	ナデ	ナデ　指圧痕		1/3
357	C—6　灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	1.5	刷毛目	ナデ		1/3
358	D—9・10　灰原	製塩土器	底部	—	—	23.4	1.1	ナデ	ナデ		1/3
359	A—8　灰層上面	製塩土器	底部	—	—	23.0	1.3~1.5	ナデ	ナデ		1/3
360	A—8　灰層上面	製塩土器	底部	—	—	28.6	1.2~1.4	ナデ	ナデ　刷毛目		1/4
361	A—8　灰層上面	製塩土器	底部	—	—	28.0	1.0~1.2	ナデ	ナデ		1/4
362	A—8　灰層上面	製塩土器	底部	—	—	—	1.3	ナデ	ナデ		1/3
363	A—8　灰層上面	製塩土器	底部	—	—	17.0	1.3	ナデ	ナデ		1/3
364	DE—10・11　灰層中	製塩土器	底部	—	—	—	1.4	ナデ	ナデ		1/3
365	D—10　1層上面	製塩土器	底部	—	—	—	1.3	ナデ	ナデ		1/3



表—53　II類1 a

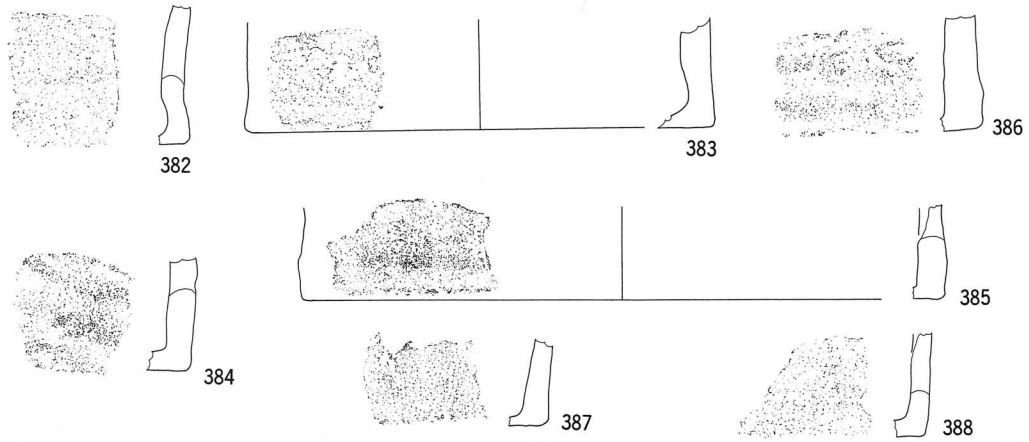
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
366	A—8　2層上面	製塩土器	底部	—	—	22.6	1.0～1.3	ナデ	ナデ		1/3
367	C—4　2層上面	製塩土器	底部	—	—	—	1.2～1.3	横ナデ	ナデ		1/3
368	SK—09	製塩土器	底部	—	—	16.4	0.5	ナデ	ナデ		1/3





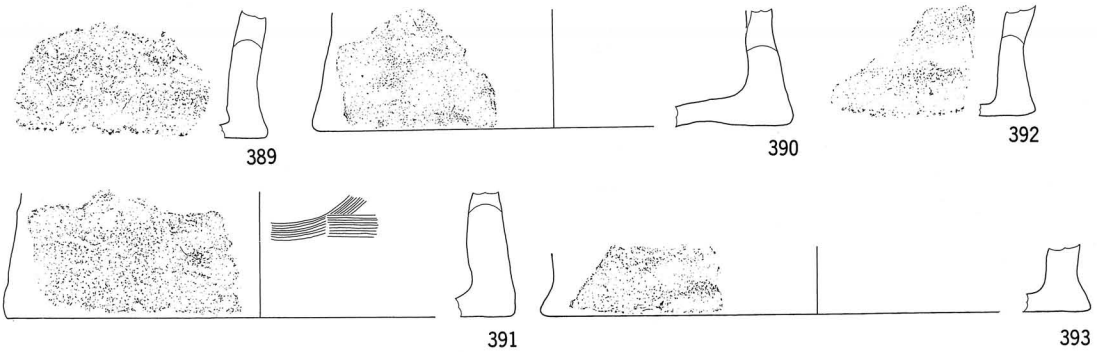
表—54　II類1 b

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
369	表採	製塩土器	底部	—	—	—	0.8～1.0	ナデ　刷毛目	ナデ		1/3
370	表採	製塩土器	底部	—	—	—	0.9～1.4	ナデ	ナデ		1/3
371	表採	製塩土器	底部	—	—	—	1.2～1.5	ナデ	ナデ		1/3
372	C—6　灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	0.9～1.2	ナデ	ナデ		1/3
373	C—6　灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	0.9	ナデ	ナデ		1/3
374	C—6　灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	0.7	ナデ	ナデ		1/3
375	C—6　灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	0.7～1.0	刷毛目	ナデ		1/3
376	C—6　灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	0.9～1.2	ナデ	ナデ		1/3
377	C—6　灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	1.0	ナデ	ナデ		1/3
378	C—6　灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	0.9	ナデ	ナデ		1/3
379	B—8　灰原	製塩土器	底部	—	—	23.4	1.5～1.8	横ナデ	ナデ		1/4
380	A—8　2層上面	製塩土器	底部	—	—	—	1.1	ナデ	ナデ		1/3
381	A—8　灰層上面	製塩土器	底部	—	—	22.8	1.0～1.5	ナデ　刷毛目	ナデ		1/3



表—55　II類　1 b

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
382	A—8 灰層上面	製塩土器	底部	—	—	22.8	0.8	ナデ	ナデ		1/3
383	A—8 灰層上面	製塩土器	底部	—	—	18.8	1.0～1.2	ナデ	ナデ		1/3
384	DE—10・11 灰層中	製塩土器	底部	—	—	—	1.1	ナデ	ナデ		1/3
385	DE—10・11 灰層中	製塩土器	底部	—	—	25.6	1.2	ナデ	ナデ		1/3
386	C—4 1層上面	製塩土器	底部	—	—	—	1.5	ナデ	ナデ		1/3
387	SK—03 埋土	製塩土器	底部	—	—	—	0.8	ナデ	ナデ		1/3
388	SK—03 埋土	製塩針器	底部	—	—	—	0.8	ナデ	ナデ		1/3

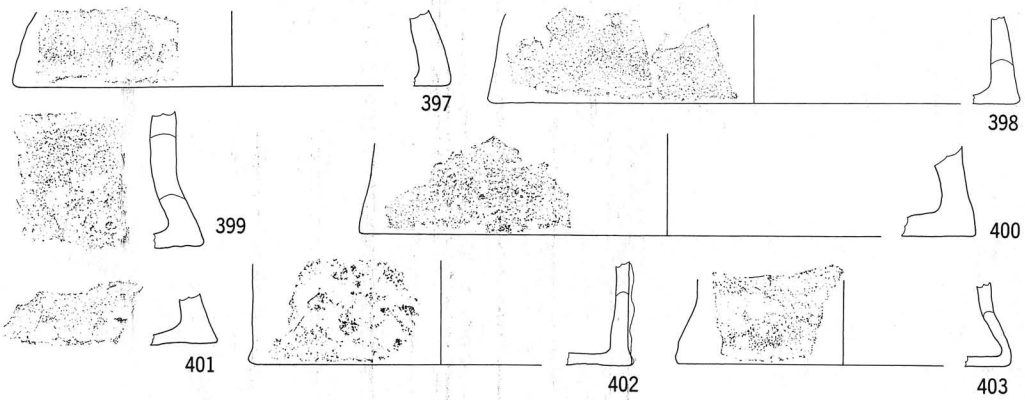


表—56　II類　2 a

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
389	表採	製塩土器	底部	—	—	—	1.1	ナデ	ナデ		1/3
390	A—8 灰層上面	製塩土器	底部	—	—	19.2	1.2	ナデ	ナデ		1/3
391	A—8 灰層上面	製塩土器	底部	—	—	20.4	1.2～1.6	ナデ 刷毛目	ナデ		1/3
392	A—8 灰層上面	製塩土器	底部	—	—	—	1.1	ナデ	ナデ		1/3
393	D—10 2層上面	製塩土器	底部	—	—	22.0	1.2	ナデ	ナデ		1/3

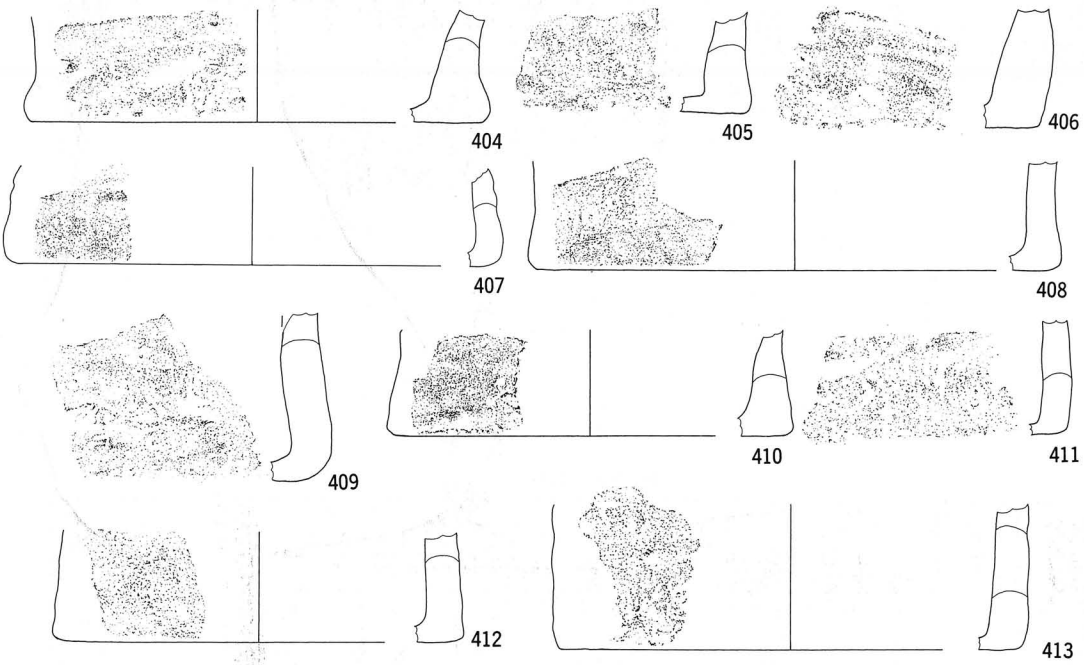
表—57　II類　2 b

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
394	表採	製塩土器	底部	—	—	23.0	1.0～1.4	ナデ	ナデ		1/3
395	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	18.4	0.8	ナデ	ナデ		1/3
396	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	1.0	ナデ	ナデ		1/3



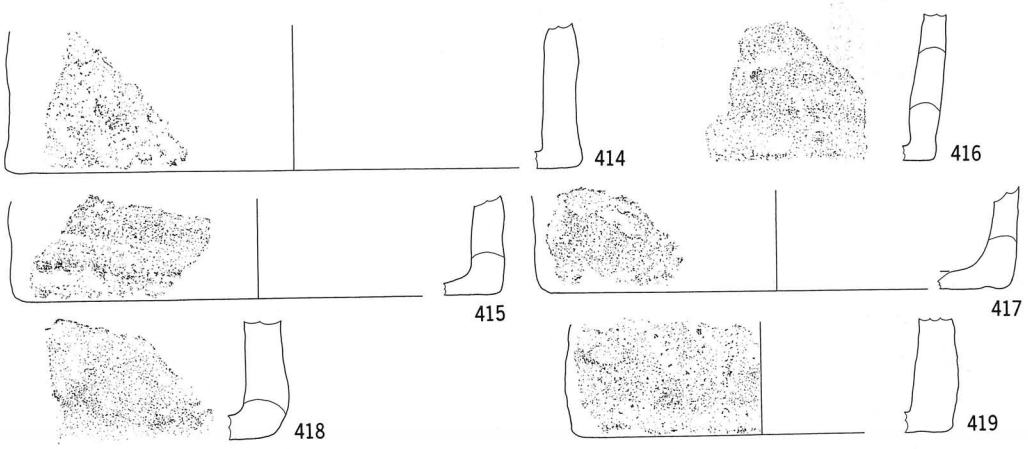
表—58　II類　2 b

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
397	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	17.4	1.0	ナデ	ナデ		1/3
398	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	28.2	0.7～1.2	刷毛目	ナデ		1/3
399	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	0.9	刷毛目	ナデ		1/3
400	BC—5・6・7 灰層中	製塩土器	底部	—	—	24.6	1.5	ナデ	ナデ		1/3
401	C—6 灰層中	製塩土器	底部	—	—	12.2	0.8	ナデ	ナデ		1/3
402	D—11 2層上面	製塩土器	底部	—	—	15.4	0.5	ナデ	ナデ		1/3
403	SK—03	製塩土器	底部	—	—	13.2	0.5	ナデ	ナデ		1/3



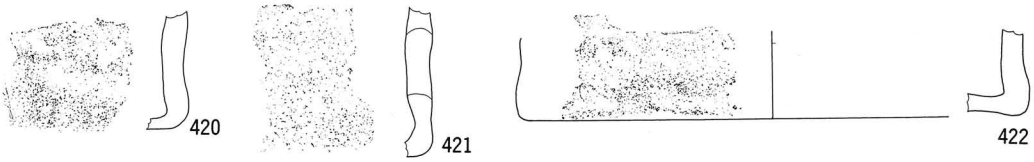
表—59　II類　3 a

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
404	表採	製塩土器	底部	—	—	18.0	1.2～1.7	ナデ	ナデ		1/3
405	表採	製塩土器	底部	—	—	—	1.2～1.8	ナデ	ナデ		1/3
406	C—3 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	1.4～2.1	ナデ	ナデ		1/3
407	D—9・10 灰原	製塩土器	底部	—	—	26.0	1.2	ナデ	ナデ		1/4
408	D—9・10 灰原	製塩土器	底部	—	—	21.0	1.2	ナデ	刷毛目		1/3
409	D—3 1層上面	製塩土器	底部	—	—	—	1.6	ナデ	ナデ		1/3
410	SK—05	製塩土器	底部	—	—	16.2	0.8～1.5	ナデ	横ナデ		1/3
411	B—8 2層上面	製塩土器	底部	—	—	—	1.2	ナデ	刷毛目		1/3
412	D—9 2層上面	製塩土器	底部	—	—	16.4	1.3	ナデ	ナデ		1/3
413	D—9 2層上面	製塩土器	底部	—	—	18.6	1.4	ナデ	刷毛目		1/3



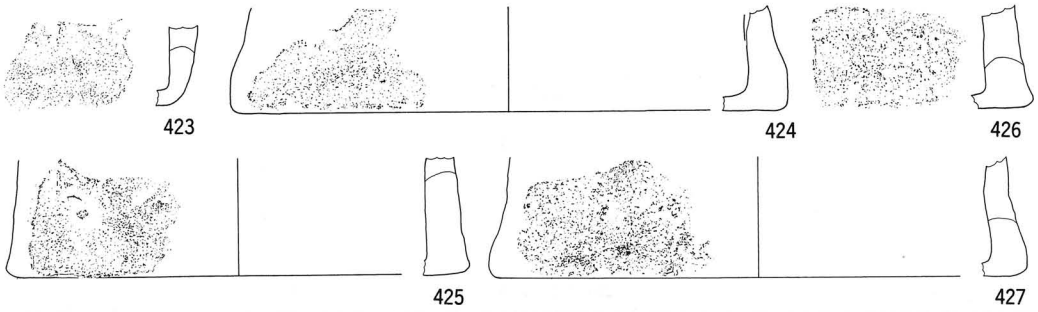
表—60　II類　3 a

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
414	D—9　2層上面	製塩土器	底部	—	—	23.0	1.2～1.3	ナデ	ナデ		1/3
415	D—10　2層上面	製塩土器	底部	—	—	19.8	1.2	ナデ	横ナデ		1/3
416	D—5　5層上面	製塩土器	底部	—	—	—	0.9～1.2	ナデ	ナデ		1/3
417	SK—03	製塩土器	底部	—	—	18.8	1.0～1.3	ナデ	横ナデ		1/3
418	表採	製塩土器	底部	—	—	—	1.5～1.7	横ナデ	ナデ		1/3
419	D—10　土拡	製塩土器	底部	—	—	—	1.4～1.8	横ナデ	横ナデ		1/3



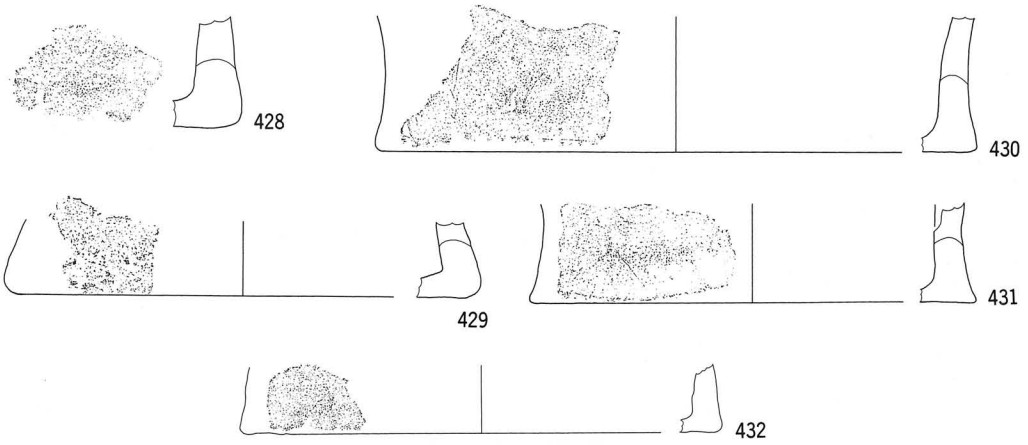
表—61　II類　3 b

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
420	C—6　灰原中	製塩土器	底部	—	—	—	0.8～0.9	ナデ	ナデ		1/3
421	A—8　灰層上面	製塩土器	底部	—	—	—	0.6～1.1	ナデ	ナデ		1/3
422	C—10　灰層中	製塩土器	底部	—	—	20.4	0.8～1.0	ナデ	ナデ		1/3



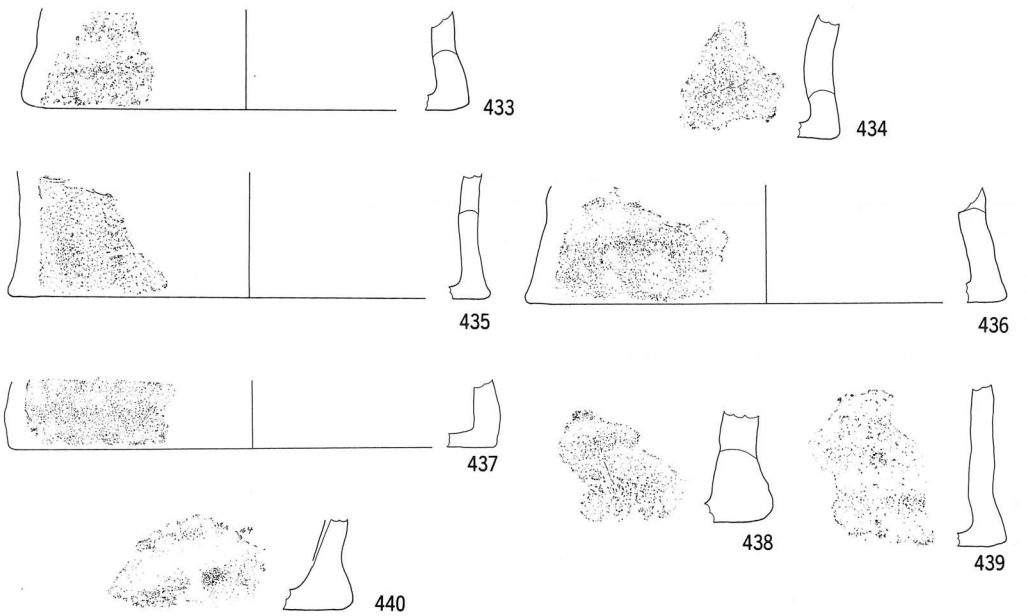
表—62　II類　4 a

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
423	C—6　灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	0.8～1.1	ナデ	ナデ		1/3
424	D—9・10　灰原	製塩土器	底部	—	—	21.6	1.0～1.5	ナデ	ナデ		1/3
425	D—9・10　灰原	製塩土器	底部	—	—	18.6	1.4	ナデ	ナデ		1/3
426	D—9・10　灰原	製塩土器	底部	—	—	—	1.5	ナデ	ナデ		1/3
427	DE—10・11　灰層中	製塩土器	底部	—	—	21.4	0.9～1.1	刷毛目	ナデ		1/3



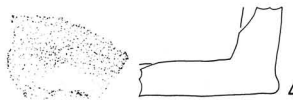
表—63　II類　4 a

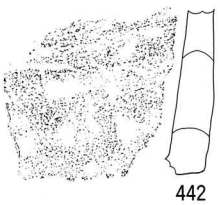
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
428	DE—10・11 灰層中	製塩土器	底部	—	—	—	1.4～1.6	ナデ	ナデ		1/3
429	SK—05	製塩土器	底部	—	—	18.8	1.2	ナデ	ナデ		1/3
430	A—8 2層上面	製塩土器	底部	—	—	24.0	0.8～1.1	ナデ	ナデ		1/3
431	A—8 2層上面	製塩土器	底部	—	—	17.8	1.2	ナデ	ナデ		1/3
432	D—10 土坑	製塩土器	底部	—	—	25.6	1.1～1.4	ナデ	横ナデ		1/4

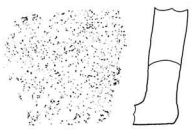


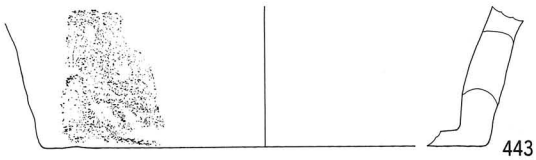
表—64　II類　4 b

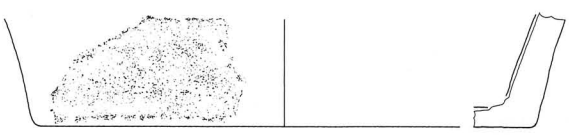
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
433	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	17.8	0.9～1.2	ナデ	ナデ		1/3
434	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	1.1	刷毛目	ナデ		1/3
435	D—9・10 灰原	製塩土器	底部	—	—	19.2	0.8	ナデ	ナデ		1/3
436	D—9・10 灰原	製塩土器	底部	—	—	19.2	1.1	ナデ	ナデ		1/3
437	BC—5・6・7 灰層中	製塩土器	底部	—	—	25.8	1.0	ナデ	ナデ		1/4
438	DE—10・11 灰層中	製塩土器	底部	—	—	—	1.5～1.9	ナデ	ナデ		1/3
439	A—9 1層上面	製塩土器	底部	—	—	—	0.8～1.0	ナデ	ナデ		1/3
440	SK—03 埋土	製塩土器	底部	—	—	—	1.0	ナデ	ナデ		1/3

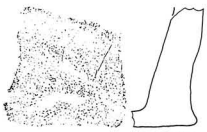

441

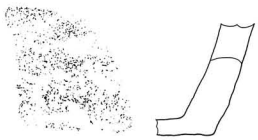

442


444


443


445

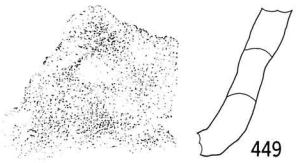

446


447

表—65　II類　5 a

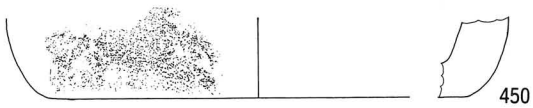
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
441	C—3 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	1.6	ナデ	ナデ		1/3
442	B—8 灰原	製塩土器	底部	—	—	—	1.2~1.5	横ナデ	ナデ		1/3
443	D—9・10 灰原	製塩土器	底部	—	—	18.0	1.5	ナデ	ナデ		1/3
444	C—4 2層上面	製塩土器	底部	—	—	—	1.2~1.3	ナデ	ナデ		1/3
445	C—4 2層上面	製塩土器	底部	—	—	19.8	1.1~1.3	ナデ	ナデ		1/3
446	A—2 2層	製塩土器	底部	—	—	—	1.3~1.5	横ナデ	ナデ		1/3
447	SK—03 埋土	製塩土器	底部	—	—	—	1.3	ナデ	ナデ		1/3

448


449

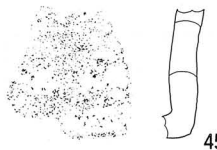
表—66　II類　5 b

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
448	DE—10・11 灰層中	製塩土器	底部	—	—	20.2	0.6	ナデ	ナデ		1/3
449	SK—03 埋土	製塩土器	底部	—	—	—	1.3	ナデ	ナデ		1/3


450

表—67　II類 6 a

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
450	DE—10・11 灰層中	製塩土器	底部	—	—	16.8	2.0	ナデ	ナデ		1/3

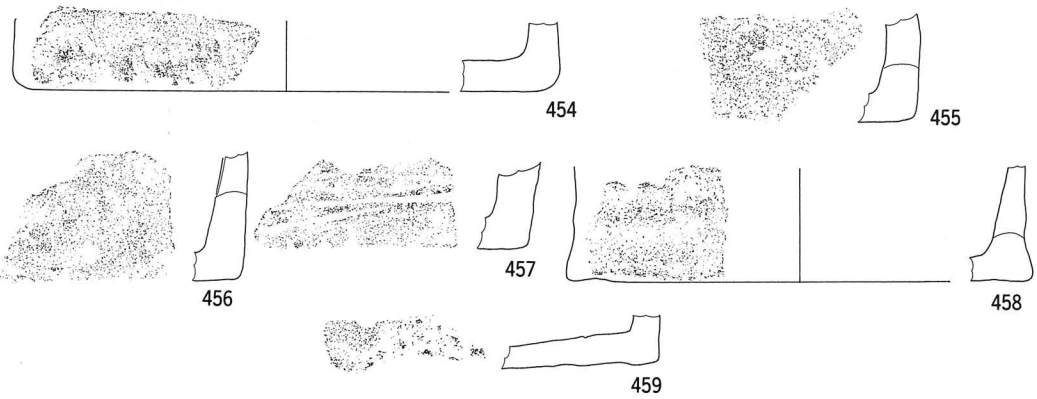

451

452

453

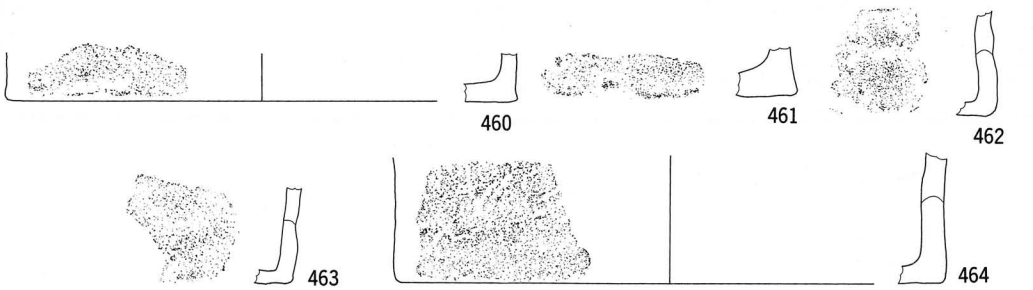
表—68　III類 1 a

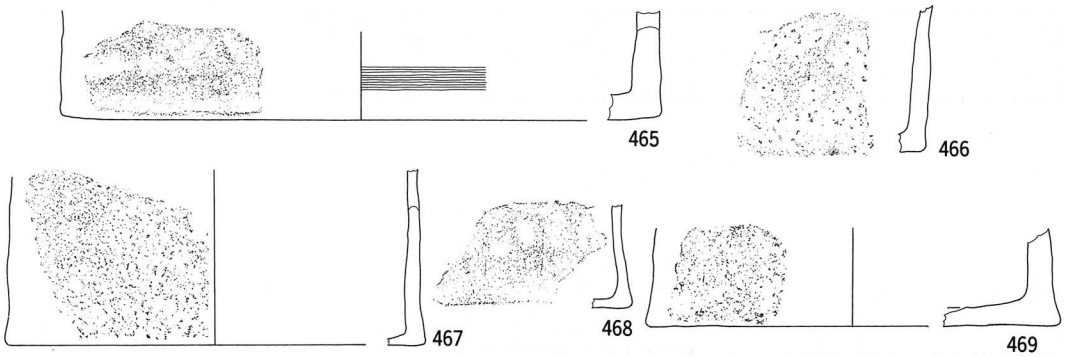
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
451	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	1.0	刷毛目	ナデ		1/3
452	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	1.2	ナデ	ナデ		1/3
453	D—9・10 灰原	製塩土器	底部	—	—	20.0	1.2	ナデ	ナデ		1/3



表—69　III類1 a

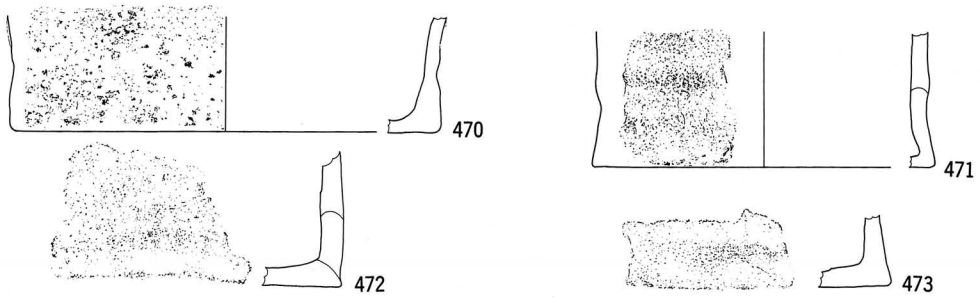
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
454	A—8 灰層上面	製塩土器	底部	—	—	21.6	1.2	ナデ	ナデ		1/3
455	A—8 灰層上面	製塩土器	底部	—	—	—	1.3	ナデ	ナデ		1/3
456	A—8 灰層上面	製塩土器	底部	—	—	—	1.3	ナデ	ナデ		1/3
457	C—3 2層上面	製塩土器	底部	—	—	—	1.5	ナデ	ナデ		1/3
458	D—9 2層上面	製塩土器	底部	—	—	18.2	0.7～1.2	刷毛目	ナデ		1/3
459	SK—03 埋土	製塩土器	底部	—	—	—	1.1	ナデ	ナデ		1/3





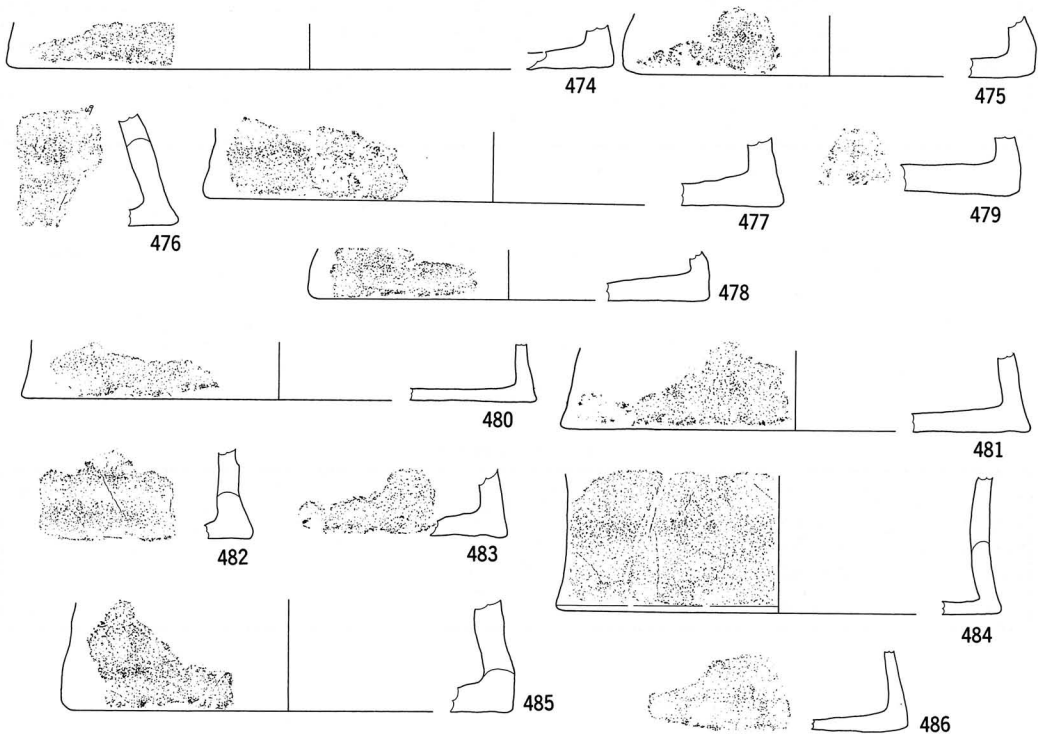
表—70　III類1 b

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
460	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	19.0	0.6	ナデ	ナデ		1/3
461	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	1.0	ナデ	ナデ		1/3
462	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	0.7	ナデ	ナデ		1/3
463	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	0.6	ナデ	ナデ		1/3
464	A—8 灰層上面	製塩土器	底部	—	—	18.8	0.9	ナデ 刷毛目	ナデ		1/3
465	A—8 灰層上面	製塩土器	底部	—	—	24.0	1.0	ナデ 刷毛目	ナデ		1/3
466	C—10 灰層中	製塩土器	底部	—	—	—	0.4～0.6	ナデ	ナデ		1/3
467	D—4 2層上面	製塩土器	底部	—	—	16.8	0.4～0.7	ナデ	ナデ		1/3
468	D—4 2層上面	製塩土器	底部	—	—	—	0.4	ナデ	ナデ		1/3
469	D—9 2層上面	製塩土器	底部	—	—	16.6	1.0	ナデ	ナデ		1/3



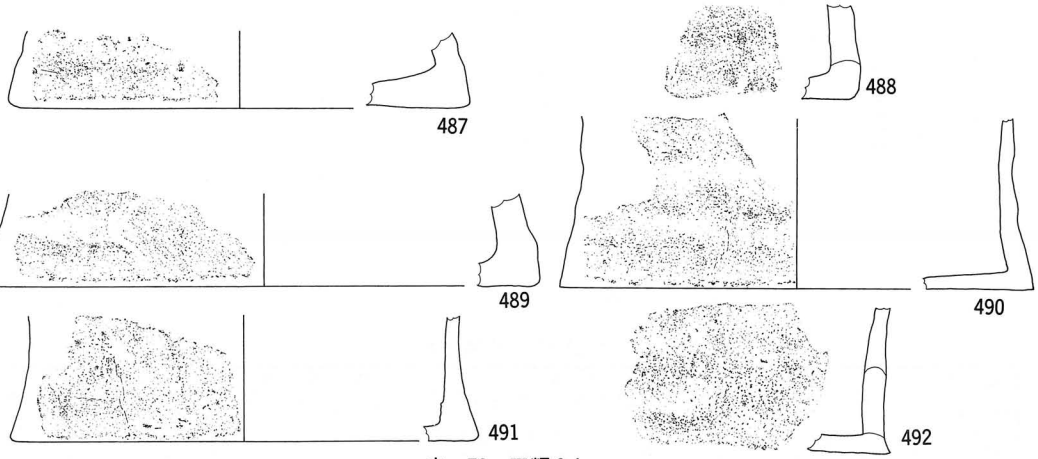
表—71　III類1 b

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
470	E—4　5層上面	製塩土器	底部	—	—	16.8	0.5～0.9	ナデ	ナデ		1/3
471	D—10　5層上面	製塩土器	底部	—	—	12.6	0.7	横ナデ	ナデ		1/3
472	3号炉　床下	製塩土器	底部	—	—	—	0.7～0.9	ナデ	ナデ		1/3
473	4号炉　埋土	製塩土器	底部	—	—	—	0.8	ナデ	ナデ		1/3



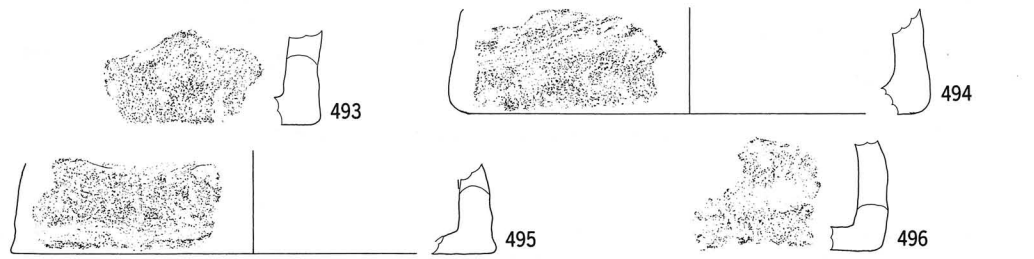
表—72　III類2 b

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
474	C—6　灰原上	製塩土器	底部	—	—	24.2	1.0	ナデ	ナデ		1/3
475	C—6　灰原上	製塩土器	底部	—	—	16.4	0.9	ナデ	ナデ		1/3
476	C—6　灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	1.0	ナデ	ナデ		1/3
477	C—6　灰原上	製塩土器	底部	—	—	23.2	1.0	ナデ	ナデ		1/3
478	C—6　灰原上	製塩土器	底部	—	—	16.0	0.7	ナデ	ナデ		1/3
479	C—6　灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	0.8	ナデ	ナデ		1/3
480	D—5　灰原上	製塩土器	底部	—	—	20.6	0.5	ナデ	ナデ		1/3
481	C—6　灰原中	製塩土器	底部	—	—	18.8	0.7	ナデ	ナデ		1/3
482	C—6　灰原中	製塩土器	底部	—	—	—	0.7～1.0	ナデ	ナデ		1/3
483	C—6　灰原中	製塩土器	底部	—	—	—	0.8	ナデ	ナデ		1/3
484	E—8　灰層	製塩土器	底部	—	—	17.8	0.6～0.7	ナデ	ナデ		1/3
485	C—6　灰層中	製塩土器	底部	—	—	14.0	1.0	ナデ	ナデ		1/3
486	A—9　1層上面	製塩土器	底部	—	—	—	0.4～0.6	ナデ	ナデ		1/3



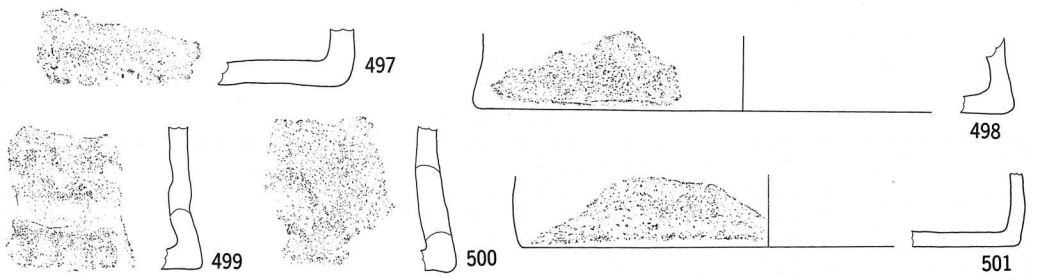
表—73　III類 2 b

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
487	C—6 2層上面	製塩土器	底部	—	—	18.4	1.0	ナデ	ナデ		1/3
488	C—6 2層上面	製塩土器	底部	—	—	—	1.0	ナデ	ナデ		1/3
489	C—6 2層上面	製塩土器	底部	—	—	22.0	1.3	ナデ	ナデ		1/3
490	D—5 5層上面	製塩土器	底部	—	—	18.8	0.4～0.8	横ナデ	ナデ		1/3
491	E—4 5層上面	製塩土器	底部	—	—	18.7	0.5～1.1	ナデ	ナデ		1/3
492	SX—03 埋土	製塩土器	底部	—	—	—	0.6～0.9	ナデ	ナデ		1/3



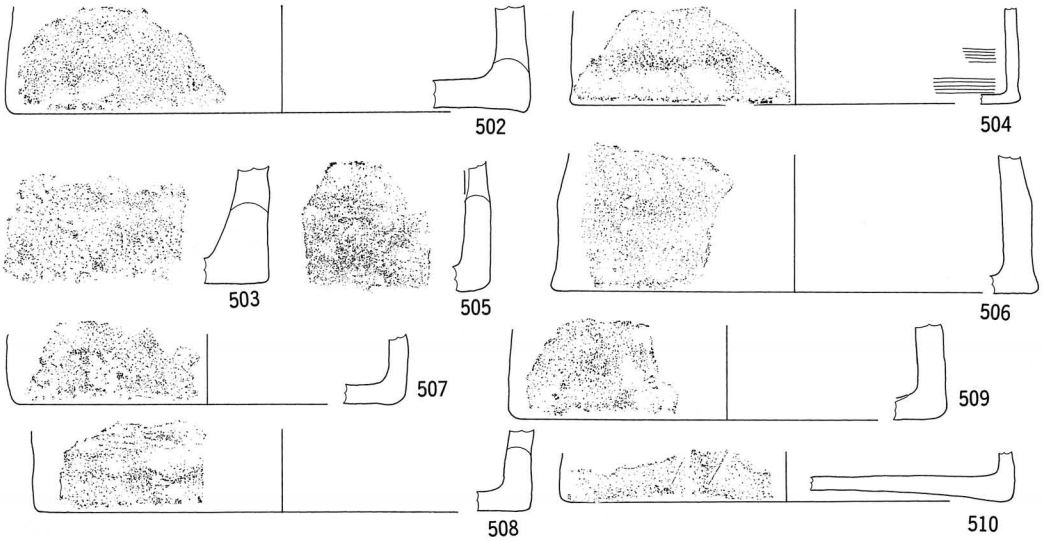
表—74　III類 3 a

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
493	D—10 1層上面	製塩土器	底部	—	—	—	1.2	ナデ	刷毛目		1/3
494	D—9 2層上面	製塩土器	底部	—	—	19.2	1.2	ナデ	ナデ		1/3
495	D—10 2層上面	製塩土器	底部	—	—	19.4	1.2～1.4	横ナデ	ナデ		1/3
496	A—2 2層	製塩土器	底部	—	—	—	1.1～1.2	横ナデ	ナデ		1/3



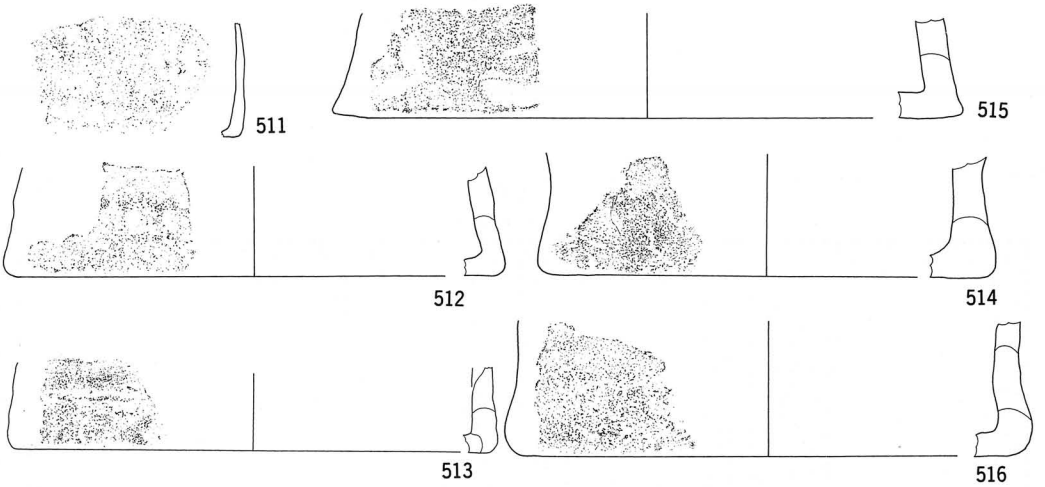
表—75　III類 3 b

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
497	C—2 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	1.0	ナデ	ナデ		1/3
498	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	21.6	0.7	ナデ	ナデ		1/3
499	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	0.8	ナデ	ナデ		1/3
500	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	0.8～1.0	ナデ	ナデ		1/3
501	C—11 灰原上	製塩土器	底部	—	—	20.0	0.5	ナデ	ナデ		1/3



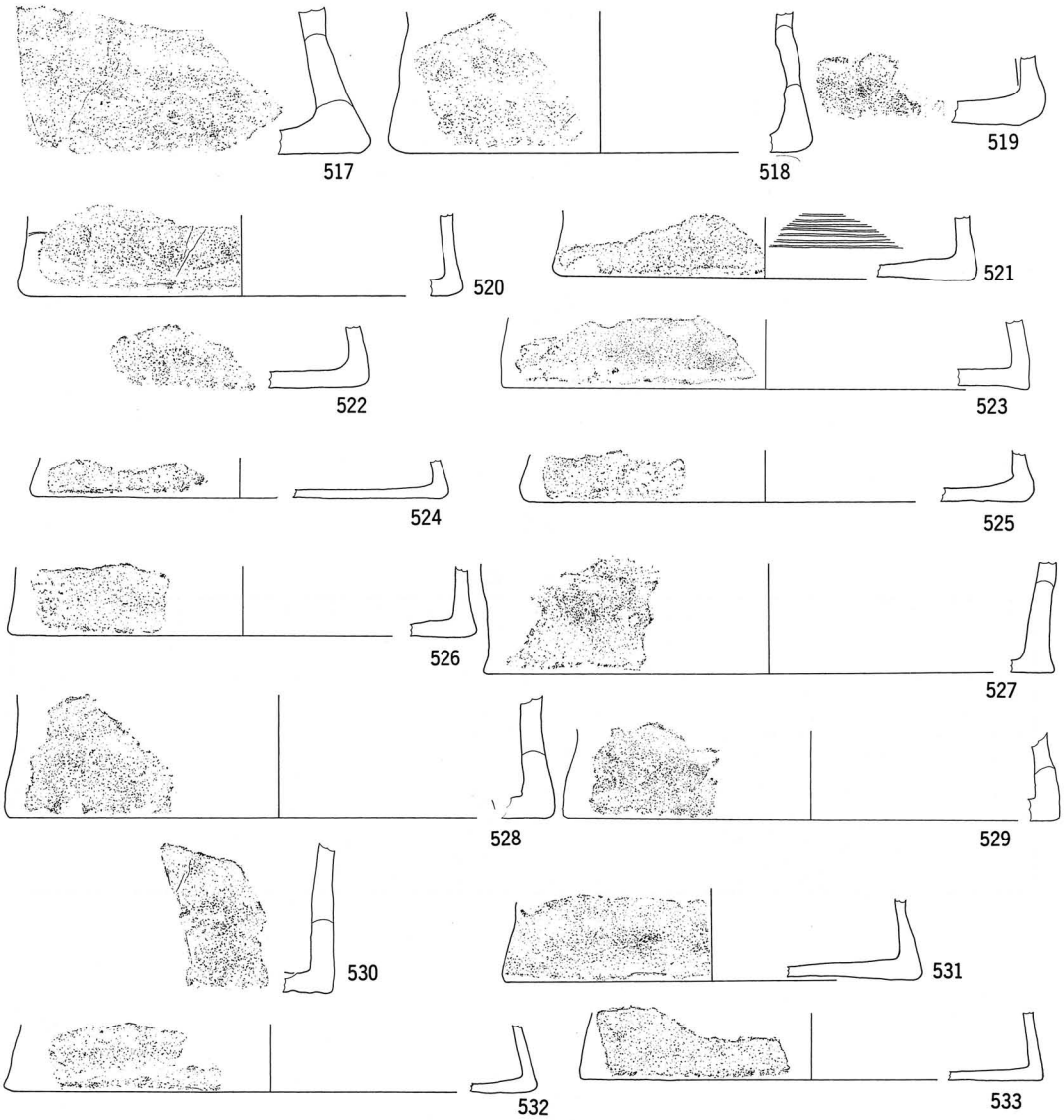
表—76　III類 3 b

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
502	D—3 灰原上	製塩土器	底部	—	—	19.8	1.1~1.2	ナデ	ナデ		1/3
503	D—3 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	1.2~2.0	ナデ	ナデ		1/3
504	F—2・3 灰原中	製塩土器	底部	—	—	18.0	0.4~0.5	刷毛目	ナデ		1/3
505	DE—10・11 灰層中	製塩土器	底部	—	—	—	1.1	ナデ	ナデ		1/3
506	C—2 2層上面	製塩土器	底部	—	—	19.4	0.8~1.1	刷毛目	ナデ		1/3
507	C—6 2層上面	製塩土器	底部	—	—	15.8	0.8	ナデ	ナデ		1/3
508	D—10 2層上面	製塩土器	底部	—	—	19.8	1.0	ナデ	横ナデ		1/3
509	D—10 2層上面	製塩土器	底部	—	—	17.4	1.1	ナデ	ナデ		1/3
510	D—5 5層上面	製塩土器	底部	—	—	18.0	0.5	ナデ	ナデ		1/3



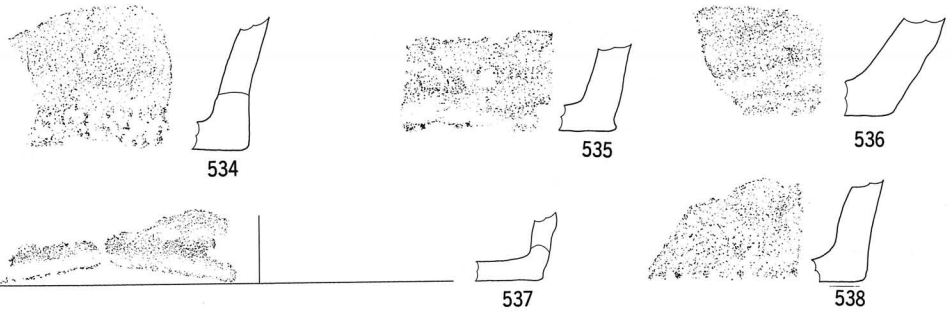
表—77　III類 4 a

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
511	表採	製塩土器	底部	—	—	—	0.2~0.5	ナデ	ナデ		1/3
512	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	20.0	0.9	刷毛目	ナデ		1/3
513	D—9・10 灰原	製塩土器	底部	—	—	26.0	1.3	ナデ	ナデ		1/4
514	DE—10・11 灰層中	製塩土器	底部	—	—	18.2	1.3	ナデ	ナデ		1/3
515	D—10 2層上面	製塩土器	底部	—	—	25.2	1.2	ナデ	ナデ		1/3
516	D—10 2層上面	製塩土器	底部	—	—	20.0	1.0~1.2	ナデ	ナデ		1/3



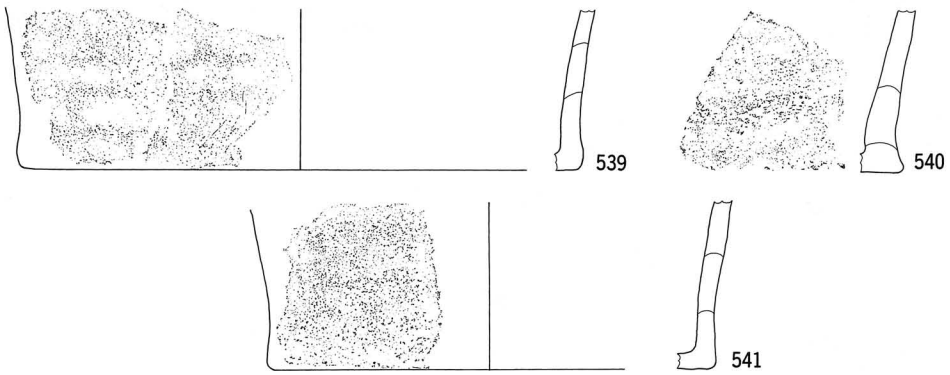
表—78　III類４ｂ

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
517	表採	製塩土器	底部	—	—	—	0.9～1.0	ナデ	ナデ		1/3
518	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	17.0	0.6～0.8	ナデ	ナデ		1/3
519	C—6 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	0.8	ナデ	ナデ		1/3
520	D—5 灰原上	製塩土器	底部	—	—	17.8	0.5	ナデ	ナデ		1/3
521	D—5 灰原上	製塩土器	底部	—	—	17.0	0.6	刷毛目	ナデ		1/3
522	C—6 灰原中	製塩土器	底部	—	—	—	0.6	ナデ	ナデ		1/3
523	ABC—8 灰層	製塩土器	底部	—	—	28.0	0.9	ナデ	ナデ		1/4
524	DE—10・11 灰層中	製塩土器	底部	—	—	16.8	0.4	ナデ	ナデ		1/3
525	D—11 1層上面	製塩土器	底部	—	—	21.2	0.6	ナデ	ナデ		1/3
526	D—11 1層上面	製塩土器	底部	—	—	18.8	0.5	ナデ	ナデ		1/3
527	A—8 2層上面	製塩土器	底部	—	—	22.8	0.7～1.0	ナデ	ナデ		1/3
528	A—8 2層上面	製塩土器	底部	—	—	22.0	0.8～1.0	ナデ	ナデ		1/3
529	A—8 2層上面	製塩土器	底部	—	—	26.4	0.8～1.3	ナデ	ナデ		1/4
530	D—10 2層上面	製塩土器	底部	—	—	—	0.7～0.9	ナデ	ナデ		1/3
531	D—5 5層上面灰層	製塩土器	底部	—	—	16.8	0.4～0.6	ナデ	ナデ		1/3
532	A～C 8～10	製塩土器	底部	—	—	21.4	0.3	ナデ	ナデ		1/3
533	D—5 5層上面	製塩土器	底部	—	—	18.6	0.4	ナデ	ナデ		1/3



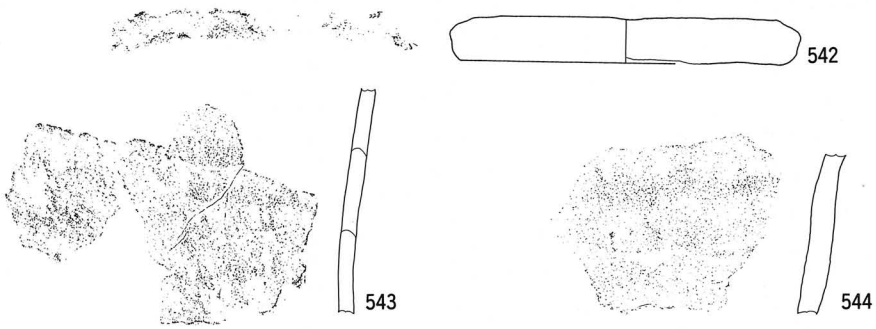
表—79　III類5 a

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
534	表採	製塩土器	底部	—	—	—	0.2～0.5	ナデ	ナデ		1/3
535	C—2 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	1.4	ナデ	ナデ		1/3
536	C—3 灰原上	製塩土器	底部	—	—	—	1.8	ナデ	ナデ		1/3
537	A—8 灰層上面	製塩土器	底部	—	—	28.4	1.2	ナデ	ナデ		1/4
538	C—4 1層上面	製塩土器	底部	—	—	—	1.3	ナデ	ナデ		1/3



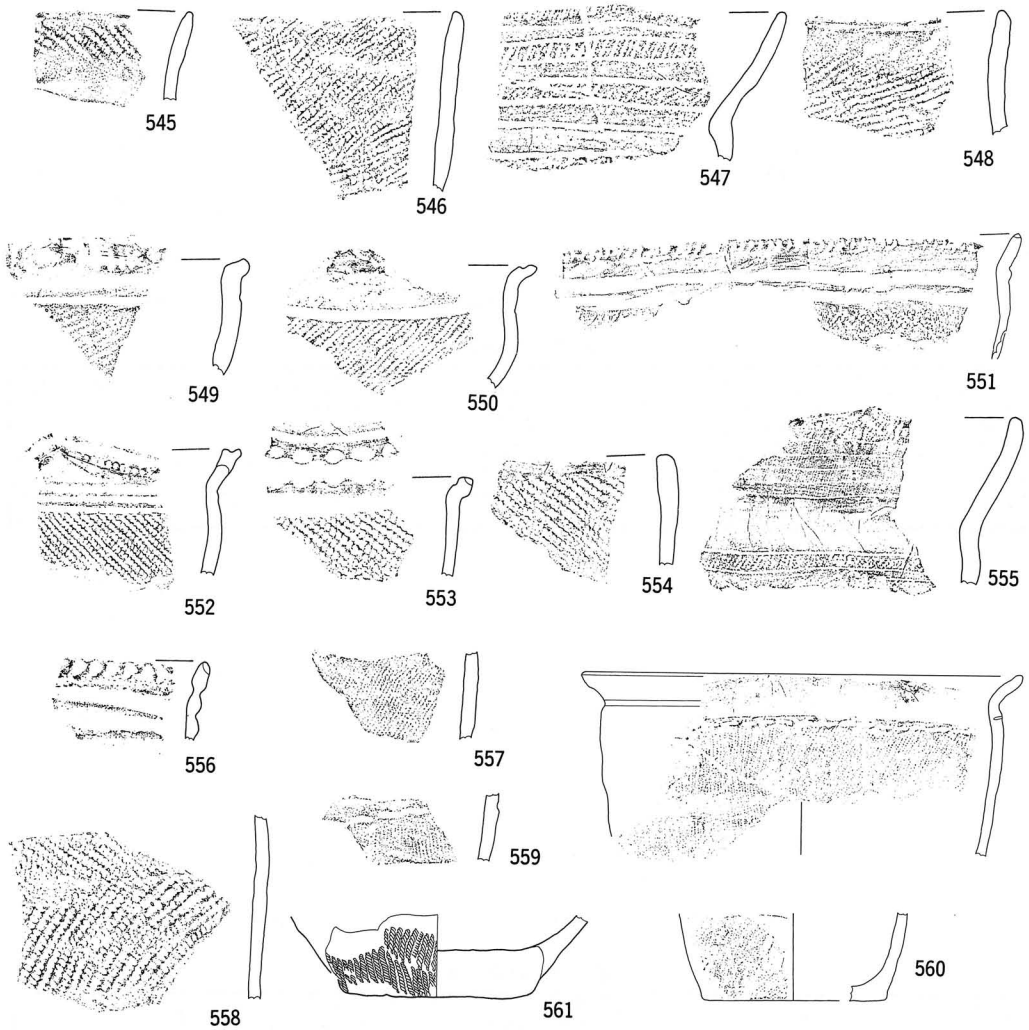
表—80　III類5 b

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
539	表採	製塩土器	底部	—	—	22.4	0.6	ナデ	ナデ		1/3
540	D—3 2層上面	製塩土器	底部	—	—	—	0.8～1.0	横ナデ	ナデ		1/3
541	D—10 落ち込み埋土	製塩土器	底部	—	—	22.2	0.7	ナデ	横ナデ		1/3



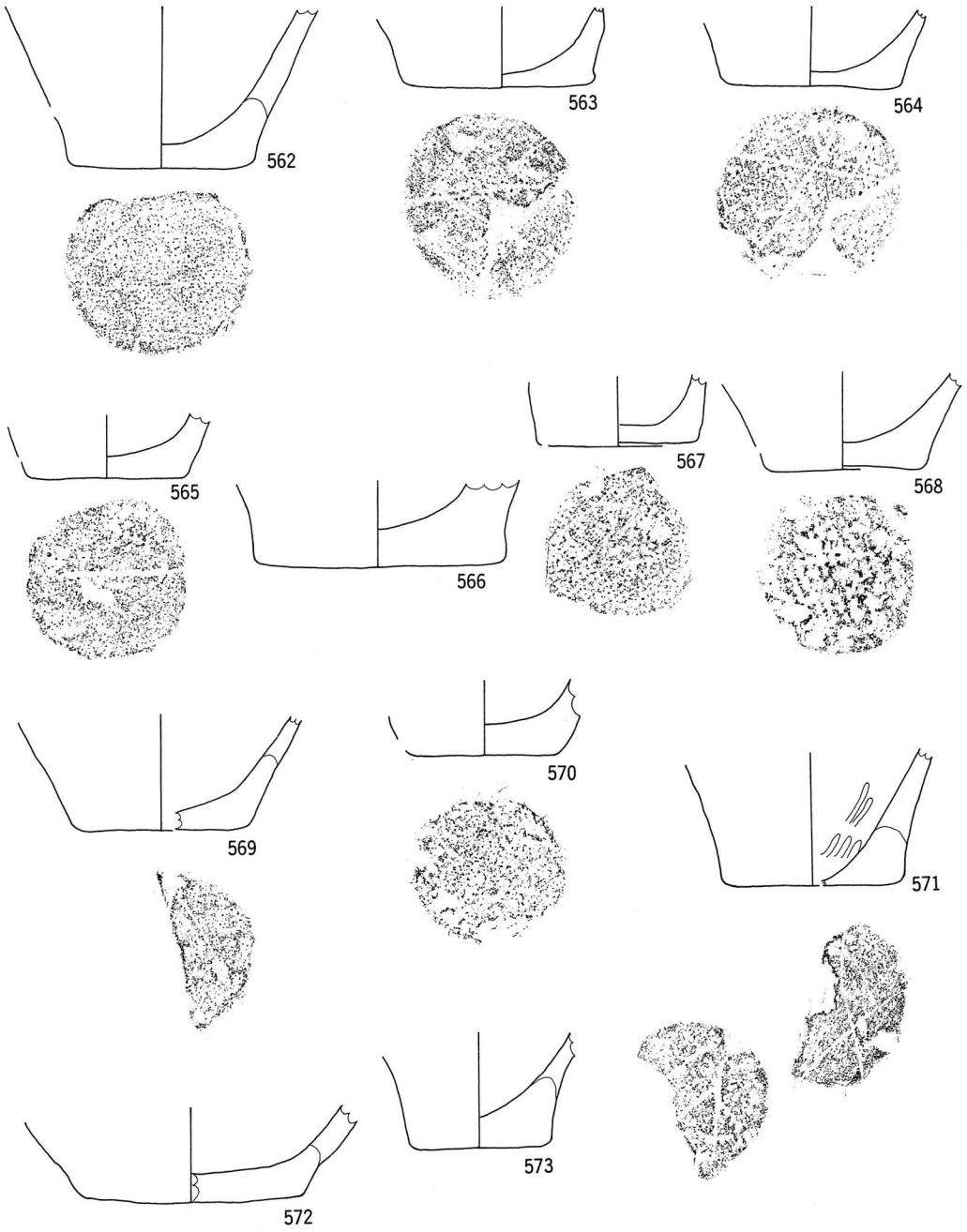
表—81　製塩土器

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
542	表採	製塩土器	底部	—	—	14.0	1.8	ナデ	ナデ		1/3
543	C—10 灰層中	製塩土器	体部	—	—	—	0.7	ナデ	ナデ		1/3
544	C—2 灰原上	製塩土器	体部	—	—	—	0.8～1.0	ナデ	ナデ		1/3



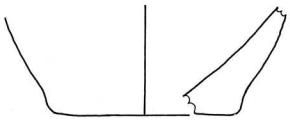
表—82　Aラインサブトレンチ出土遺物

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
545	Aサブトレンチ　2層	縄文土器	口縁	—	—	—	0.6	ナデ	縄文LR		1/3
546	Aサブトレンチ1・2・3・4層	縄文土器	口縁	—	—	—	0.6	横ナデ	縄文LR		1/3
547	Aサブトレンチ1・2・3・4層	弥生土器	口縁	—	—	—	0.5～0.8	横ミガキ	平行沈線 異条斜縄文		1/3
548	Aサブトレンチ1・2・3・4層	縄文土器	口縁	—	—	—	0.5～0.8	横ミガキ	縄文LR		1/3
549	Aサブトレンチ1・2・3・4層	縄文土器 小型甕	口縁	—	—	—	0.8	ナデ	刻目文・沈線文 山形突起		1/3
550	Aサブトレンチ1・2・3・4層	縄文土器 小型甕	口縁	—	—	—	0.5	横ナデ	縄文LR・沈線文		1/3
551	Aサブトレンチ1・2・3・4層	縄文土器	口縁	—	—	—	0.6～0.7	横ミガキ	ミガキ 刻目文・縄文圧痕		1/3
552	Aサブトレンチ1・2・3・4層	縄文土器	口縁	—	—	—	0.5～0.8	ミガキ	縄文・沈線文 刻目文・山形突起		1/3
553	Aサブトレンチ1・2・3・4層	弥生土器	口縁	—	—	—	0.6～0.8	ナデ	縄文・沈線文 波状口縁		1/3
554	Aサブトレンチ1・2・3・4層	縄文土器	口縁	—	—	—	0.6～0.8	ナデ	縄文		1/3
555	Aサブトレンチ1・2・3・4層	縄文土器	口縁	—	—	—	0.8～0.9	横ミガキ	沈線文・縄文		1/3
556	Aサブトレンチ1・2・3・4層	縄文土器	口縁	—	—	—	0.6～0.8	ナデ	平行沈線文，刻目文		1/3
557	Aサブトレンチ1・2・3・4層	縄文土器	体部	—	—	—	0.6	ナデ	撚糸文		1/3
558	Aサブトレンチ1・2・3・4層	縄文土器	体部	—	—	—	0.6	ナデ	羽状縄文		1/3
559	Aサブトレンチ1・2・3・4層	弥生土器	体部	—	—	—	0.6	横ミガキ	刺突文　撚糸文		1/3
560	Aサブトレンチ1・2・3・4層	弥生土器甕	口縁～底部	—	23.2	9.8	0.5	ナデ	口唇撚糸文　口縁刺突文　体部撚糸文	1㎜以下の石英粒を多く含む	1/4
561	A1・2・3	縄文土器	底部	—	—	—	0.5	指ナデ	縄文LR	2㎜以下の石英粒を多く含む。	1/3

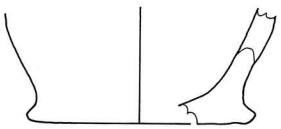


表—83　Aラインサブトレンチ出土遺物

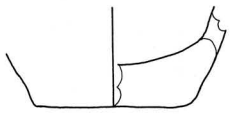
土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
562	C—3 灰原中	製塩土器	平底	—	—	5.2	0.5	ナデ	ナデ		1/2
563	C—3 灰原中	製塩土器	平底	—	—	5.2	0.5	ナデ	ヘラナデ	木葉痕	1/2
564	C—3 灰原中	製塩土器	平底	—	—	5.0	0.3	ヘラナデ	ナデ	木葉痕	1/2
565	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	4.4	0.7	ナデ	ナデ		1/2
566	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	7.0	1.5	ナデ	刷毛目		1/2
567	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	4.3	0.5	ナデ	ナデ	木葉痕	1/2
568	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	4.3	0.6	ナデ	ケズリ	網代痕	1/2
569	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	4.8	0.4	ナデ	ナデ	木葉痕	1/2
570	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	4.4	0.8	ナデ	ナデ	木葉痕	1/2
571	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	4.8	0.6	ナデ	ナデ	木葉痕	1/2
572	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	6.0	0.8	ナデ	ナデ		1/2
573	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	4.0	0.5	ナデ	ナデ	木葉痕	1/2

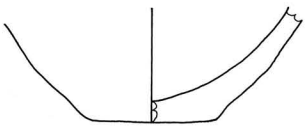

574

575

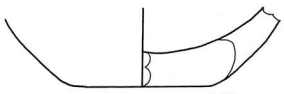

576

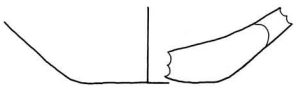
577




578

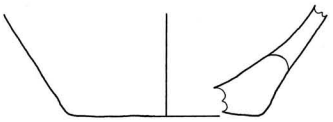
579


580


581

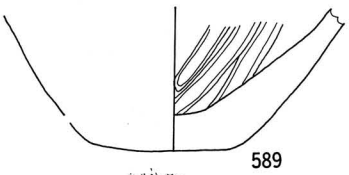
582

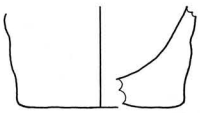
583

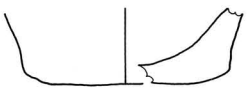

584

585

586

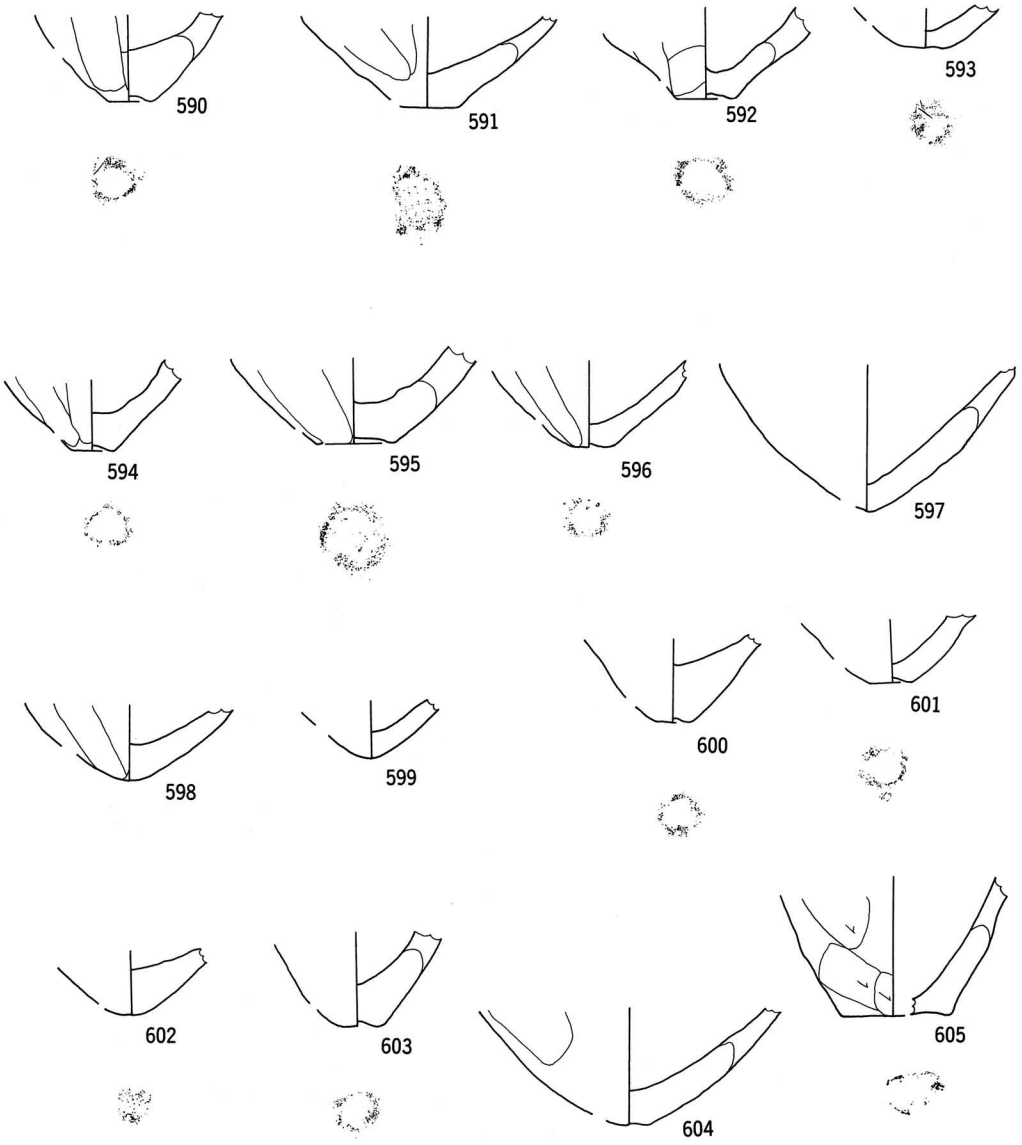

589


587


588

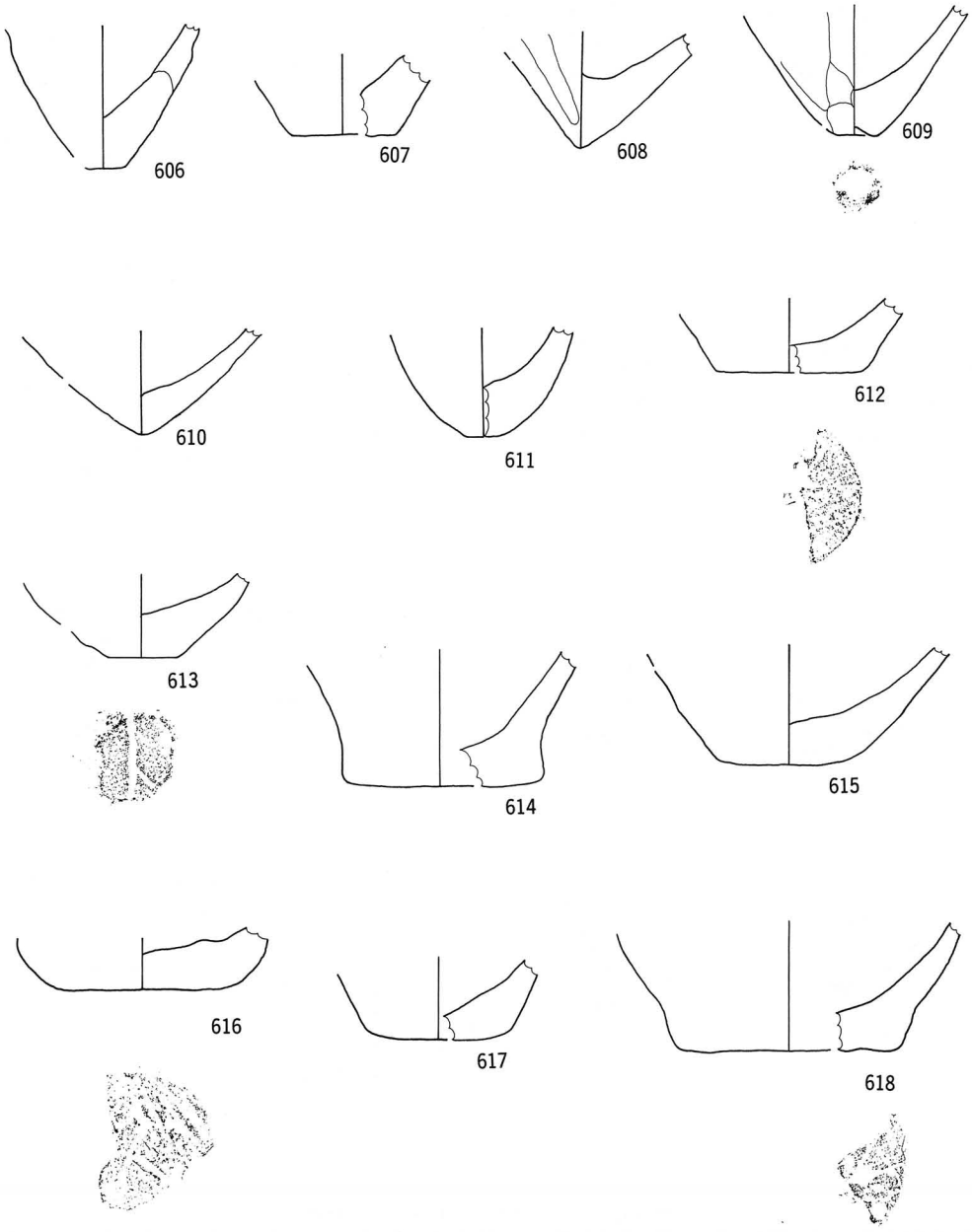
表—84　Aラインサブトレンチ出土遺物

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
574	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	5.0	0.7	ナデ	ナデ	木葉痕	1/2
575	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	5.0	0.6	ヘラケズリ	ナデ	木葉痕	1/2
576	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	6.0	0.6	ナデ	ナデ		1/2
577	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	4.0	0.8	ナデ	ナデ	木葉痕	1/2
578	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	3.4	0.5	ヘラナデ	ナデ	木葉痕	1/2
579	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	4.4	0.5	刷毛目	ケズリ	木葉痕	1/2
580	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	4.2	0.6	ナデ	ケズリ		1/2
581	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	4.0	0.6	ナデ	ナデ		1/2
582	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	5.4	0.3	ナデ	ケズリ		1/2
583	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	5.2	0.6	ナデ	ナデ		1/2
584	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	5.2	0.4	ヘラナデ	ナデ	木葉痕	1/2
585	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	3.4	0.6	ナデ	ナデ		1/2
586	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	5.2	0.6	ナデ	ナデ		1/2
587	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	4.4	0.4	ナデ	ナデ	木葉痕	1/2
588	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	5.6	0.5	ナデ	ケズリ	木葉痕	1/2
589	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	4.0	0.5	ヘラナデ	ナデ	木葉痕	1/2



表—85　Aラインサブトレンチ出土遺物

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
590	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	上底	—	—	1.0	0.6	ナデ	ナデ		1/2
591	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	1.6	0.4	ナデ	ナデ		1/2
592	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	上底	—	—	1.4	0.7	ナデ	ナデ		1/2
593	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	上底	—	—	1.0	0.5	ナデ	ナデ		1/2
594	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	上底	—	—	1.0	0.6	ナデ	ケズリ		1/2
595	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	上底	—	—	2.0	0.8	ヘラケズリ	ケズリ		1/2
596	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	上底	—	—	1.0	0.4	ナデ	ケズリ		1/2
597	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	尖底	—	—	—	0.8	ナデ	ナデ		1/2
598	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	尖底	—	—	0.4	0.5	ナデ	ナデ		1/2
599	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	尖底	—	—	0.4	0.4	ナデ	ナデ		1/2
600	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	上底	—	—	0.8	0.5	ナデ	ナデ		1/2
601	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	上底	—	—	1.0	0.5	ナデ	ナデ		1/2
602	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	尖底	—	—	0.8	0.5	ナデ	ナデ		1/2
603	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	上底	—	—	1.0	0.7	ナデ	ナデ		1/2
604	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	上底	—	—	1.0	0.4	ナデ	ナデ		1/2
605	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	上底	—	—	2.8	0.4	ナデ	ナデ		1/2



表—86　Aラインサブトレンチ出土遺物

土器番号	出土地 地区—層位	種別	部位	法量(cm) 器高	口径	底径	器厚	文様調整 内面	外面	備考	縮尺
606	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	上底	—	—	1.0	0.7	ナデ	ナデ		1/2
607	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	2.8	1.1	ナデ	ケズリ		1/2
608	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	尖底	—	—	0.2	0.8	ナデ	ナデ		1/2
609	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	上底	—	—	1.0	0.5	ナデ	ナデ		1/2
610	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	尖底	—	—	0.4	0.5	ナデ	ナデ		1/2
611	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	尖底	—	—	1.0	0.5	ナデ	ナデ		1/2
612	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	4.0	0.6	ナデ	ナデ	木葉痕	1/2
613	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	2.4	0.5	ヘラケズリ	ヘラケズリ	木葉痕	1/2
614	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	5.4	0.6	ナデ	ナデ		1/2
615	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	4.0	0.5	ナデ	ナデ	木葉痕	1/2
616	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	4.8	0.8	ヘラナデ	ナデ	木葉痕	1/2
617	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	3.8	0.6	ナデ	ナデ		1/2
618	Aサブトレンチ1・2・3・4層	製塩土器	平底	—	—	6.0	0.4	ナデ	ナデ	木葉痕	1/2

遺構内出土品集計表

分類 / 遺構		土師器 坏	土師器 甕	須恵器 坏	須恵器 甕	製塩土器	合計
土器の出土状況	SI−01	9	3	1			13
	SI−02	2	19	4	1		26
	SD−02		1	1			2
	SD−03	1	1				2
	SD−04				1		1
	SK−02		1				1
	SK−08		1				1
	3号製塩炉		2				2
	SI−02					1	1
	SK−02					2	2
	A−2					1	1
	1号製塩炉					4	4
	2号製塩炉					9	9
	3号製塩炉					9	9
	4号製塩炉					17	17
	6号製塩炉					1	1
	合計	12	28	6	2	44	92

各ライン土師器・須恵器集計表

	灰層					1層					2層				3層				4層				5層					6層		合計
	土師器		須恵器			土師器		須恵器			土師器		須恵器		土師器		須恵器		土師器		須恵器		土師器	須恵器				土師器	須恵器	
	坏	甕	坏	甕	壺	坏	甕	坏	甕	壺	坏	甕	坏	甕	坏	甕	坏	甕	坏	甕	坏	甕	坏	甕	坏	甕	壺	甕	坏	
Cライン3	1				1																									2
Cライン5	1(内黒)		1																					1						3
Cライン10																							1							1
Cライン12																									1					1
Cライン13																							1				1			2
Cライン14	1(内黒)																						1							2
Cライン15		1(大)										1(中)					1													3
Cライン16											1	2(小)(中)							1		1							1(中)	1	7
Cライン17							1(中)					1(大)							1	2(大)										5
Bライン8・9																								1						1
Bライン14		1(大)																			1									2
Dライン3		1(小)																												1
Dライン4			1																											1
Dライン5			1																				1(大)	1	1					4
Dライン8																					1									1
Eライン3			1																											1
Eライン4																							3(大)							3
Eライン5																					1									1
Aライン3																						1								1
Aライン5																							1(大)							1
Aライン8																								1						1
Aライン9																									1(中)					1
Aライン10																								3						3
合計	3	3	4		1		1				1	4					1		2	2	4	1	3	5	7	3	1	1	1	48

IV. 考　　察

土器製塩の概要と水浜遺跡について

岩塩が存在しない我国においては、塩の生産は海水に３％ほど含まれる塩分の抽出によって行われてきた。古くは土器による製塩であり、平安後期ごろから鉄釜に変わり、揚げ浜塩田法による製塩へ移行したと考えられている。土器製塩の工程には海水（鹹水）を採鹹（濃縮）→煎熬（煮沸）→ニガリの処理→焼塩→固形の精製塩という工程のあったことが確認されている。これらの工程も含め土器製塩の考古学的研究を進めてきたのが近藤義郎氏(註1)であり、戦後近藤が提起した古墳中期の師楽式土器による土器製塩そのものの認知に始まったといえる。その後製塩土器の出土分布は、全国に広がっていることが解明されており、各地域ごとの編年的研究も進められてきている。

土器製塩の開始は、西日本の備讃地方を中心とする瀬戸内沿岸では弥生中期頃から認められており、関東では安行式期に器厚が薄く、小平底で砲弾型をした無装飾の製塩用土器が出現することから、縄文後期後葉とされている。東北では加藤孝氏(註2)によって「無文粗面尖底土器」と呼ばれる土器群が、松島湾を中心とする貝塚群の中から出土することで知られていた。加藤は昭和26年に行った塩釜市一本松貝塚の調査をはじめ、七ヶ浜町林崎貝塚や二月田貝塚などから同様の土器片を検出し、大洞Ａ式期に属する製塩土器と推定した。その後昭和54年から、東北歴史資料館によって鳴瀬町里浜貝塚の調査が継続的に行われるようになり、大洞Ｂ－Ｃ式期あるいはＣ１式期の製塩土器が確認されている(註3)。これまでの調査で最古とみられるものは里浜貝塚西畑北地点の断面から採取された小平底のもので、縄文後期後葉の土器片と伴出しており、関東地方と同時期に土器製塩が開始された可能性を示唆する資料ともなっている。また、縄文時代の製塩では「平底が尖底に先行する」との藤沼邦彦氏(註4)の指摘のとおり、大洞Ａ～Ａ′期になってそれまでの小平底から尖底への変化が確認されている。関東では後藤和民氏(註5)が、土器製塩の開始を大規模貝塚の衰退と考え合わせ、干し貝から塩へと貝塚での生産物の変換を推察しているが、仙台湾においても尖底に変化させた技術的な背景として、塩を媒体とする需給関係が大洞Ａ～Ａ′期に確立されたとみることもできよう。

こうした土器製塩は弥生時代になってからも継続して認められ、七ヶ浜町内では東宮浜（鳳寿寺）貝塚や阿川沼貝塚などで製塩土器が検出されている。しかし弥生時代の、深鉢型小底形の製塩土器は古墳時代になって一時途絶し、次に製塩土器が現れるのは、奈良・平安になってからである。底部径の大きい、いわゆるバケツ型やタライ型の製塩土器となって再出現する。このように空白化する古墳時代の様相を背景に、加藤は昭和43年と44年に水浜遺跡の調査を実施している(註6)。

加藤は報告の中で、５基の製塩窯跡と製塩土器片多数を検出し、発見された遺構はいづれも「楕円形の平窯」様式のもので、拳大の小石や凝灰岩の砕屑岩などで叩きならし構築されている、としている。

製塩用の土器については、縄文晩期から平安時代までの編年を試みており、それまで空白と

されていた古墳時代の製塩土器に対して、「コップ状又は胴部に膨らみのある深鉢型のもの、及び多少の胴張りがあり底部で急にすぼめられるもの。底面に木葉・網代・無文のものがある」製塩土器をもって、弥生時代の系統をくみ、かつ「須恵器を伴わない丸底型土師器の坏」と伴出することから、こうした製塩土器及び窯跡を、古墳時代中期に位置付けている。

編年の概要を紹介すると次のようになる。

縄文晩期：口縁部は直立し、底部は尖底。器高15～20cm、器厚３～５cm。

弥　　生：小型浅鉢または小型砲弾型の器形。底径２cm程の平底。

古　　墳：コップ状または胴部に膨らみのある深鉢型。

奈　　良：ビールジョッキ型または円筒型。内外面とも研磨面がなくなる。

平　　安：（前期）器形は変化しないが、器厚が１cm前後のものと薄手のものと共存する。

〃　　：（中期）厚手のものに統一され、鍋状・浅鉢状の器形のものも出現する。

〃　　：（後期）大型鍋状・平鍋状のものに変化する。全体量が減少し、鉄釜への移行過程と考えられる。

この報告には遺物の実測図がないため、詳細について不明な点が多いが、加藤は農業生産遺跡だけが弥生式文化時代、古墳文化時代、歴史時代と一貫して流れる遺構を示してきたが、「新たに製塩土器による塩生産の遺構をも加えることができた」と結論付けている。

出土遺物について

縄文・弥生土器

出土した縄文土器は、二月田貝塚から出土している11類土器に類似しており、大洞AおよびA′式に比定することができ、伴出の製塩土器も同時期と考えられる。

弥生の土器片は列点文を施しているものがみられることから、桝形囲式期とみてよいであろう。

土師器・須恵器

No.93の坏を除き、すべてが平底でロクロ使用による成型である。93は体部外面にわずかながら段を有しており、段を境に下部はヘラケズリが施されている。底部は平底風で国分寺下層式と考えられる(註７)。須恵器の坏はほとんどが回転ヘラ切りの底部のもので、ヘラ削り調整の施されていないものが多い。

製塩土器

製塩土器底部の出土量は灰原が最も多く、次に灰層となっている。タイプ別ではⅠ類４ｂのものが一番多く、次に多いのがⅢ類２ｂで、Ⅱ類１ｂ、Ⅲ類４ｂ、Ⅲ類１ｂの順となっている。口縁部の出土レベルは底部と同じような状況を示し、タイプは口唇部が平坦で薄く、直立して立ち上がるⅠ類１ａが最も多い。層位的に顕著な規格性が認められず、単に出土数量から口縁部と底部の組み合わせを考えると次のようになる。

（底部）Ⅰ類４ｂ→（口縁部）Ⅰ類１ａ

〃　Ⅲ類２ｂ→　〃　Ⅰ類３ｂ

〃　Ⅱ類１ｂ→　〃　Ⅱ類１ｂ

このことから、底部厚が1cm以下で胴部よりも厚く、底部縁は丸みをもって内反し、胴部から垂直に立ち上がって口縁部付近で薄くなる。そして口唇部が平坦になる製塩土器が主体となっていたと考えられる。

遺構について

竪穴住居跡

確認された3棟のうち遺物の出土しなかったＳＩ－03をのぞき、ＳＩ－01とＳＩ－02とでは出土遺物から時代差が認められる。ＳＩ－01は土師器が主体となっており、坏の切り離しは回転糸切りによるものである。1点のみ出土している須恵器坏は、岡田・桑原両氏の須恵器坏の分類では9－a類に相当すると思われ、共伴する土師器坏は表杉ノ入式で9世紀後半から10世紀ごろの年代が考えられる。ＳＩ－02では土師器の甕と須恵器及び須恵質の坏が主体となり、坏の切り離しは回転ヘラ切りとなっている。

確認された3棟の竪穴住居跡は、床面での標高が5cmから6cmと低い位置にあり、加えて汀線に近いことから、継続的に使用されたものではなく、製塩の行われていた時期に限られていたと考えるのが妥当であろう。

製塩炉

タイプの異なる炉が認められたが、すべて土器製塩に用いられた炉と考えられる。

このタイプの相違は、確認層が12号のみ5層であり他は灰層であることから、時間的な差はあまり認められず、用途による違いと思われる。製塩において、火を使用する工程では煎熬と精製段階の焼塩とである。炉の形態は平面プランから、円形及び楕円形のＡ～Ｃタイプのものと、長楕円形のＤタイプに分けられる。構築状況でも前者は平面的であるのに対し、後者は周辺を凝灰岩などで壁体としていることなど、明らかに違いが認められる。遺物でもＤタイプの3号及び4号炉の製塩土器が、出土点数は少ないが比較的薄手であり、2号炉でも同じ傾向が見られる。こうした状況から水浜遺跡では、焼塩の工程段階を裏付けるものが確認できないものの、使用する炉が意識的に区別されていたと推察され、香川県坂出市なかんだ浜遺跡で発見されている炉跡同様、壁体部をもつＤタイプの炉には天井部が構築されていた可能性もあることなど、焼塩の存在を窺わせている。

以上のように発見された遺構と遺物は、縄文晩期から弥生時代のものと奈良・平安時代のものであって、古墳時代に比定できるような遺物は確認されなかった。今回の調査では、水浜遺跡が古墳時代製塩遺跡の類例とはなりえないといえる。松島湾における土器製塩の様相は、依然として弥生時代以降途絶したままであって、こうした背景には、これまでも幾つか問題点として指摘されているが、次の2点に要約される。

1. 古墳時代の製塩遺跡が確認されていないだけであって、土器製塩は継続して行われていた、とするものである。
2. 弥生時代以降土器製塩は中断し、奈良時代になって若狭湾系の製塩技術が導入され製塩が再開した、とするものである。

1であれば、今後古墳時代の遺構遺物が検出されるであろうが、2の場合は中断する理由は何か、その間どのようにして塩を入手していたのか等が、疑問点としてのこる。

縄文～弥生と連続する貝塚や集落に、製塩土器が認められる傾向があるものの、弥生～古墳と連続する遺跡そのものが少ないことなど、社会的な変化も考えられる。

また縄文晩期の製塩が、物との交換手段に用いるといった消費地のエリアをもっていたのに対し、弥生時代の製塩は稲作を中心に展開されたとすると、自家生産的であり消費的なものとみることができる。分業化や専業化が進んだとされる古墳時代に、上信越や関東方面に組織化された塩業の集団が出現した可能性は十分にある。その供給先のひとつに東北も含まれ、より良質の精製された塩が搬入されるようになって、それまで行われていた松島湾の製塩が、衰退したことも考えられる。

さらに、奈良時代の製塩再開の時期や技術的な解明、製塩土器そのものの製造地や土器製塩の終焉時期、鉄釜や塩田とのかかわりなど、具体的な問題も残されたままである。製塩の遺跡は汀線近くにあるため、人為はもとより自然環境によっても消滅しやすい状況にある。早い段階での調査解明が望まれよう。

註1. 近藤義郎「土器製塩の研究」1984. 青木書店などがある

註2. 加藤孝　地域社会研究　3・4　1952.

註3. 岡村道雄「里浜貝塚Ⅰ」東北歴史資料館資料集5　1982.

註4. 藤沼邦彦「縄文土器大成4、晩期」1981. 講談社

註5. 後藤和民「加曽利貝塚の生産と交流」古代の日本4. 1986. 中央公論社

註6. 加藤孝　「東北に於ける古墳文化時代製塩遺構の研究」

註7. 岡田茂弘・桑原滋郎「多賀城周辺における古代坏形土器の変遷」多賀城跡調査研究所研究紀要Ⅰ　1974.

V．ま と め

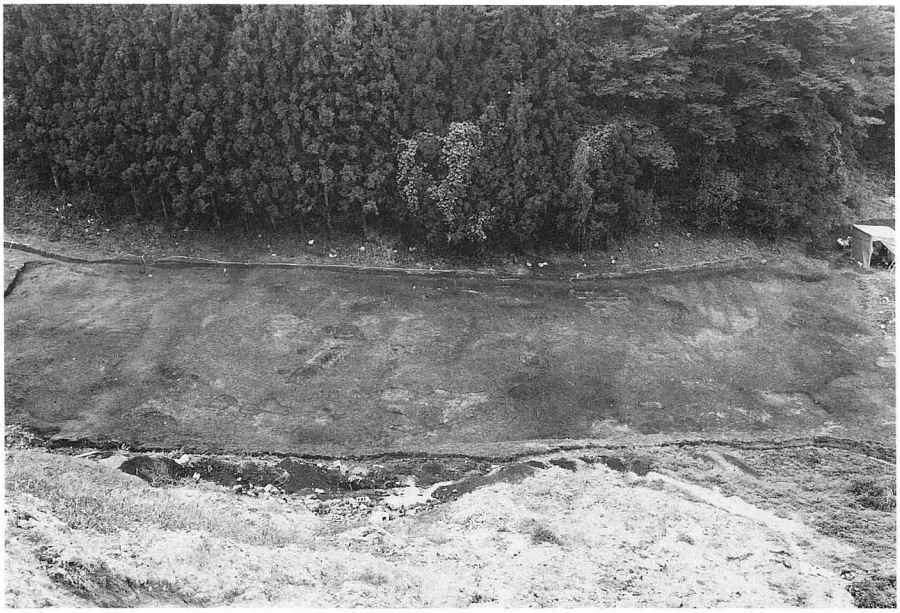
1．水浜遺跡は、検出された遺物から縄文時代晩期より弥生時代、そして奈良・平安時代にかけて土器製塩の行われた遺跡である。

2．製塩に用いられたと考えられる炉跡は、地面を掘り込んだもの、石敷きのもの、凝灰岩をブロック状に切り出し、長楕円形に配したものとに大別された。

3．土器製塩には、採鹹、煎熬、焼塩等の作業工程があったと推察されているが、今回確認された凝灰岩によって構築されている炉跡は、類例がないため確証はないが焼塩に用いられた可能性をもつものである。

4．竪穴跡が3棟確認されたが、居住用、作業場用、休憩用など、その使用目的や性格を考えると通年使用されたものではなく、製塩の行われた時期に限られていたとするのが妥当であろう。

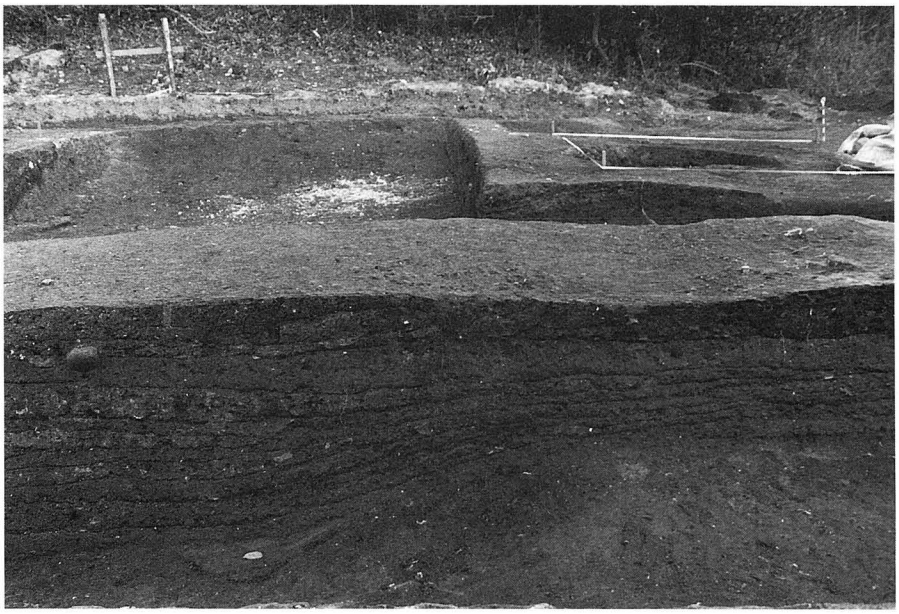
5．掘立て柱遺構は、生産された塩を一時的に保管しておく高床式の倉であったと思われる。



調査地区全景

調査地区全景

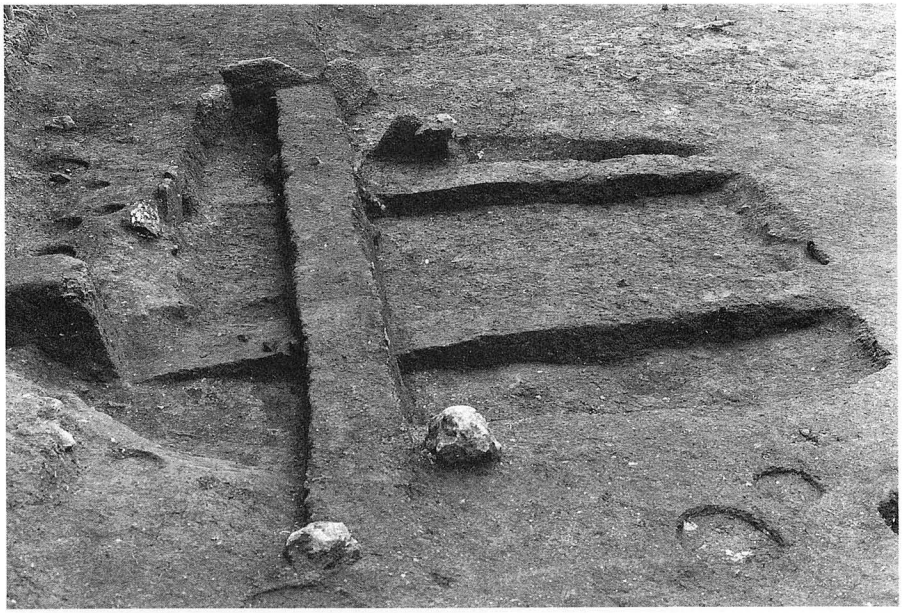
Cラインセクション



Cラインセクション

Aラインサブトレンチセクション

SI—01



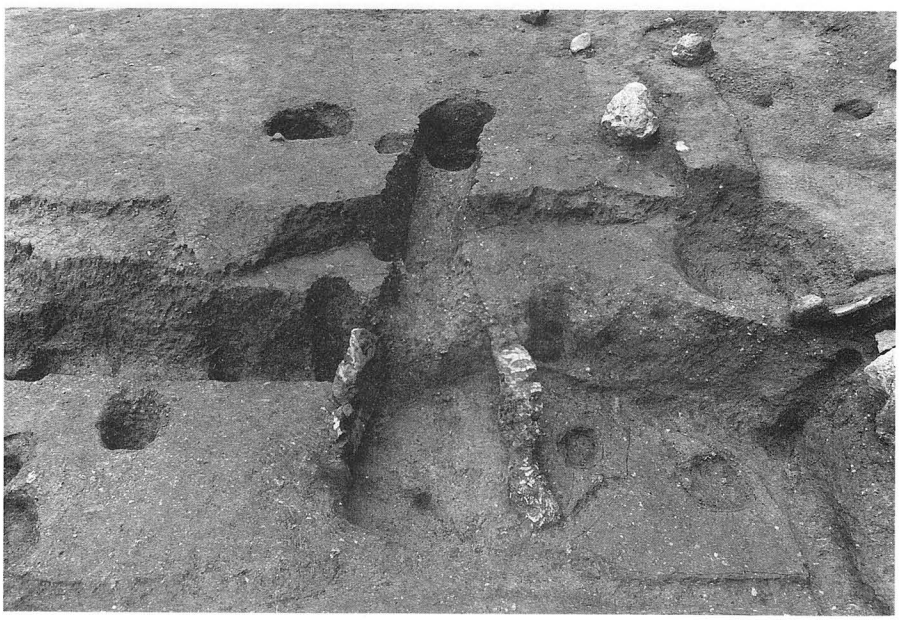
S Ⅰ—01・4号製塩炉

S Ⅰ—01・4号製塩炉

S Ⅰ—01

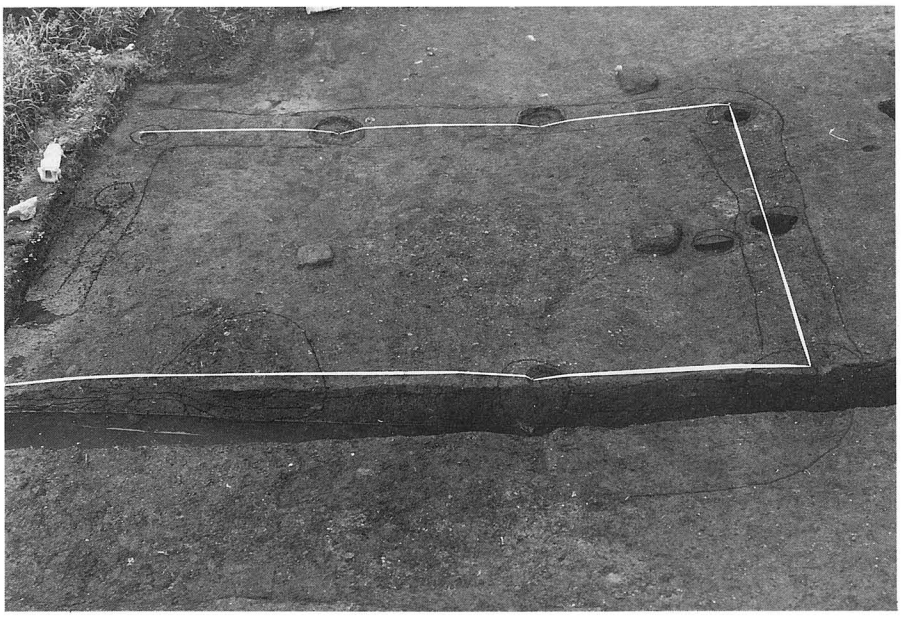
ＳＩ―02・４号製塩炉

ＳＩ―02カマド部



ＳＩ―02カマド部

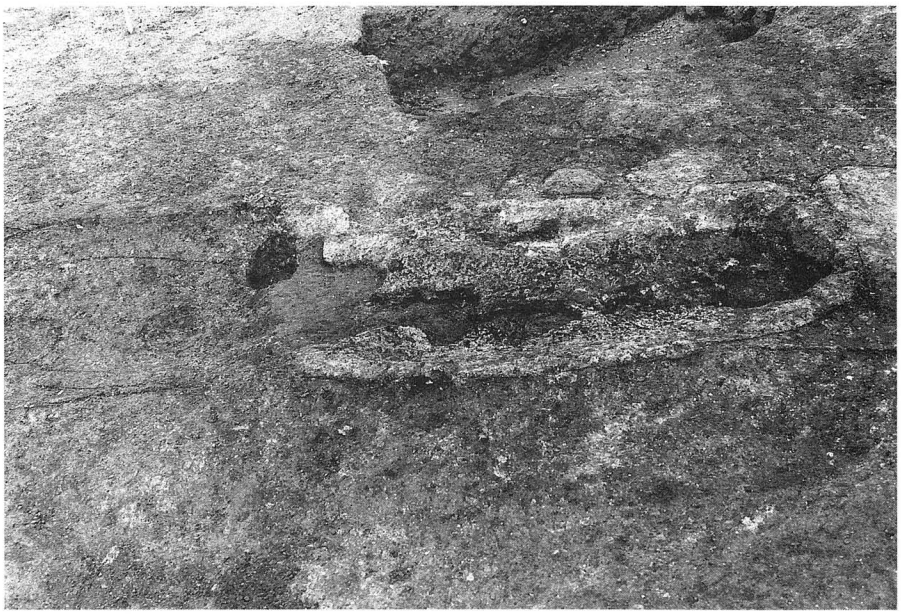
S I —03・3号製塩炉



S B —01

1号製塩炉

1号製塩炉

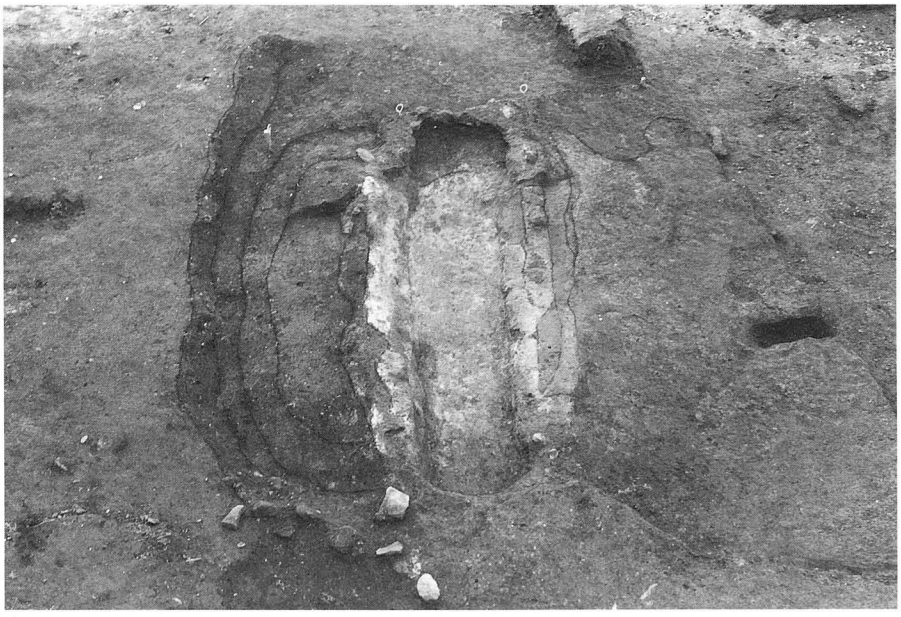


2号a製塩炉

2号b製塩炉

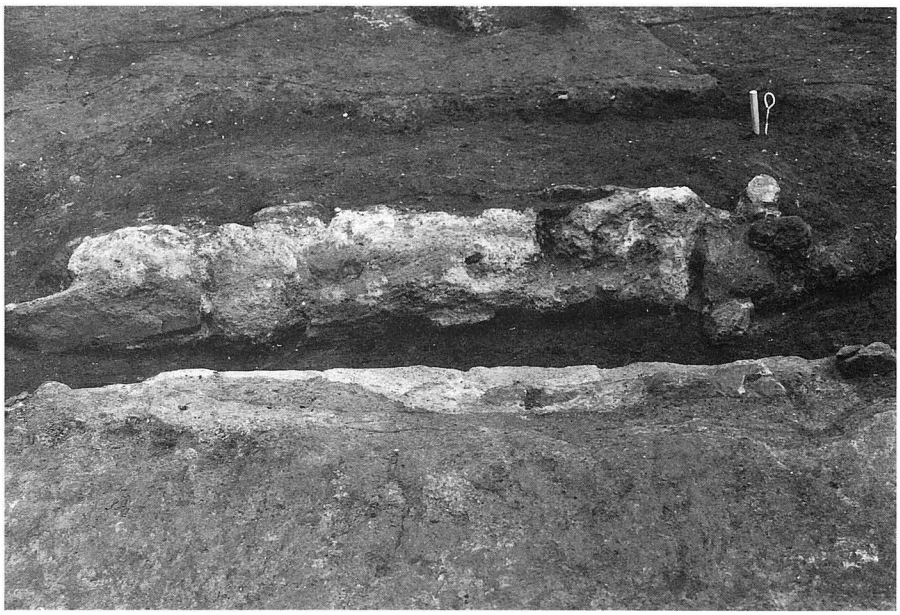
2号b製塩炉

2号炉セクション



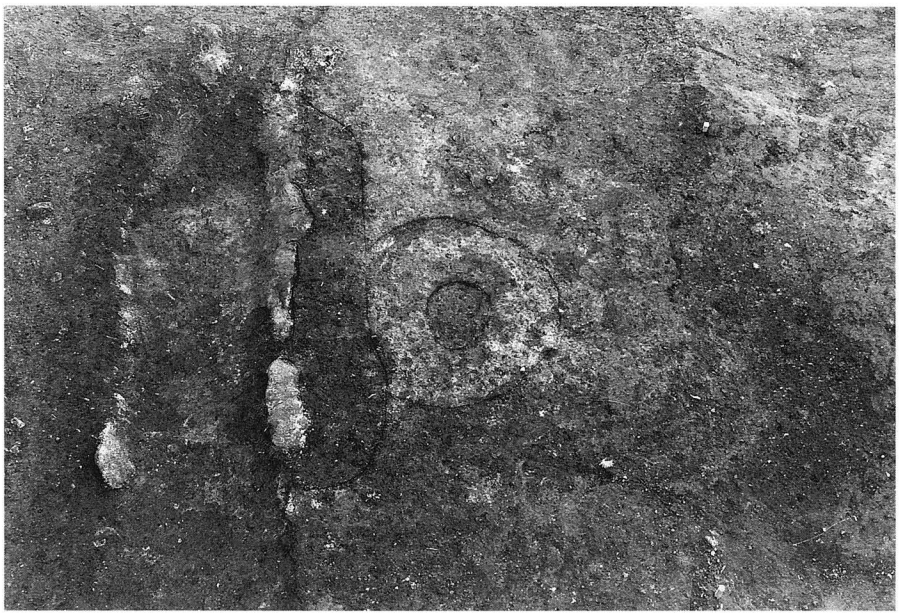
3号製塩炉

3 号製塩炉

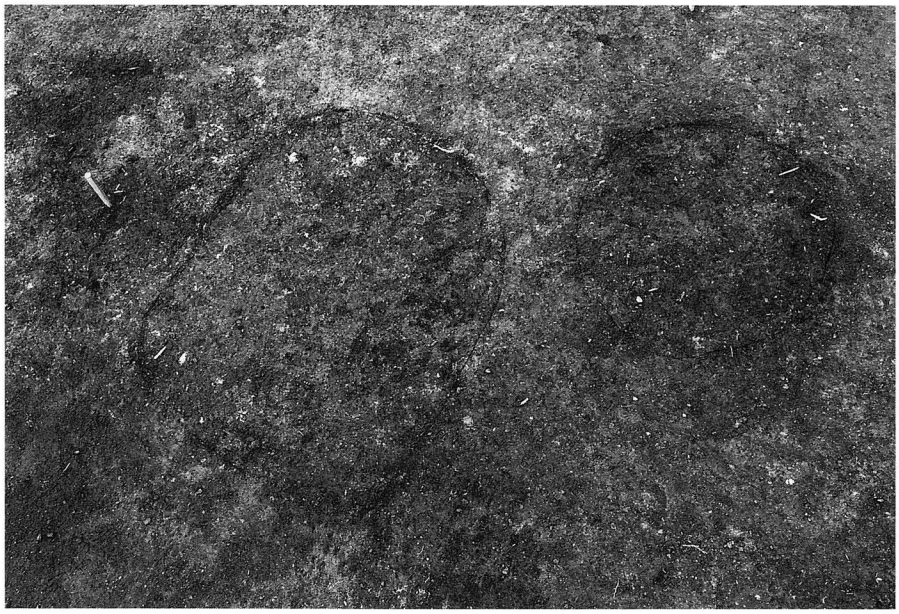


3 号製塩炉

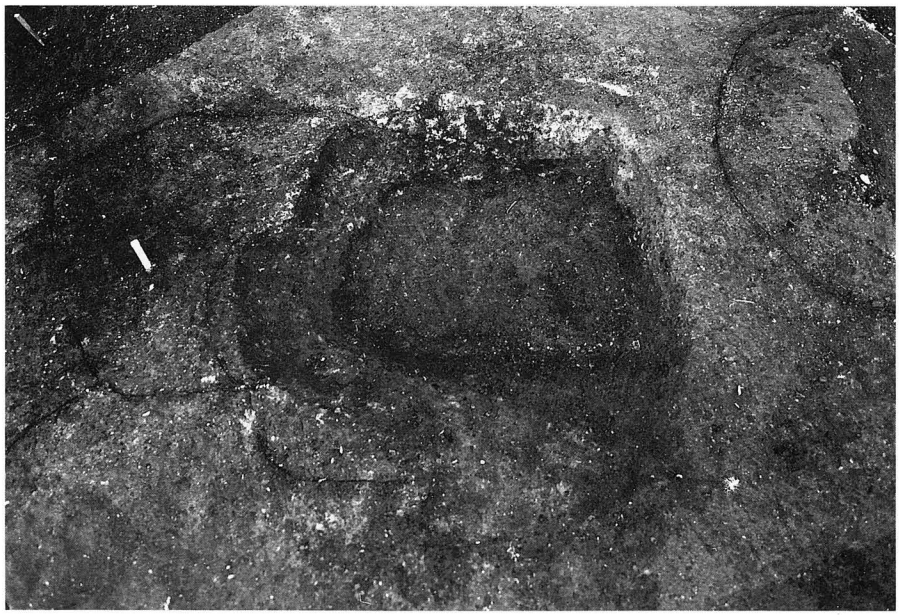
3 号製塩炉



6 号製塩炉・13号製塩炉

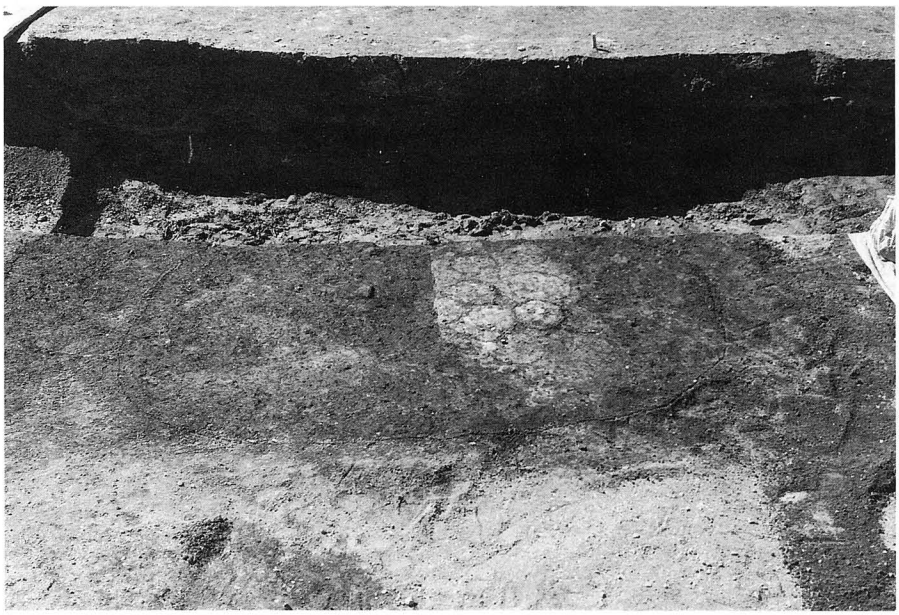


8 号製塩炉・ＳＫ―01

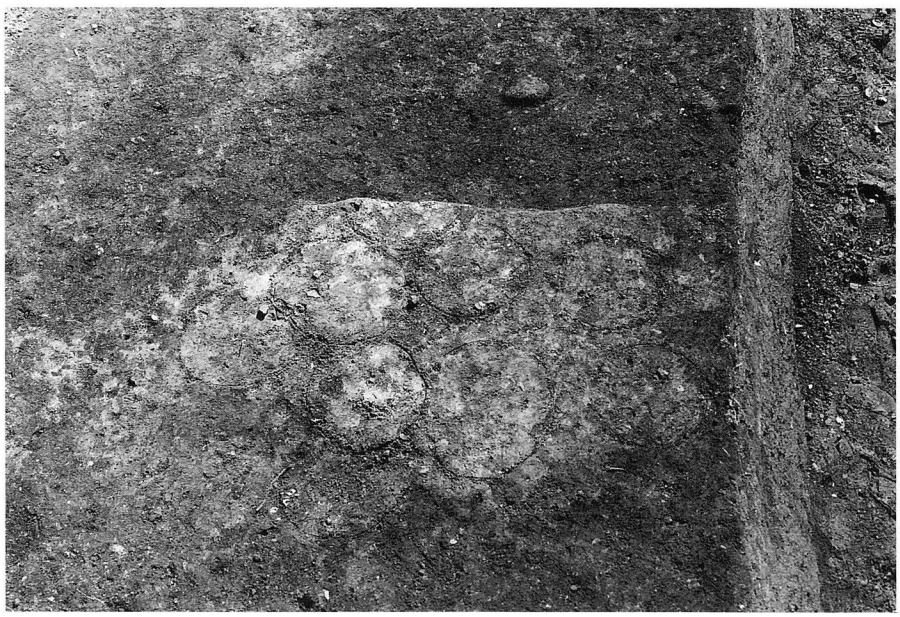


8 号製塩炉・ＳＫ―01

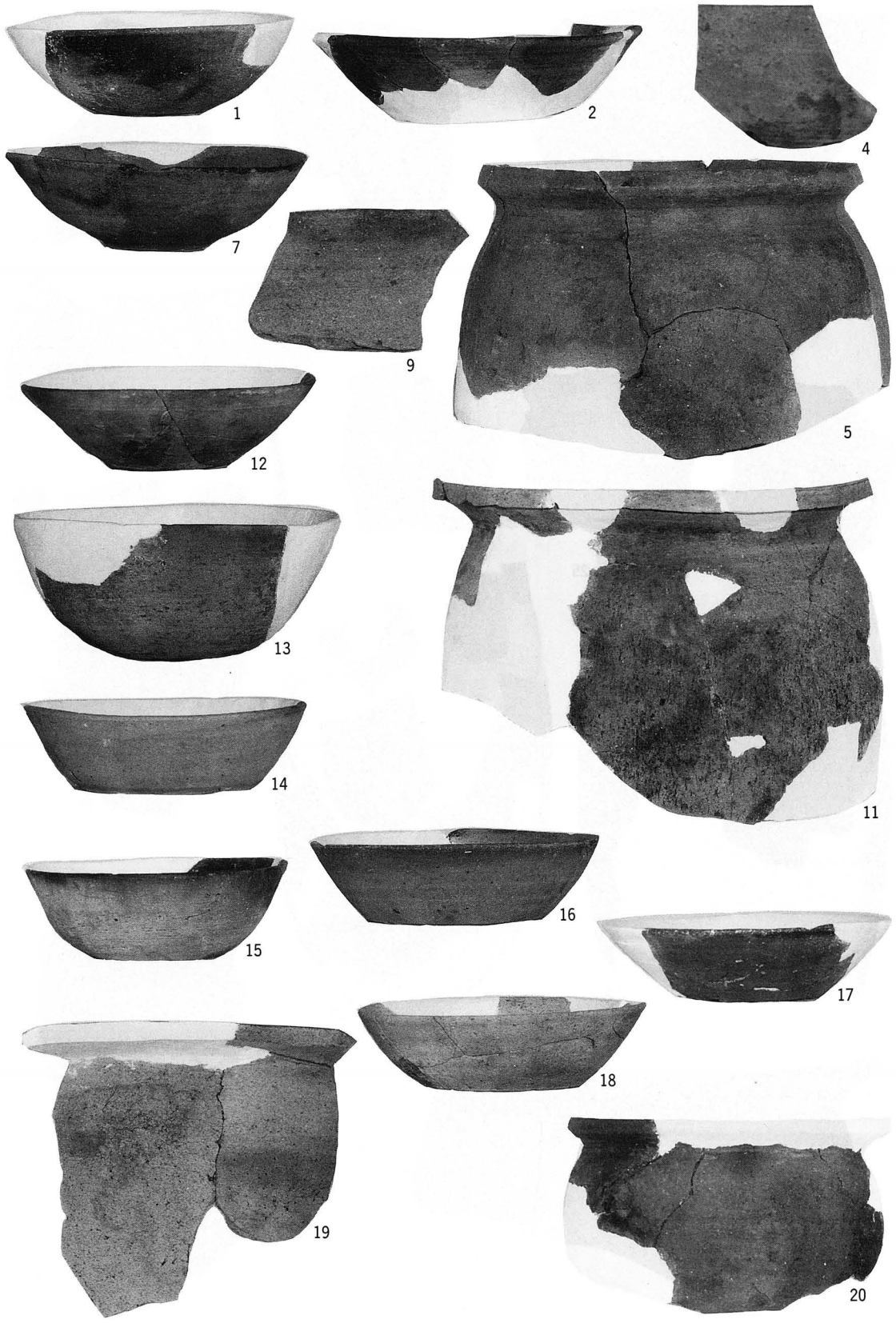
9 号製塩炉

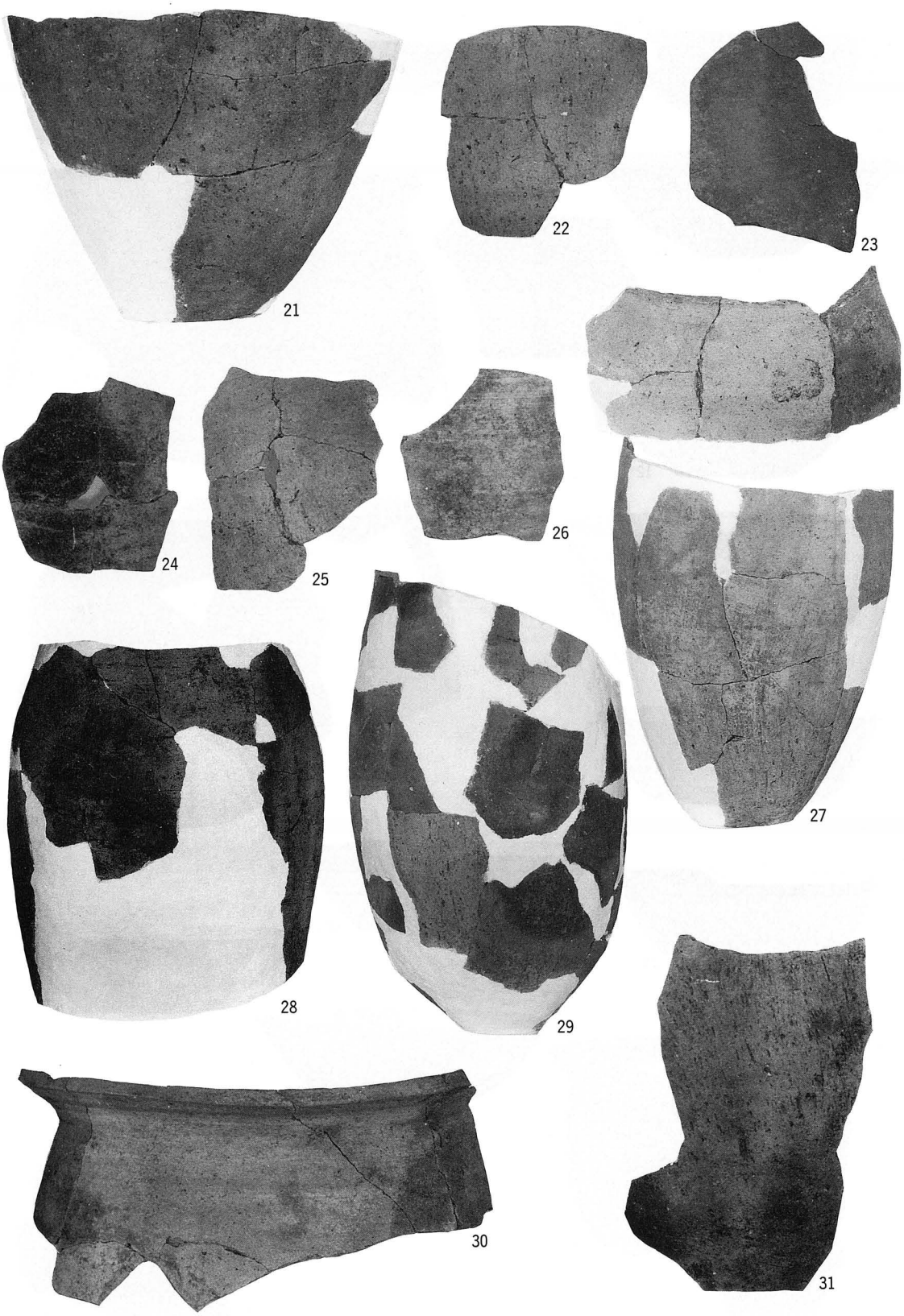


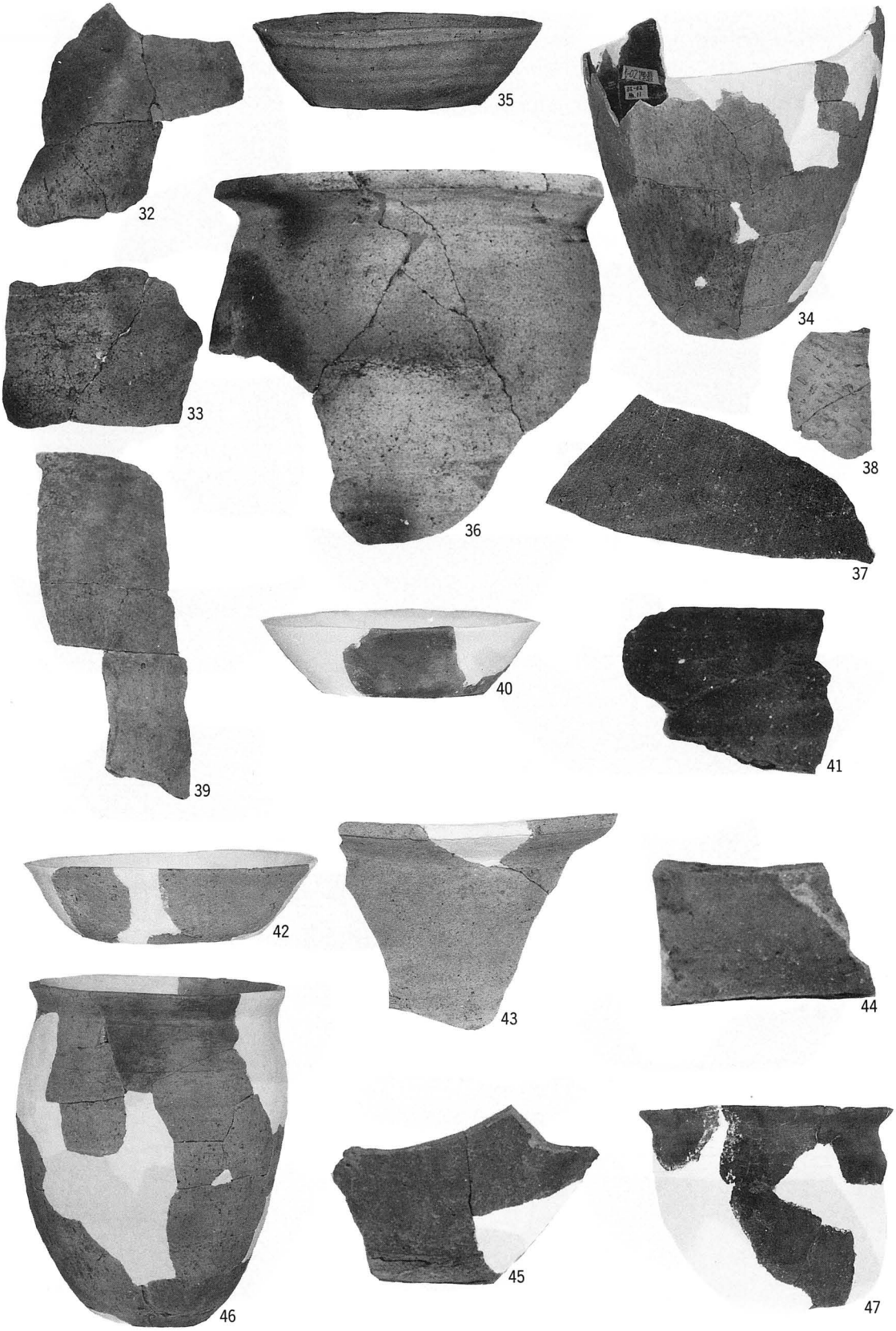
11号製塩炉

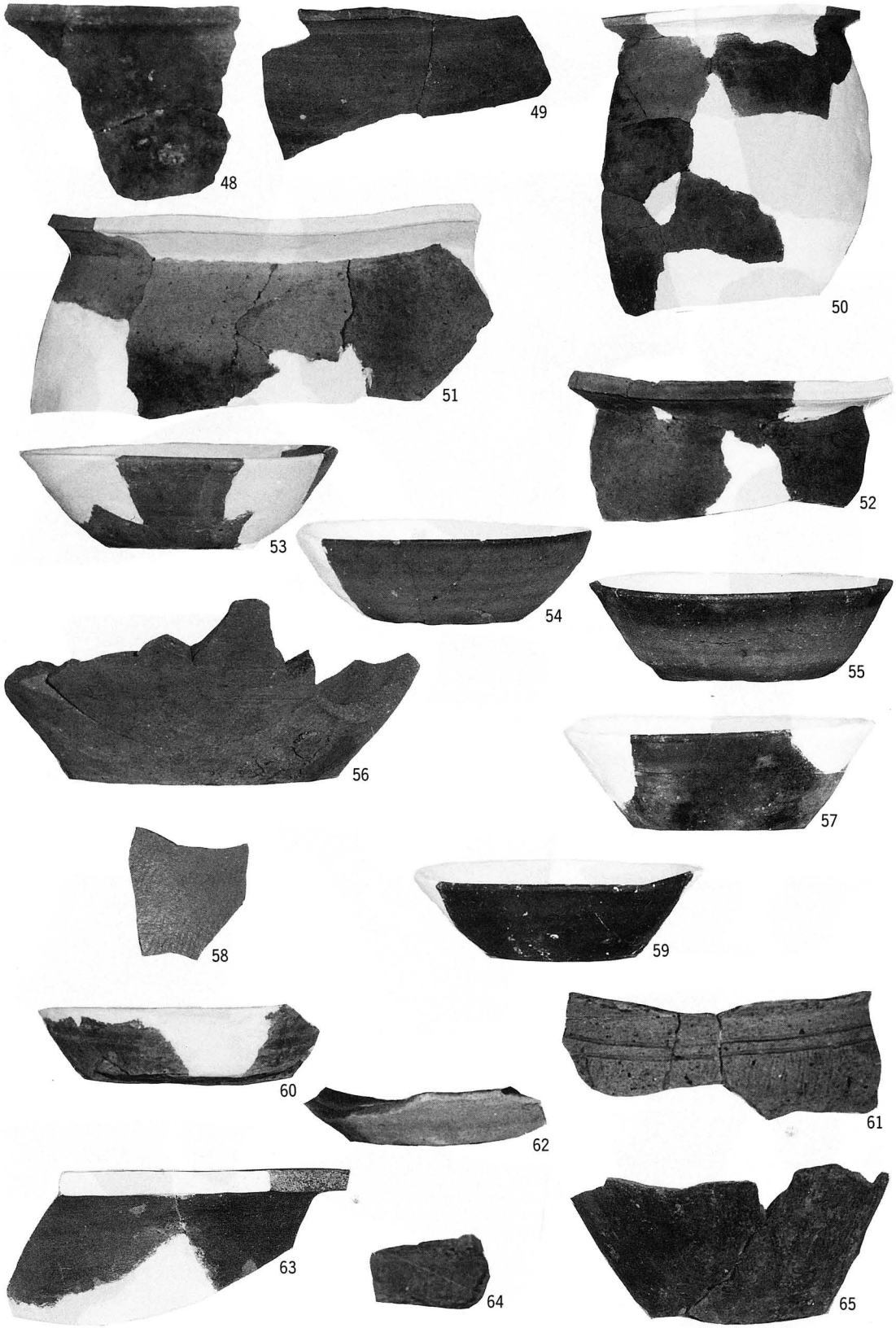


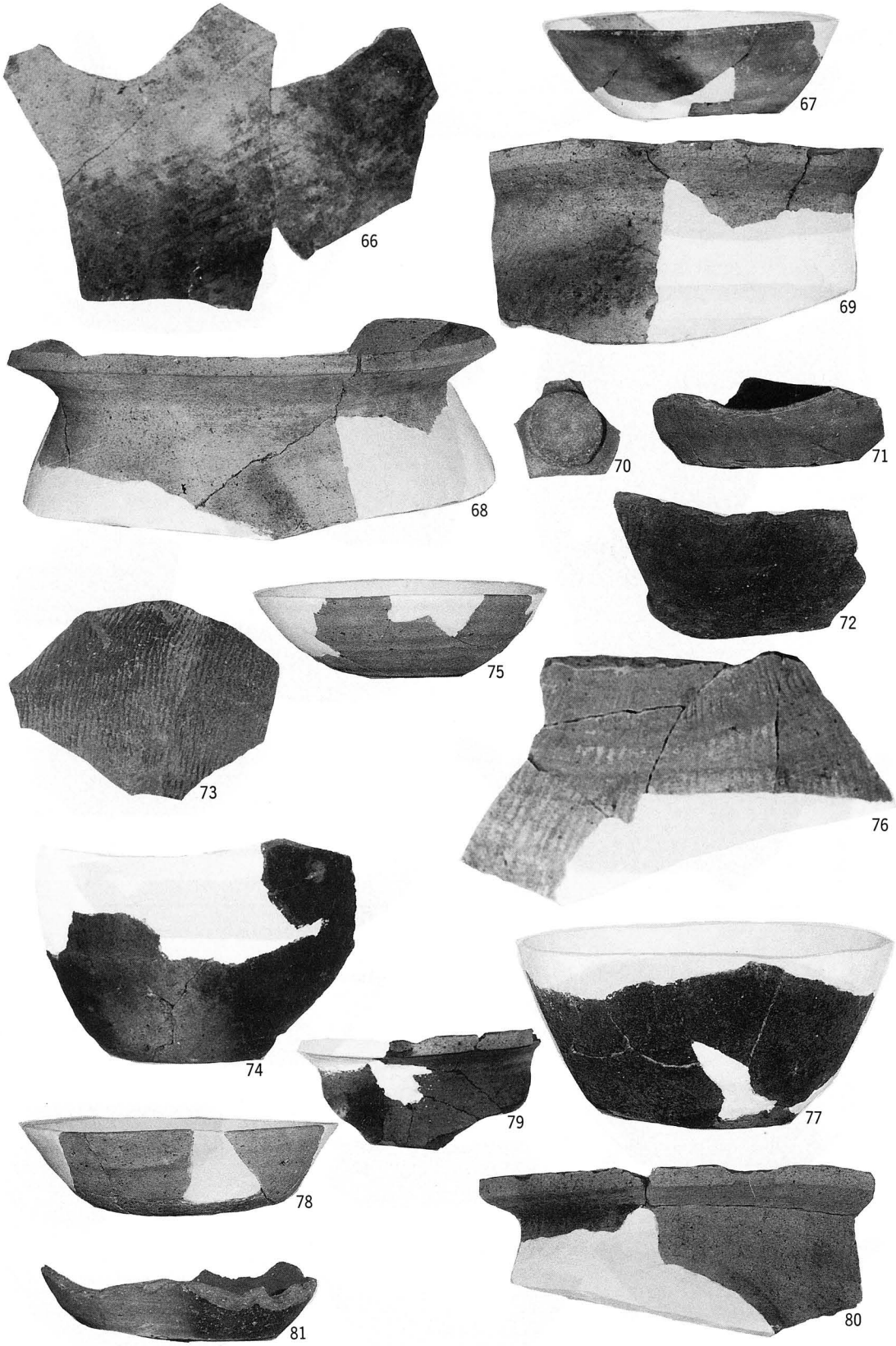
11号製塩炉


1
2
4
7
9
5
12
13
11
14
15
16
17
18
19
20

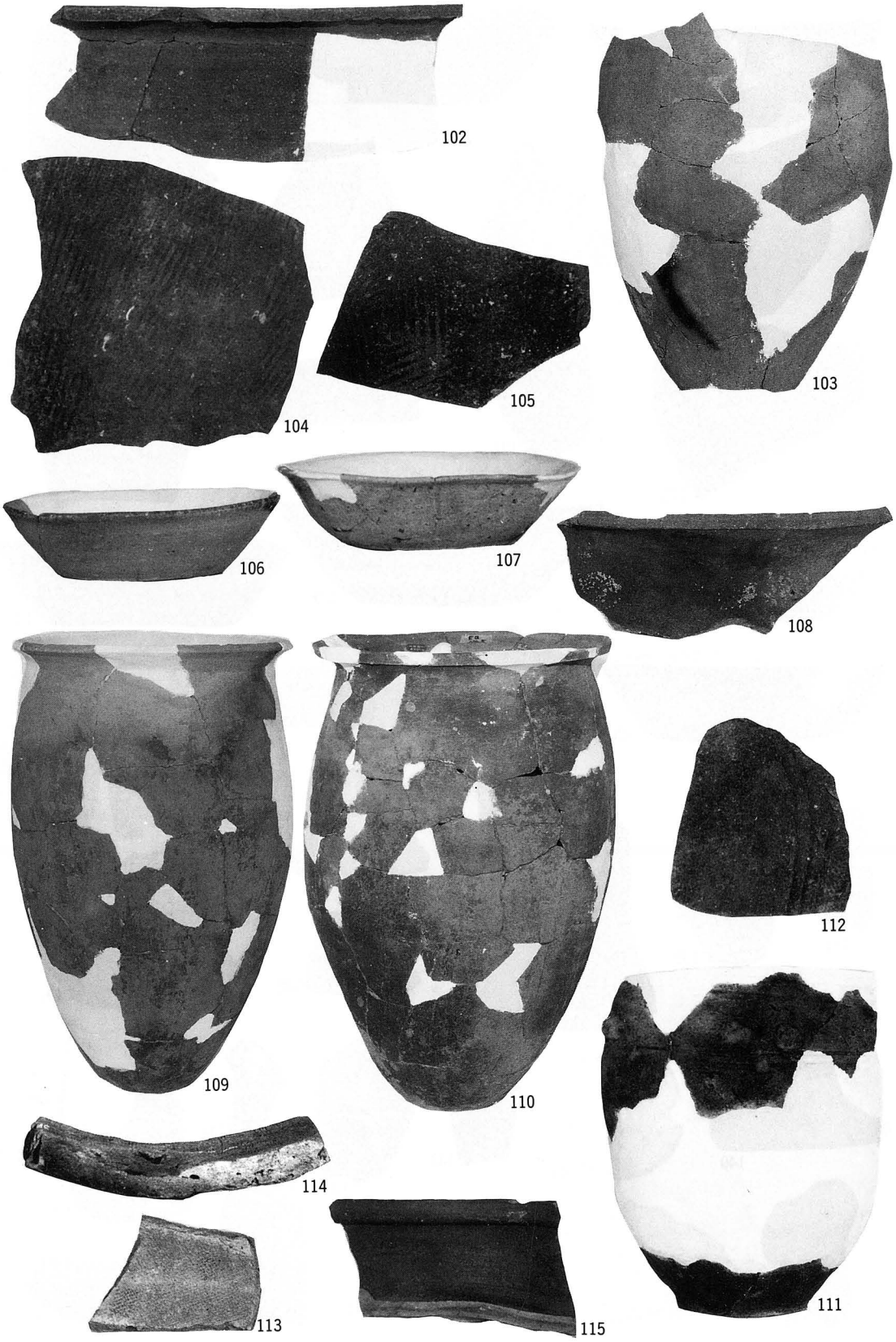

21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31

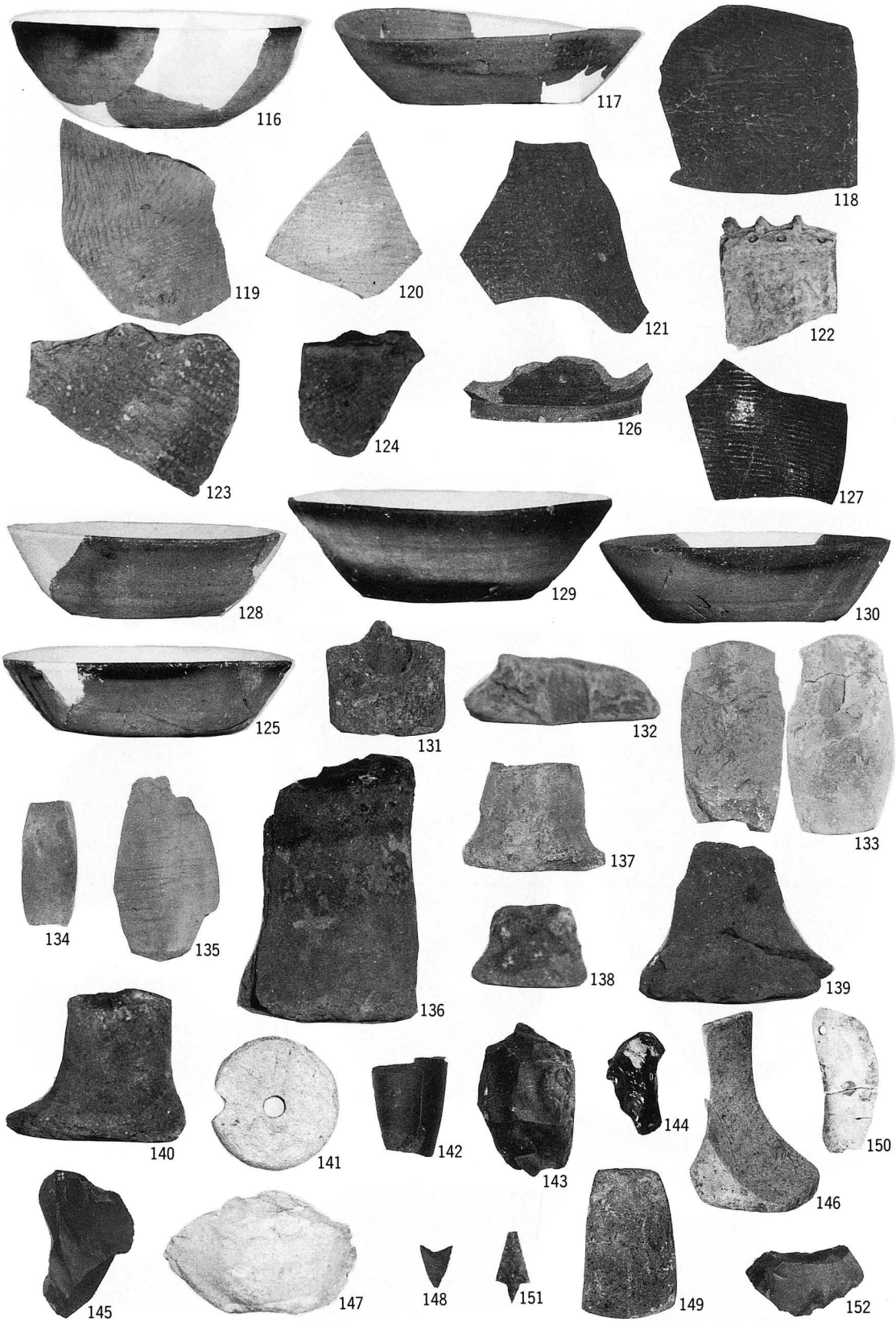

32
35
34
33
36
38
37
39
40
41
42
43
44
46
45
47

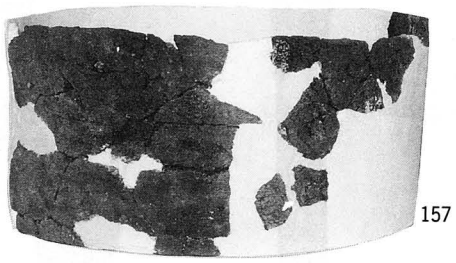

48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65

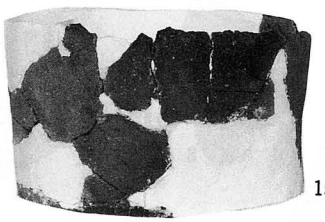

66
67
69
68
70
71
72
75
73
76
74
77
79
78
80
81

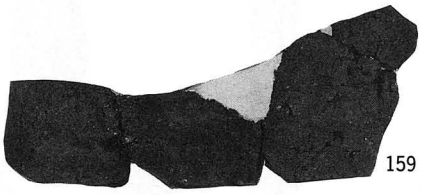
82
83
84
85
87
86
88
91
89
90
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101

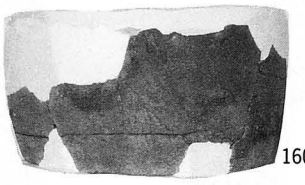

102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115


116
117
118
119
120
121
122
123
124
126
127
128
129
130
125
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
146
150
145
147
148
151
149
152

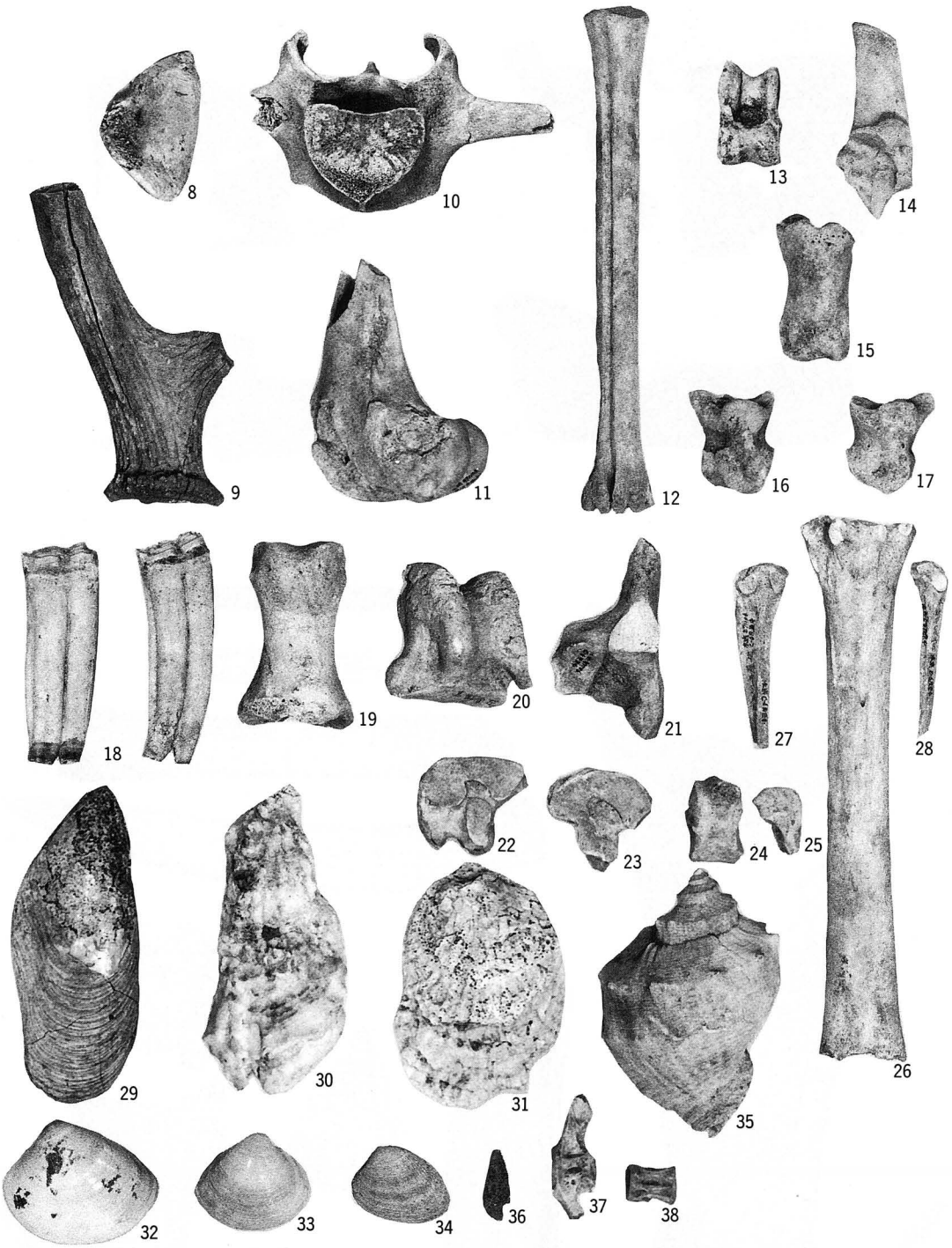

157


158

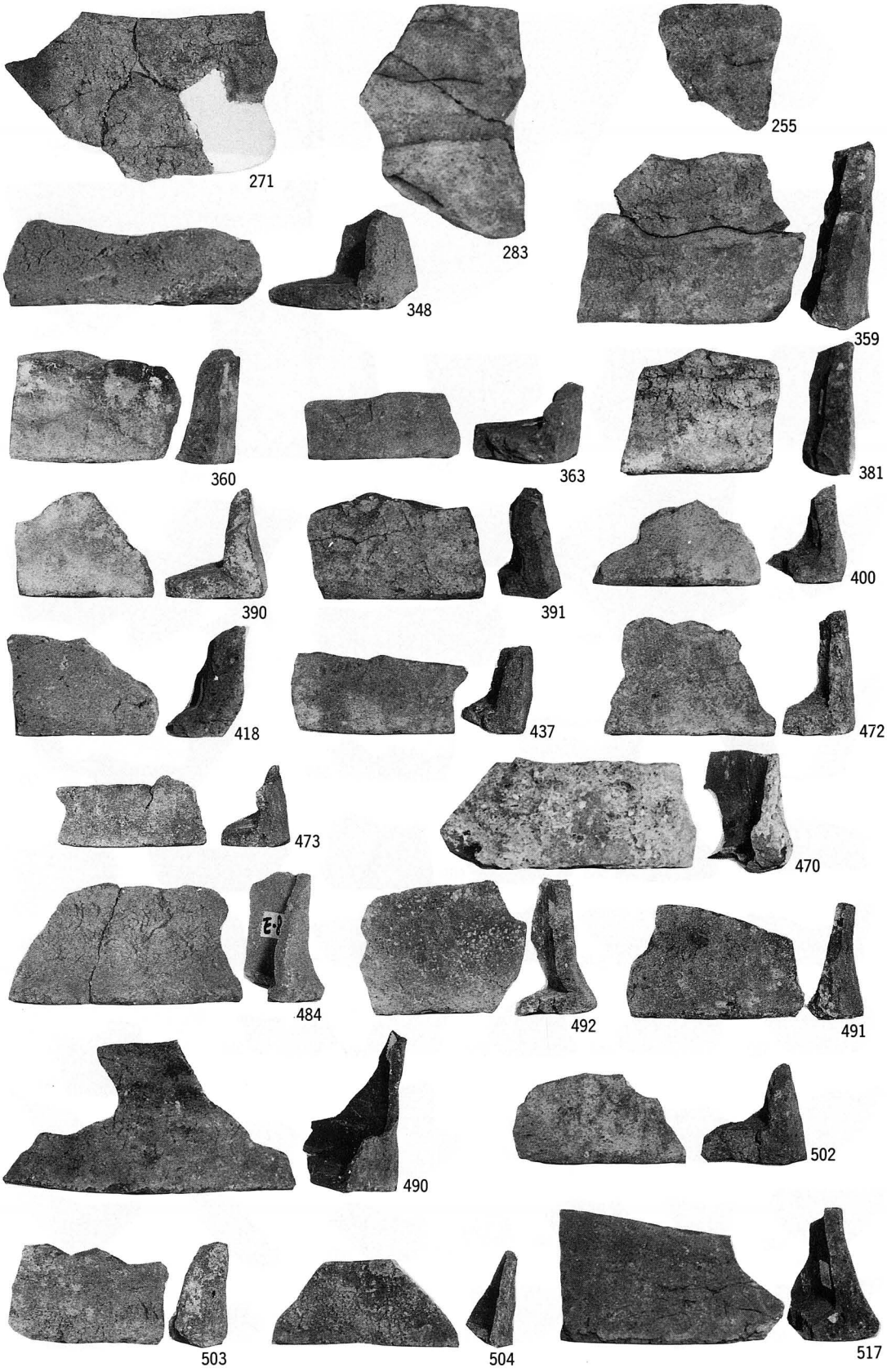

159

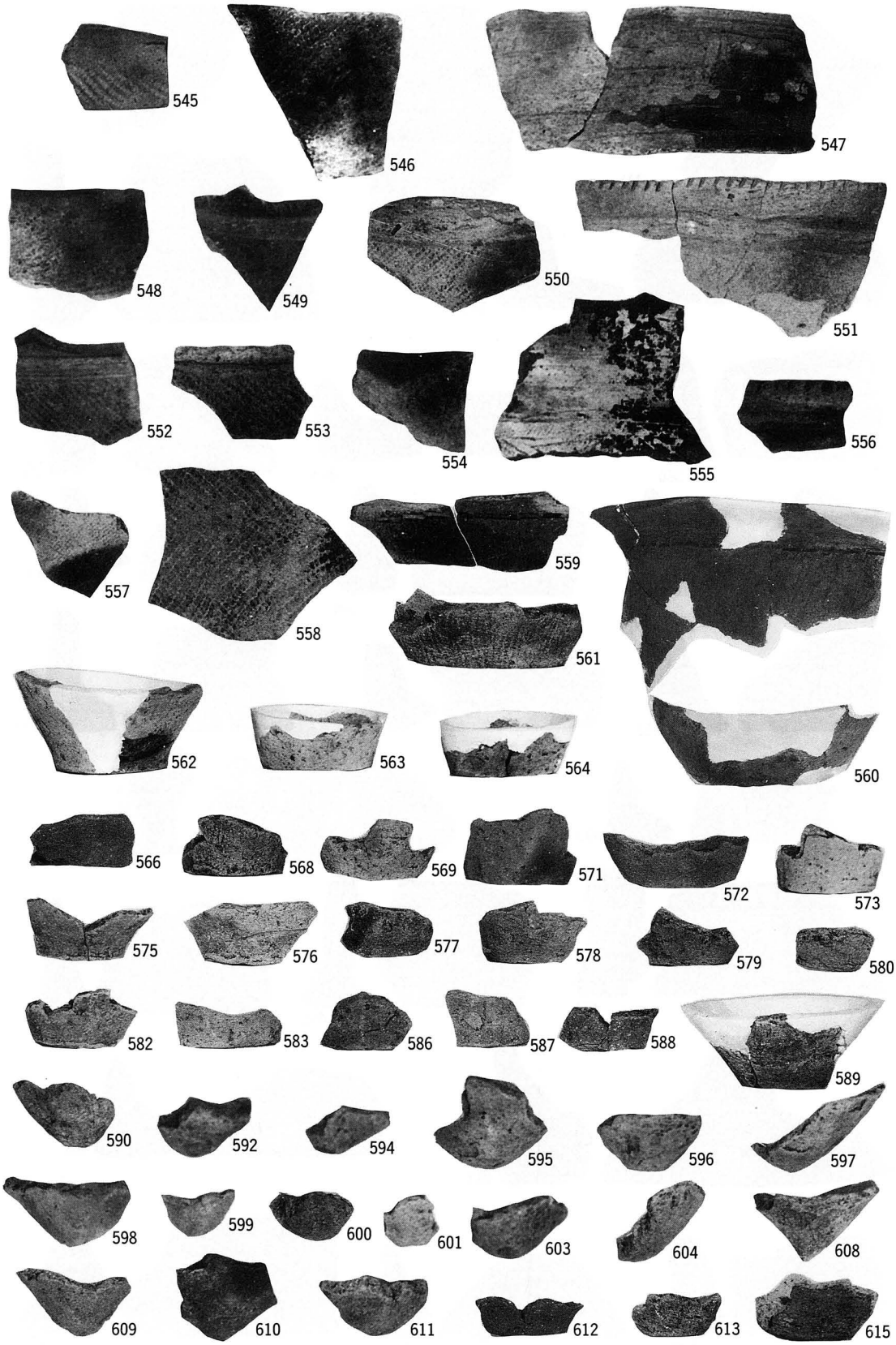

160

153
154
155
156
1
2
3
4
5
6
7



1 種不明肩甲骨　2 種不明獣骨　3・4 種不明頭部骨　5 種不明獣骨　6 種不明獣骨　7 種不明肋骨
シカ　8 角坐骨　9 鹿角　10 腰椎骨　11 大腿骨　12 中足骨　13 距骨　14 踵骨　15 基節骨　16・17 指骨
ウマ　18 歯骨　19 基節骨　20 距骨　21 踵骨　22～25 足根骨一括　26 中足骨　27 内側中足骨　28 外側中足
骨　29 イガイ　30 マガキ　31 オオツタノハ　32 ハマグリ　33 シオフキ　34 アサリ　35 アカニシ　36 ウミ
ニナ　37・38 マダイ 椎骨


271
283
255
348
359
360
363
381
390
391
400
418
437
472
473
470
484
492
491
490
502
503
504
517


545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
561
562
563
564
560
566
568
569
571
572
573
575
576
577
578
579
580
582
583
586
587
588
589
590
592
594
595
596
597
598
599
600
601
603
604
608
609
610
611
612
613
615

七ヶ浜町文化財調査報告書　第8集

水　浜　遺　跡

平成4年3月31日　発行

発　行　七　ヶ　浜　町　教　育　委　員　会
（〒985）宮城県宮城郡七ヶ浜町東宮浜字丑谷辺5－1
TEL　022（357）2111

印　刷　今　野　印　刷　株　式　会　社
（〒983）仙台市若林区六丁目西町4－5
TEL　022（288）6123